

WilComm

WilComm/400 Ver. 8.03 & WilComm 4.8

Training Manual Lesson-6

フォームデザイナーの基礎

Manual No - TRN056 (Last Update 2012/06/20)

For Forms Designer Ver. 4.0.0.72 or Higher

WilComm V8.03 & 4.8

© Copyright 2012



本解説書は、フォームデザイナーを初めてお使いになるフォーム設計者向けトレーニング・マニュアルです。フォームデザイナーは、ウィルコムが、ホストのプールデータを配信する際に使用するオーバーレイフォームを作成します。Lesson-6 では、フォームデザイナーの基本的操作について解説しています。

(目的)

1. フォームデザイナーの操作方法を理解する。

(目次)

1. ウィルコム・オーバーレイの概説	3
2. フォームの作成	4
2-1 目標	4
2-2 フォームデザイナーの起動	6
2-3 全体レイアウトの定義	7
2-4 画像データの取り込み	9
2-5 固定値（テキスト情報）の定義	12
<<補足>> 固定値（テキスト情報）の定義のコツ	17
2-6 変数の定義	20
単一フィールド変数（編集ツール）の定義	20
<<補足>> 単一フィールド変数（編集ツール）に複数行を出力する方法	27
テーブルフィールド変数（テーブルツール）の定義	29
必要な列を追加する	31
不要な列を削除する	32
必要な行を追加する	33
不要な行を削除する	34
列のプロパティ	35
行の高さを均等	39
行の高さを個別に調整	40
列の幅を均等	42
列の幅を個別に調整	43
グリッドライン	46
列の境界線	49
行の境界線	54
行のプロパティ	59
テーブルフィールド変数の仕上げ	62
<<補足>> セル単位のプロパティ	64
バーコード変数（バーコードツール）の定義	65
2-7 作成したフォームの保管	71
2-8 作成したフォームのレイアウトの確認（フィルターモード）	74

[1. ウィルコム・オーバーレイの概説]

ウィルコムには、オーバーレイ機能があります。ホストのプールデータを、あらかじめを用意したオーバーレイフォームにマージして、ファックス / メール / 印刷 / 電子保管といった配信を行います。

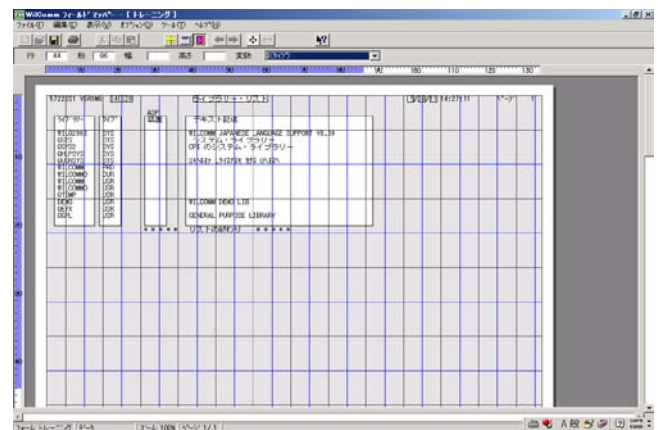
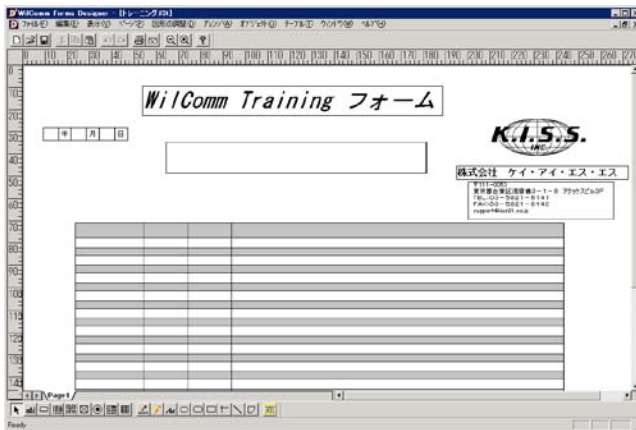
フォームデザイナーは、オーバーレイフォームを作成するためのデザインツールです。レイアウトフリーな電子的フォーマットを作成し、ホストのプールデータをそのフォーム上にマージすることで、表現豊かな出力を実現します。

Lesson-6 では、オーバーレイフォームを実際に作成してみましょう。

作成したオーバーレイフォームに対して、ホストのプールデータをどのように配置するかは、Lesson-7（フィールドマッパーの基礎）で体験していただきます。

<オーバーレイフォーム Lesson-6 >

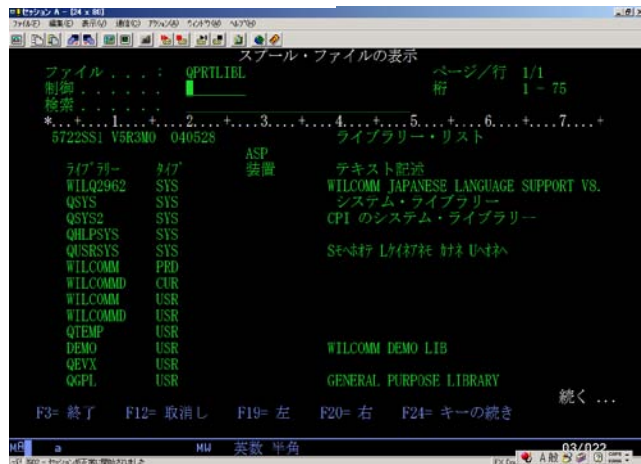
<オーバーレイフォームへのマッピング定義 Lesson-7>



<スプールデータ>

<マージ処理>

<配信結果>

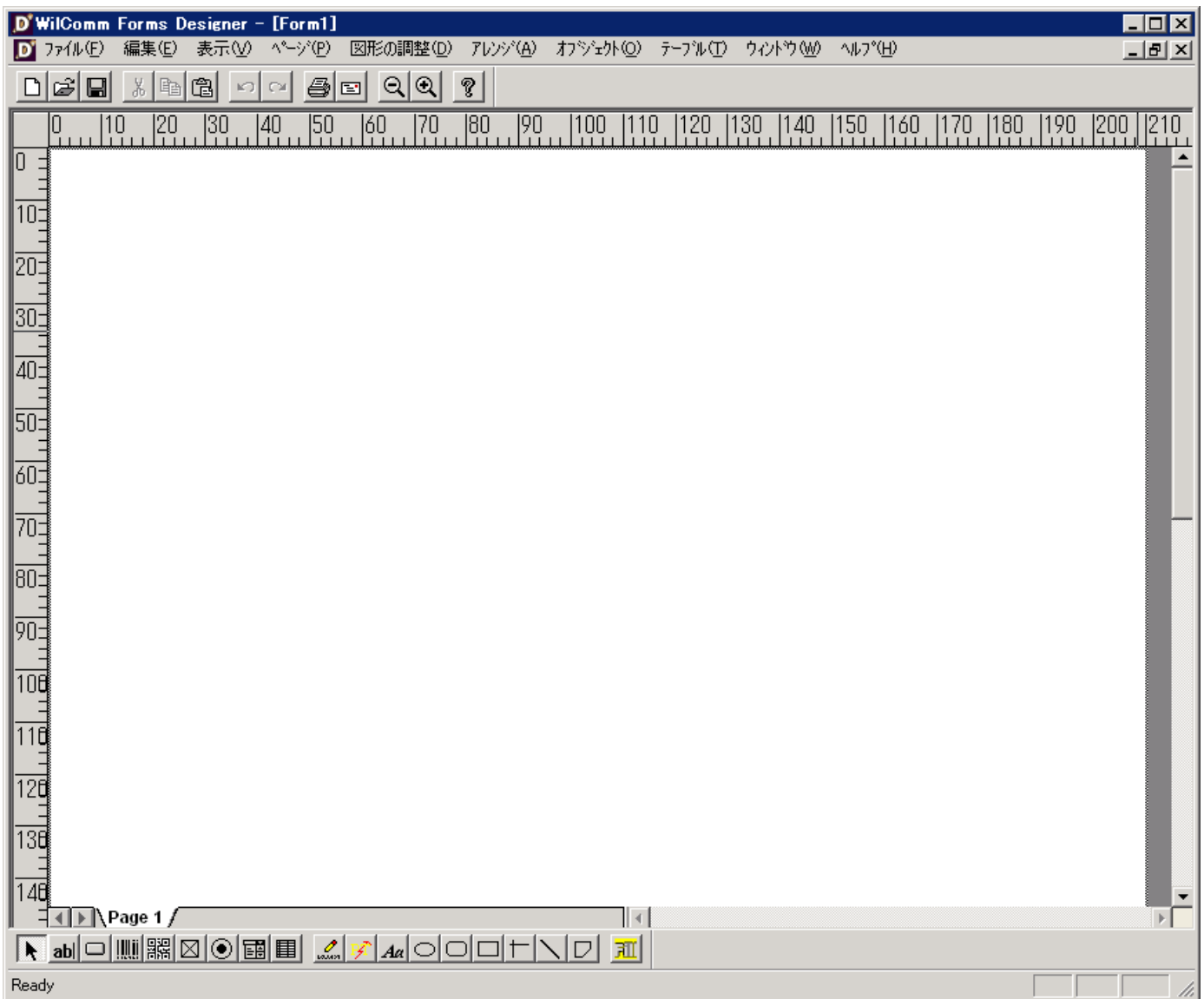


2-2 フォームデザイナーの起動

PCのデスクトップにある下記アイコンをダブルクリックして、フォームデザイナーを起動します。



フォームデザイナーが起動します。



2-3 全体レイアウトの定義

最初に、用紙サイズ、用紙の向きを定義します。

[ファイル] / [フォーム設定] を実行します。

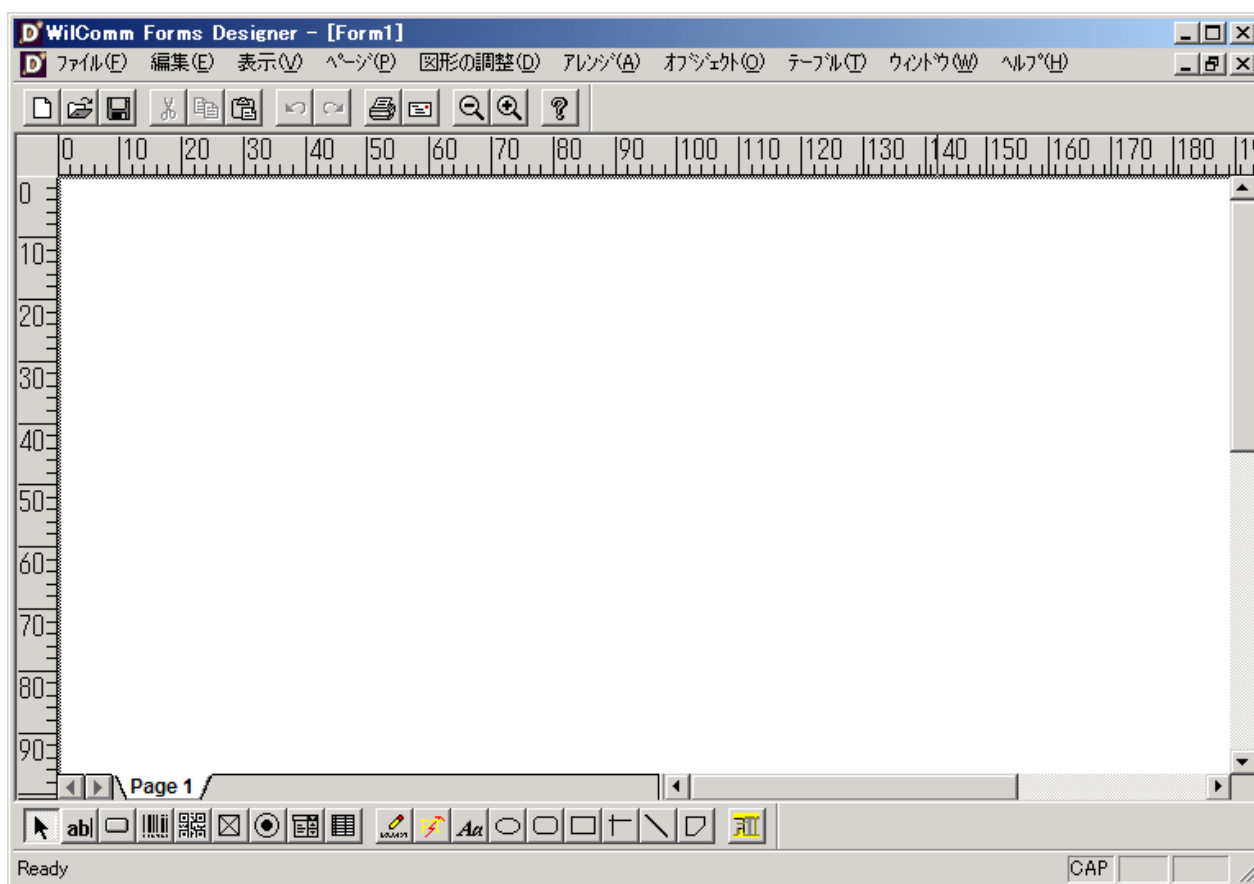
フォーム設定画面が表示されます。

用紙タイプに A 4 を設定
マージンは全て 0 (ゼロ) に設定
フォーム向きは「横向き」を選択
※サンプルフォームは A4 用紙で横向き



[OK] を押します。

デザイナー画面の用紙の向きが変わったことを確認してください。



全体レイアウトの定義は以上です。

ここで一旦トレーニングを中断する場合は、オーバーレイフォームを保存しておきましょう。
これ以降、オーバーレイフォームの作成を中断する場合は、オーバーレイフォームを保存してください。
保存につきましては、「2-7 作成したフォームの保管」P70 をご参照ください。

2-4 画像データの取り込み

会社のロゴ画像をオーバーレイフォームに貼り付けることにしましょう。

あなたの会社のロゴ画像データがある場合は、それを使ってみましょう。

ここではケイ・アイ・エス・エスのWebサイトからロゴ画像を取り出して使うことにします。

<http://www.kiss21.co.jp/>

表示されたページの画像をbmp形式でPCへ保管します。画像にカーソルを合わせ右クリックします。

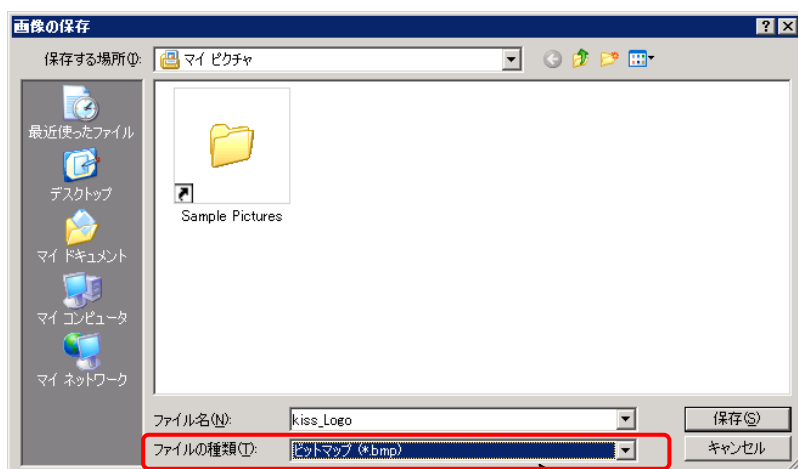
次に、名前を付けて画像を保存を実行します。



ロゴ画像で右クリックしてください。
「名前をつけて画像を保存」を選択してください。

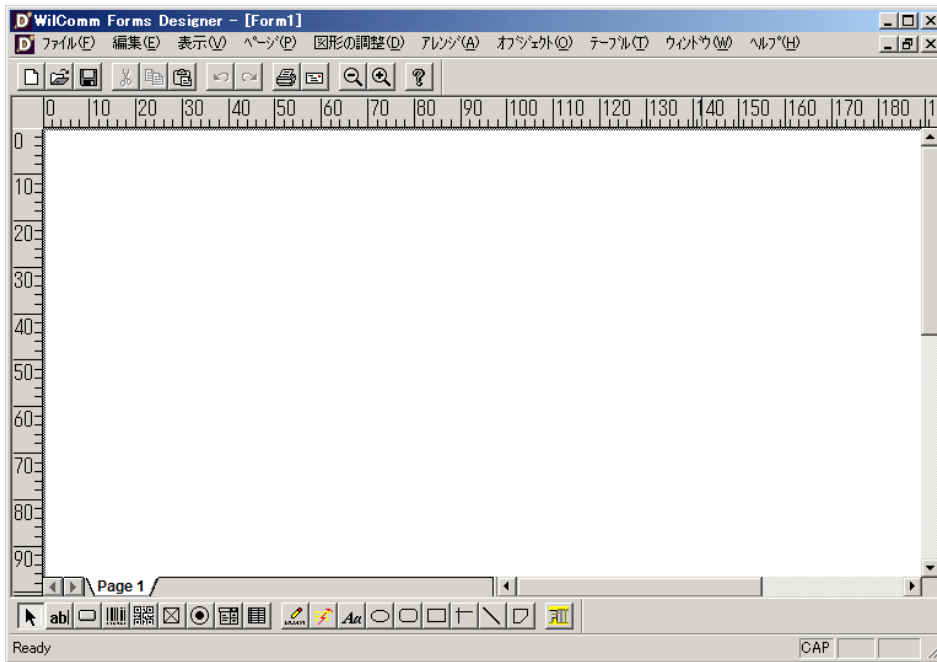
ページをスクロールすると、画面の一番下にロゴ画像があります。

ファイルの保管場所、ファイル名、ファイルの種類を選択／入力し、「保存」を押します。

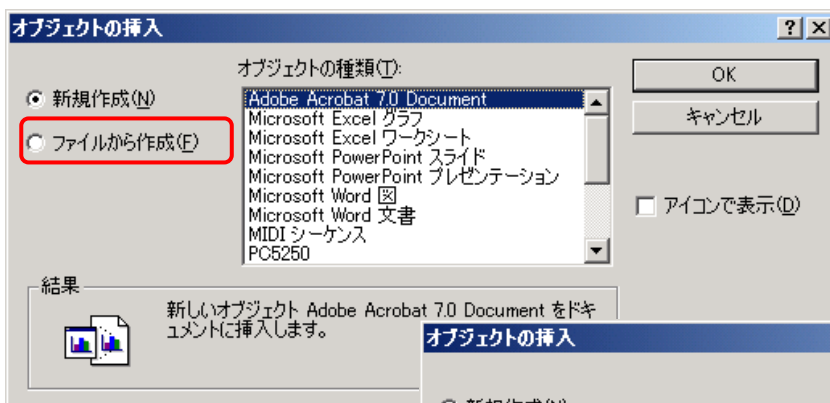


必ずビットマップにします。

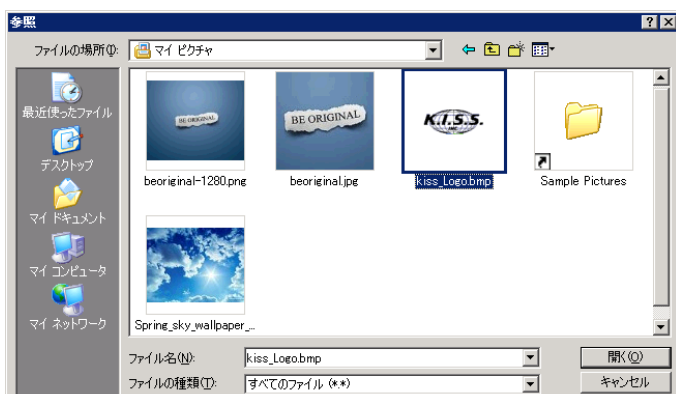
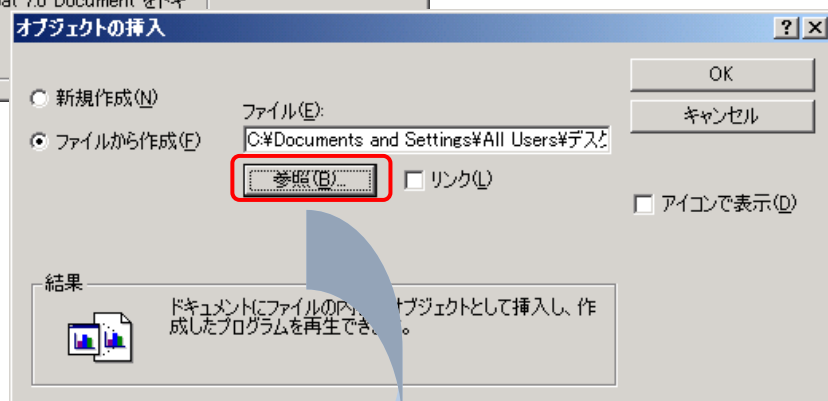
フォームデザイナーに戻ります。



[編集] / [新しいオブジェクトの挿入] を実行します。

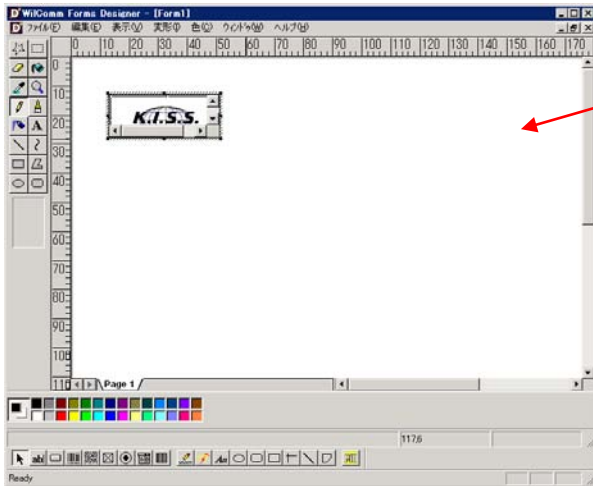


「ファイルから作成」
を選択します。

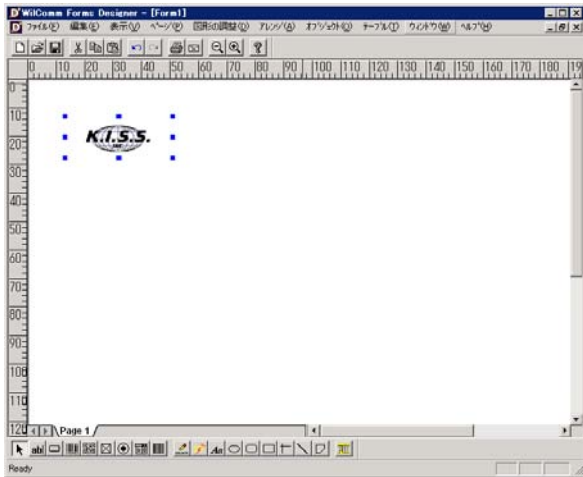


- ① [参照] ボタンを押します。
- ② 該当の画像データを選択し、[開く] ボタンを押します。
- ③ 「オブジェクトの挿入」ウィンドウで [OK] ボタンを押します。

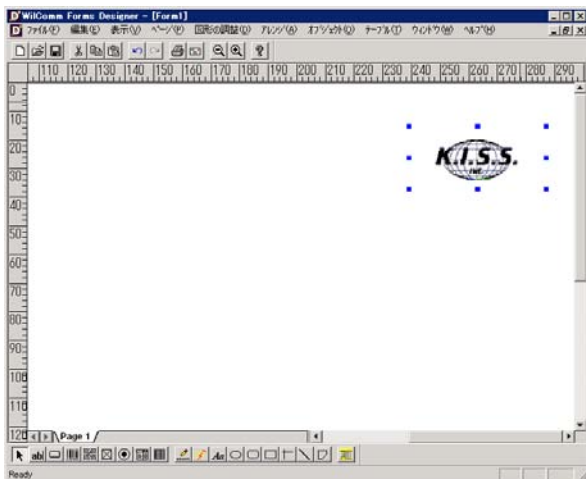
フォームデザイナーの画面上でペイントが実行され画像が挿入されます。



貼り付けた画像以外のエリアでクリックし、
画像データの挿入を確定します。



- ①挿入された画像をクリックし選択します。
- ②画像エリアがアクティブ状態になります。
- ③ドラッグしてサイズを調整します。

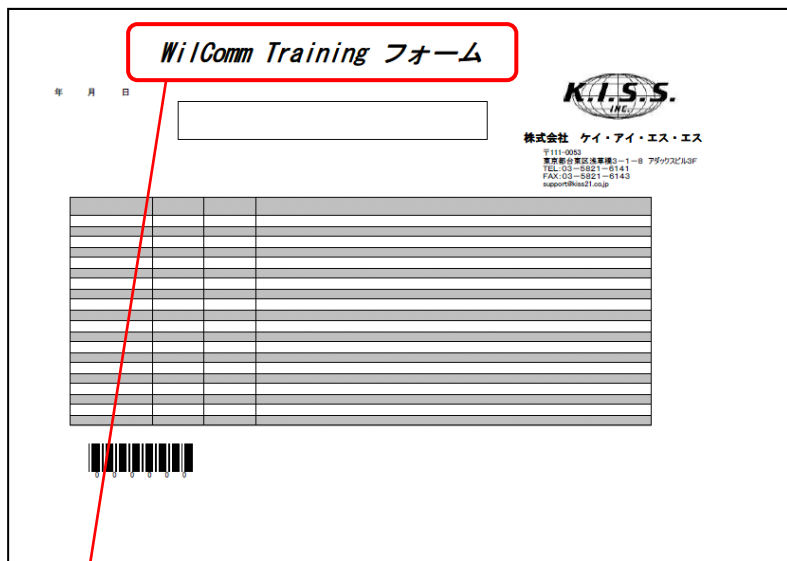


画像にカーソルを合わせ、ドラッグすること
により、画像の貼り付け位置を変更するこ
とができます。

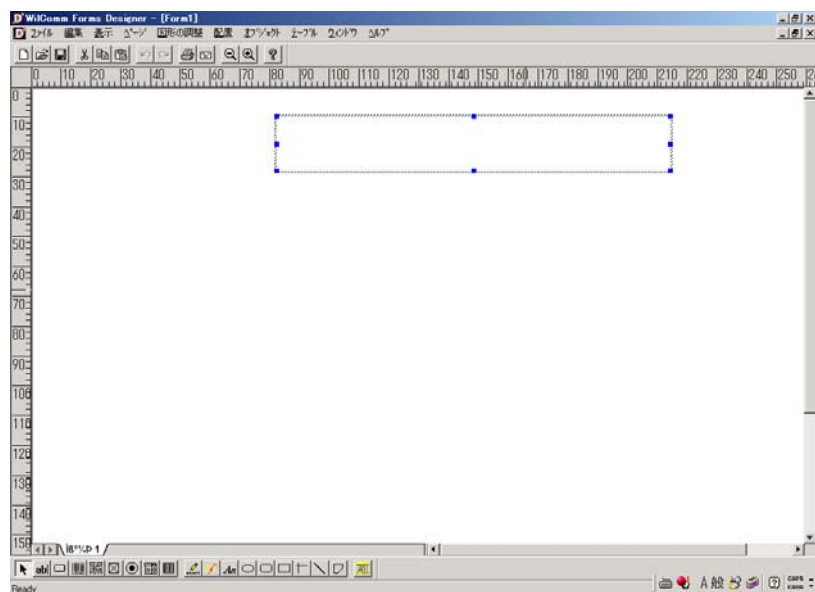
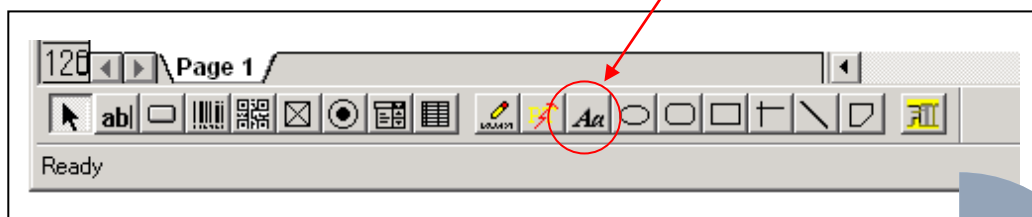
画像データの取り込みは以上です。

2-5 固定値（テキスト情報）の定義

固定値（テキスト情報）の定義を行います。

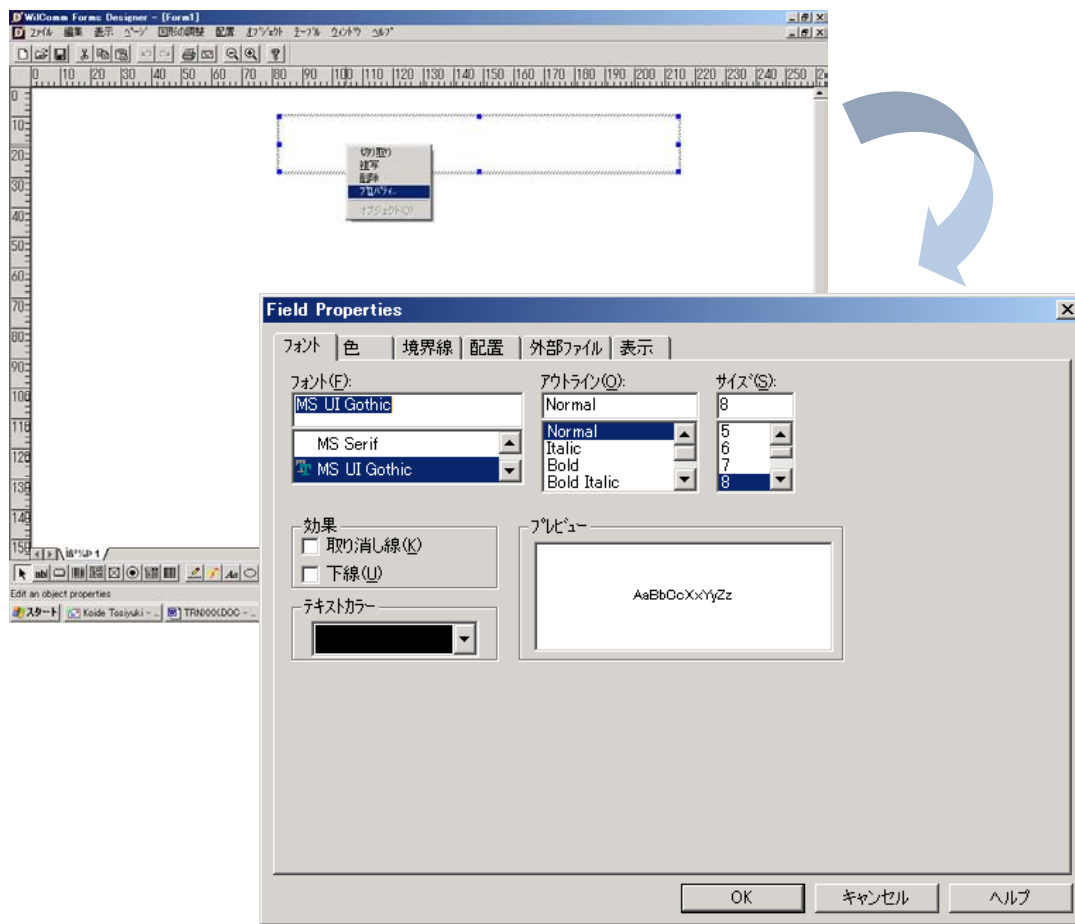


まず、フォームタイトルを作成します。画面下の【固定文字の入力】ボタンをクリックし、固定値を配置したい場所でドラッグします。

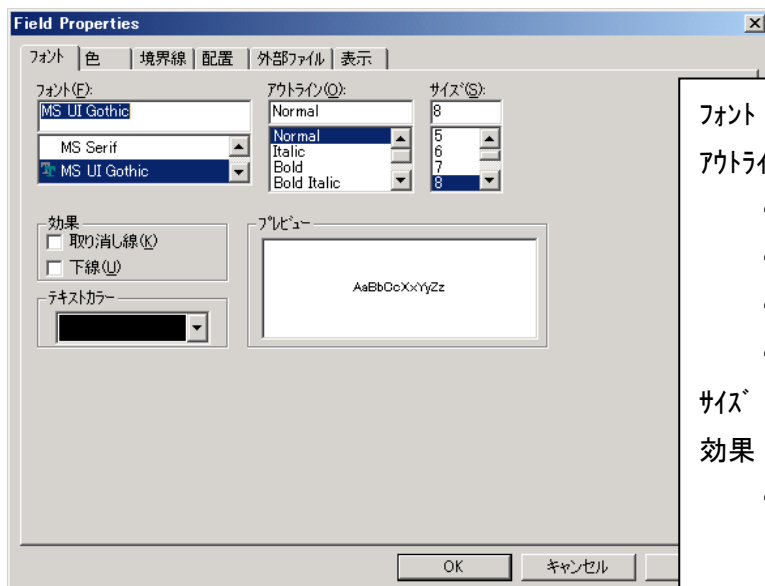


- ① 【固定文字の入力】ボタンをクリック
- ② 配置する場所でドラッグ

作成したエリアにカーソルを合わせ、右クリックからプロパティを選択します。



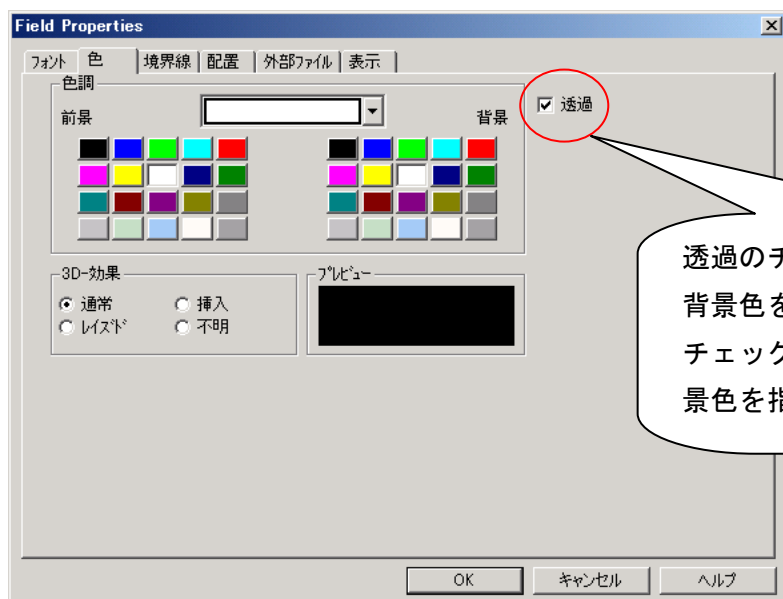
固定値（テキスト情報）の文字フォント、サイズ、色などを設定します。



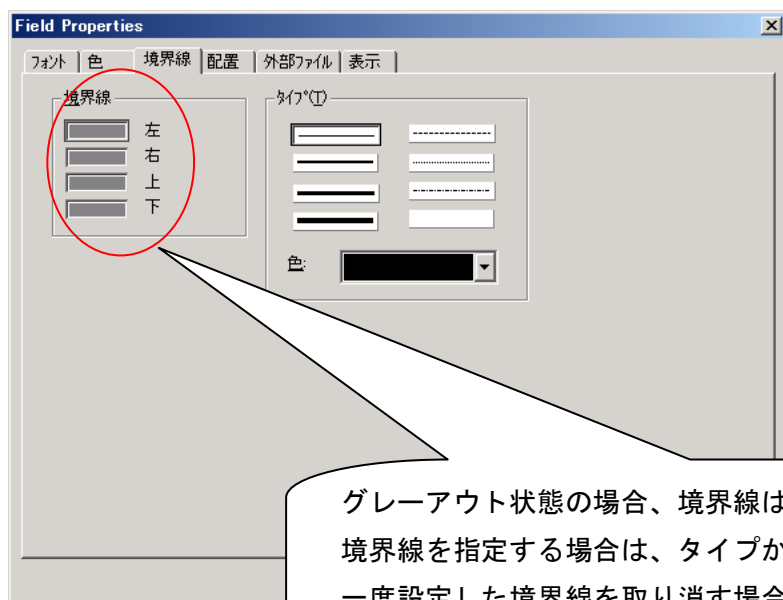
- フォント : 使用するフォントを設定
- アウトライン : 文字の太さを指定
- ・ Normal 通常の太さ
 - ・ Italic 通常の太さで斜め文字
 - ・ Bold 太字
 - ・ Bold Italic 太字で斜め文字
- サイズ : 使用するサイズを設定
- 効果
- ・ 取り消し線 固定値に取り消し線が付きます
 - ・ 下線 固定値にアンダーラインが付きます
- テキストカラー : 文字の色を設定

ヒント : 日本語でフォームを作成する場合、フォントにはMSPゴシックやMSP明朝等のプロポーショナルフォントより、MSゴシックやMS明朝等の等幅フォントを使用するほうが見やすいかもしれません。

固定値（テキスト情報）のエリアに背景色をつける場合、「色」タブを選択します。

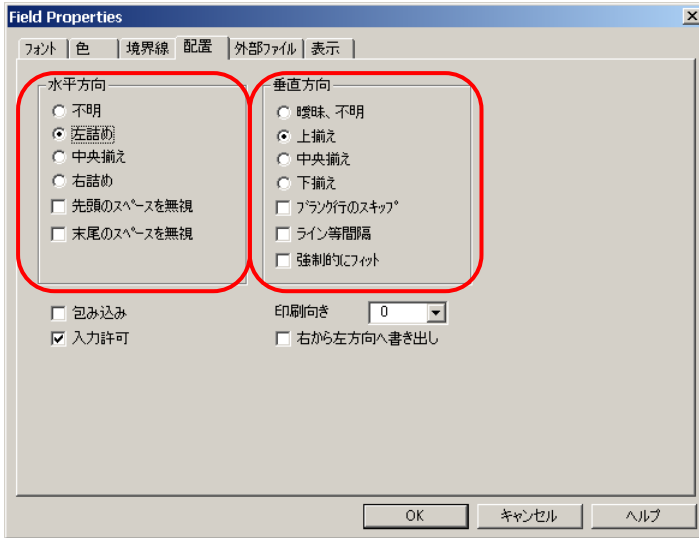


固定値（テキスト情報）のエリアに境界線を引く場合、「境界線」タブを選択します。



デザインモードで貼り付けたオブジェクトは、上下左右に罫線が引かれているように見えますが、これは設計情報だからです。オブジェクトのサイズを目視できるようにするための罫線です。実際のアウトプット上に罫線を指定したい場合は「境界線」プロパティの設定が必要です。

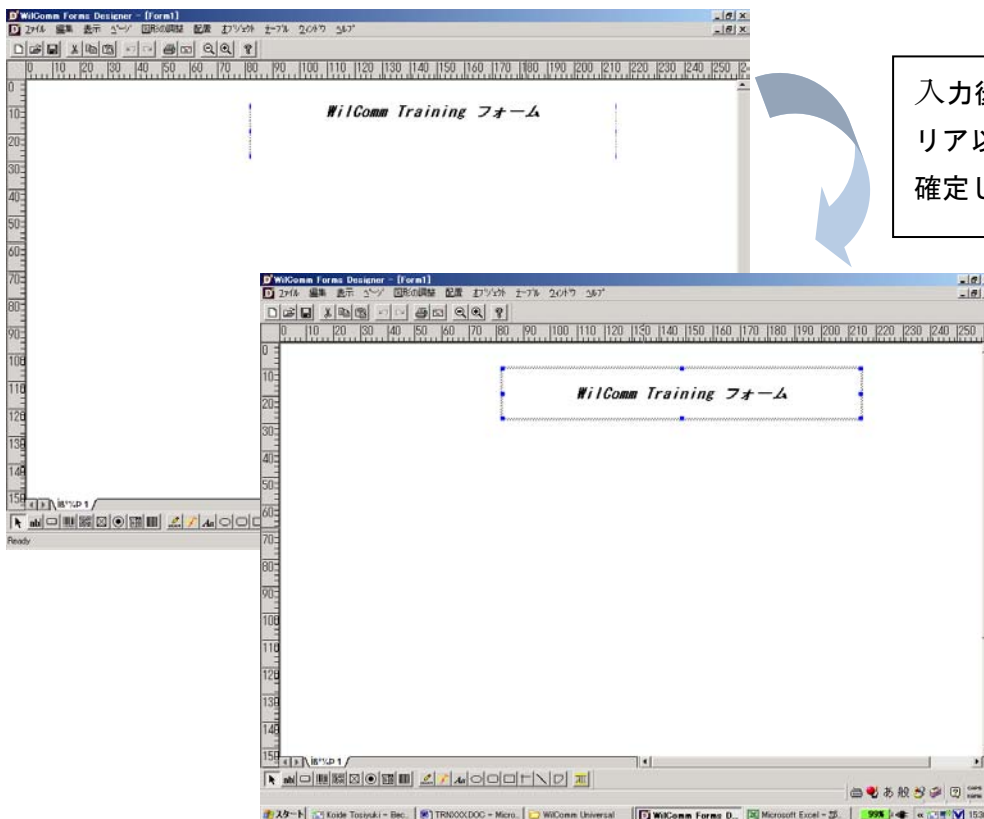
固定値（テキスト情報）のエリア内における固定文字列の配置設定をするには、「配置」タブを選択します。



水平方向・垂直方向ともに“中央揃え”を選択します。

ここまで、設定を行いましたら [OK] を押して設定を確定します。

デザイナー画面に戻り、固定値（テキスト情報）「WilComm Training フォーム」を入力します。固定値（テキスト情報）エリアをアクティブな状態にして、文字入力をしますと、対象エリアに文字がセットされます。

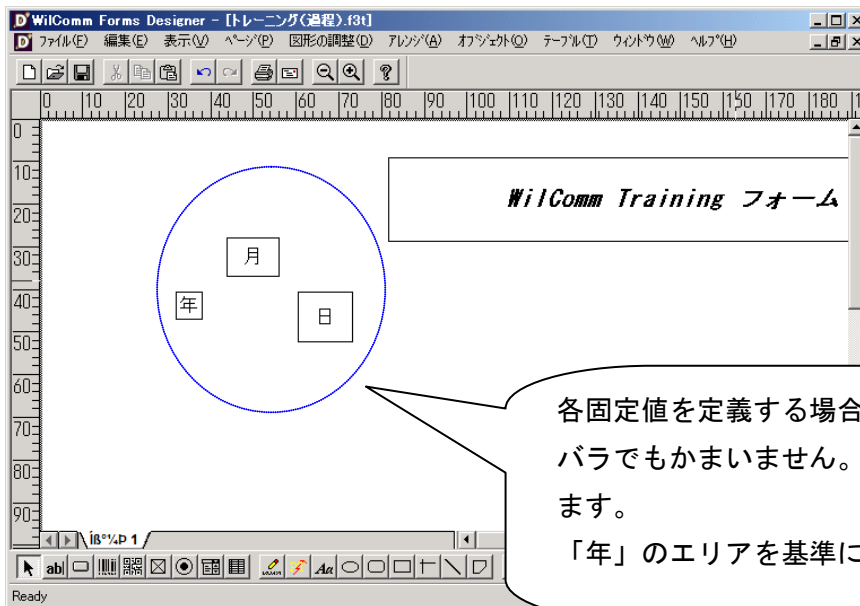


入力後、固定値（テキスト情報）エリア以外でクリックして、固定値を確定します。

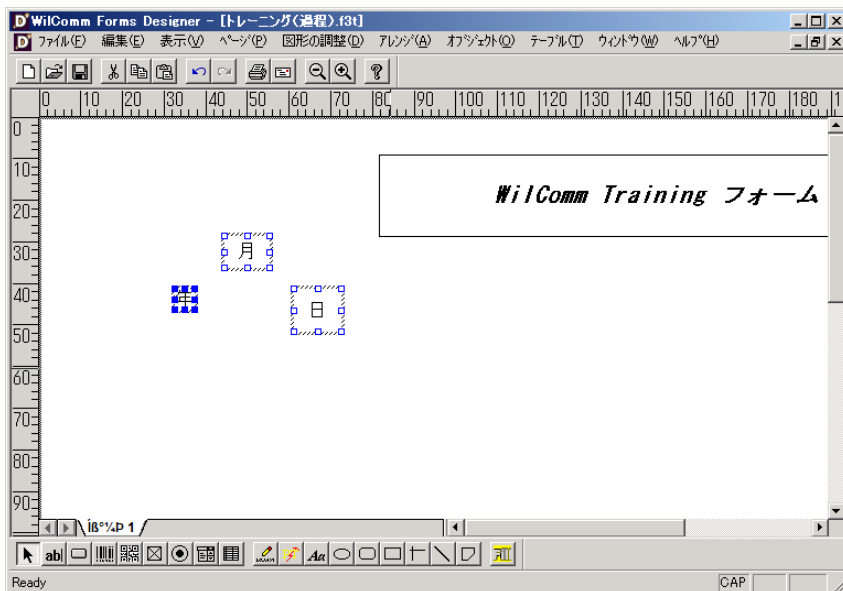
ヒント : 文字を修正する場合は、対象固定値のエリアをゆっくりダブルクリックします。

<<補足>> 固定値（テキスト情報）の定義のコツ

サンプルフォームの「年」「月」「日」の固定値を定義する場合に、各固定値のエリアの高さ、幅、座標を一括で合わせることができます。

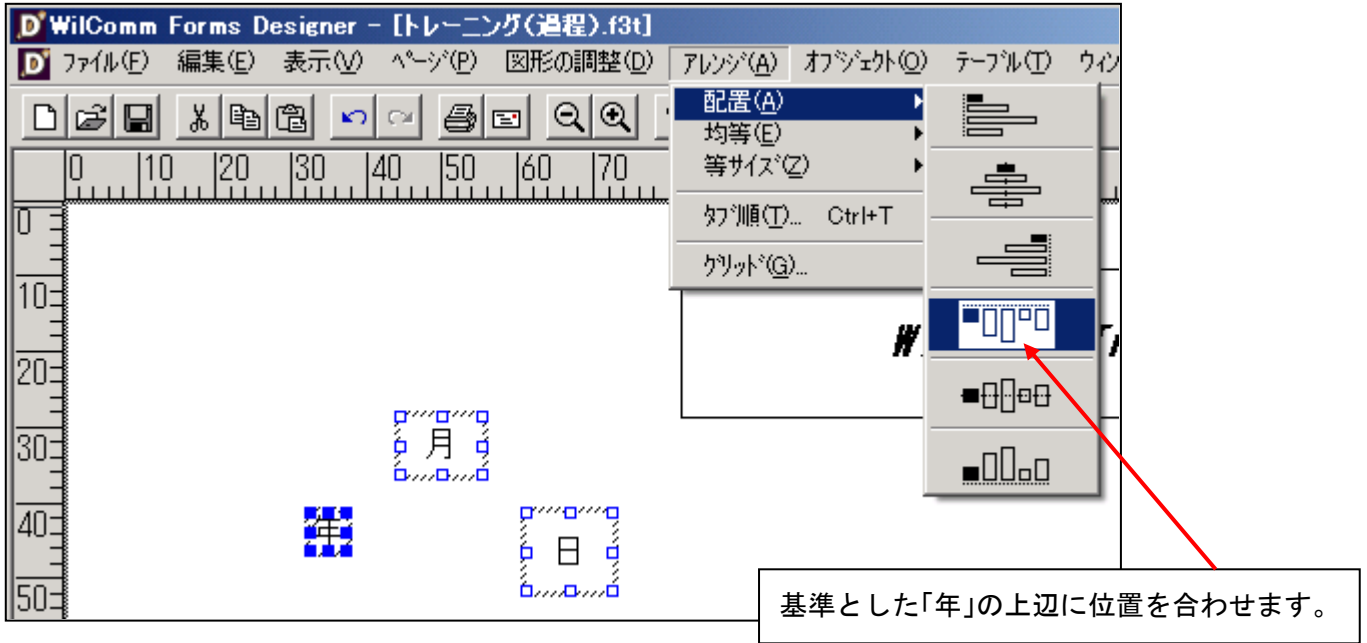


最初に、「日」のエリアをクリックします。次にシフトキーを押しながら「月」のエリアをクリックします。最後に基準となる「年」のエリアをクリックします。

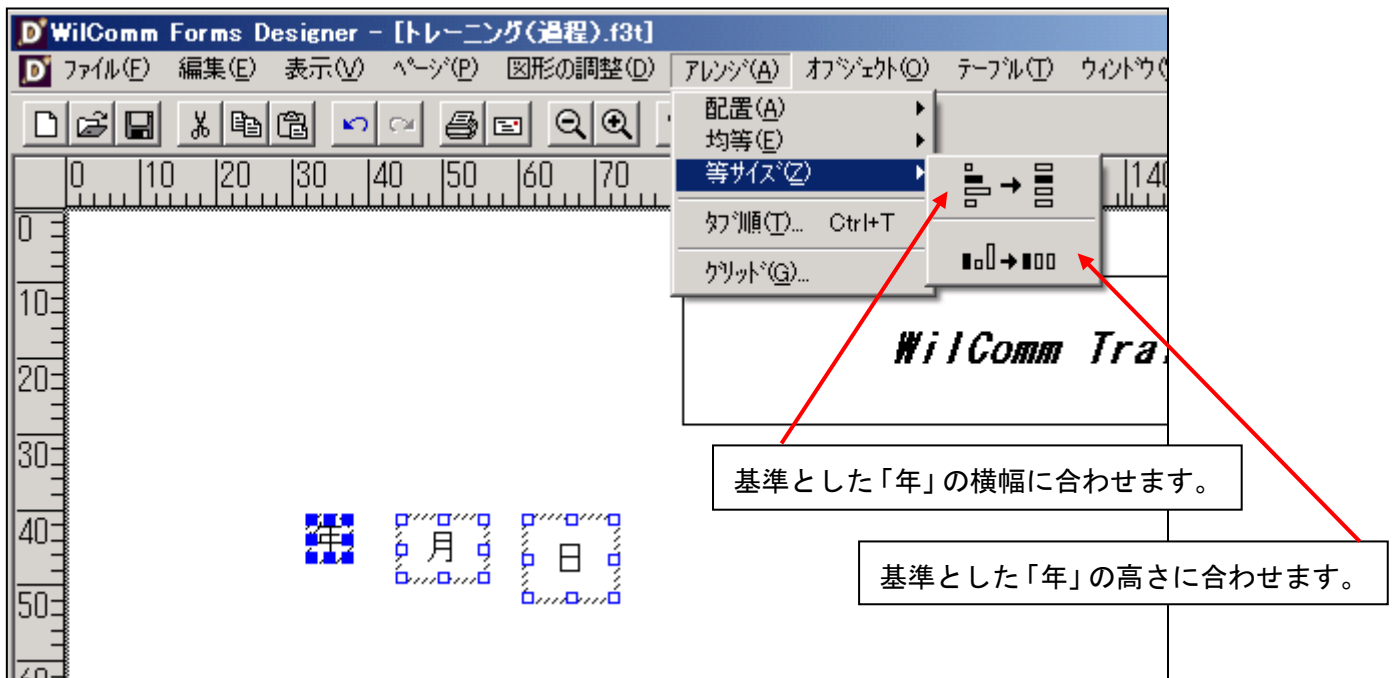


複数選択する場合、基準となるエリアを最後に選択します。

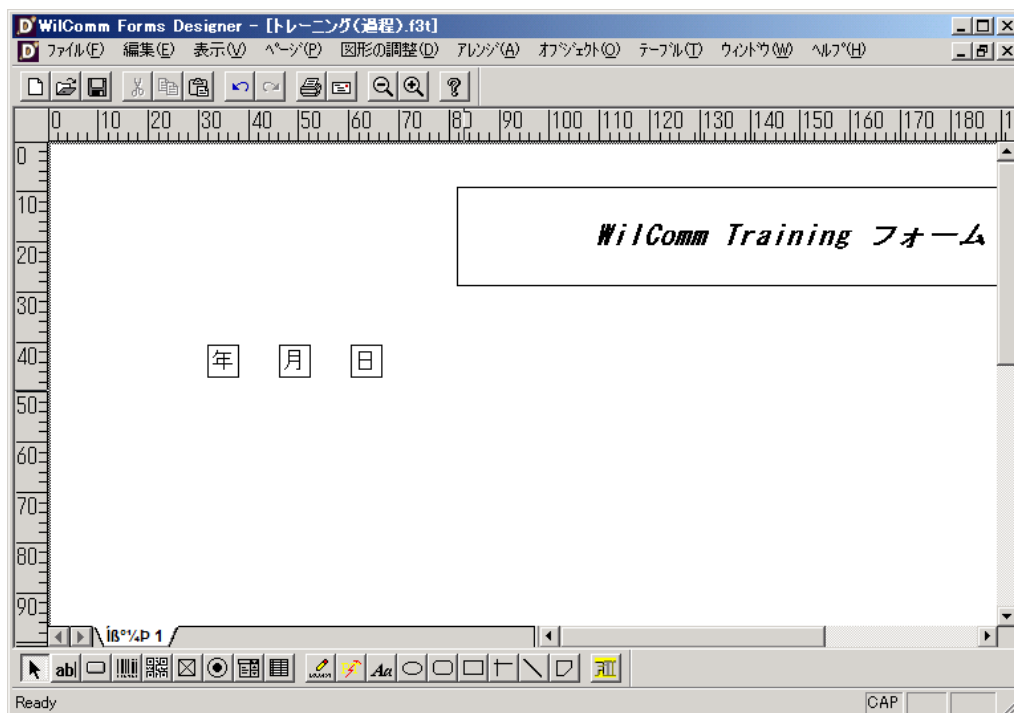
[アレンジ] / [配置] を選択し、エリアの位置の合わせ方法を選択します。



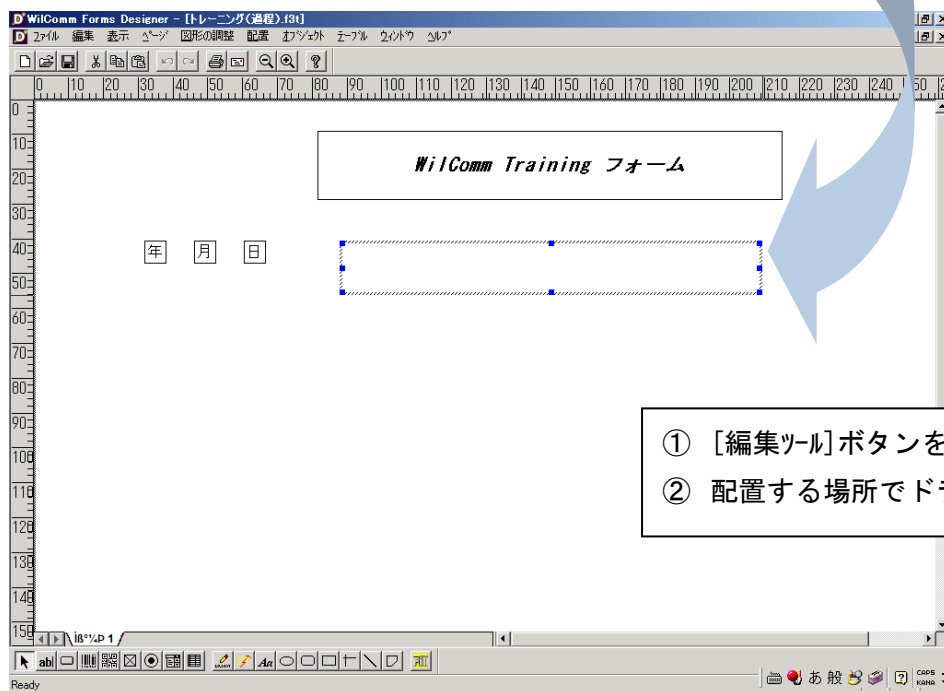
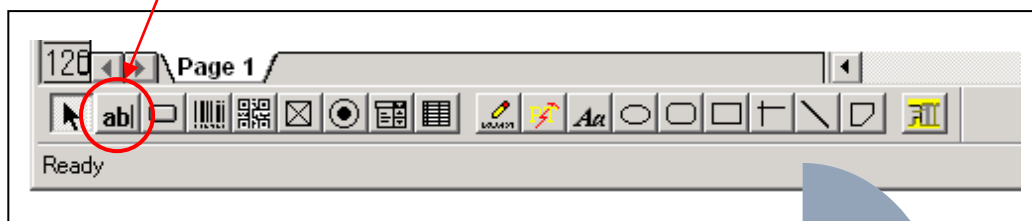
[アレンジ] / [等サイズ] を選択し、エリアサイズの合わせ方を選択します。



[アレンジ] メニューを使用することにより、複数エリアのサイズや座標位置を合わせることができます。

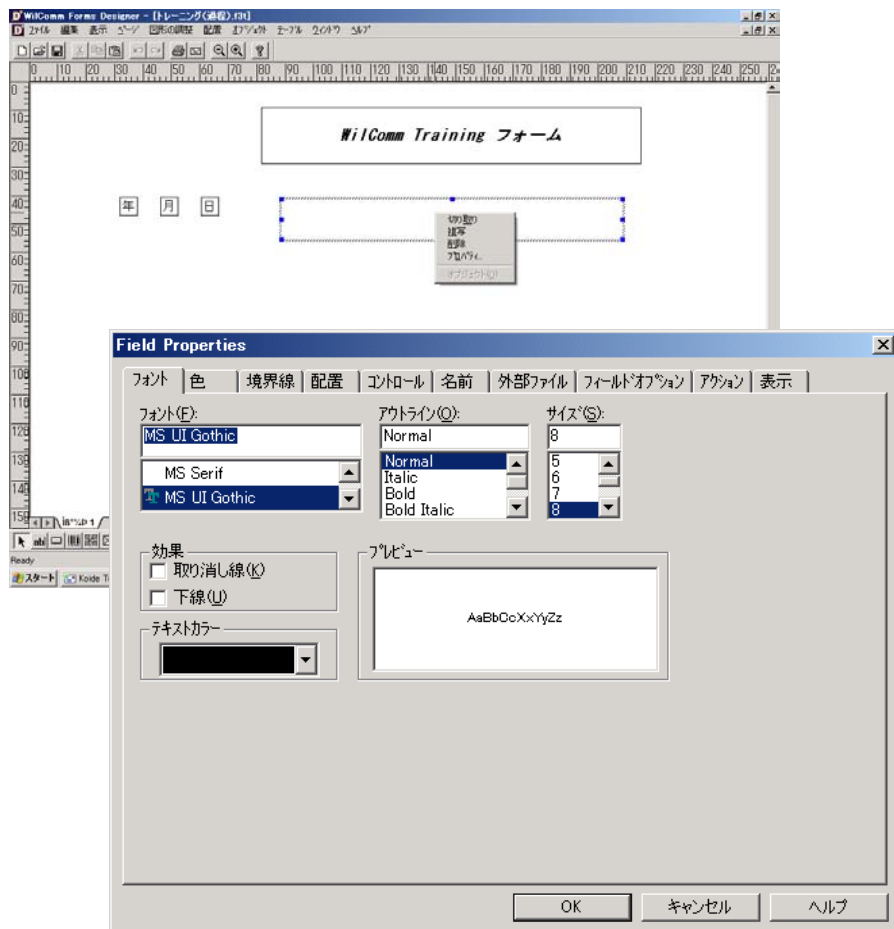


画面下の【編集ツール】ボタンをクリックし、ドラッグして単一フィールド変数を作成します。

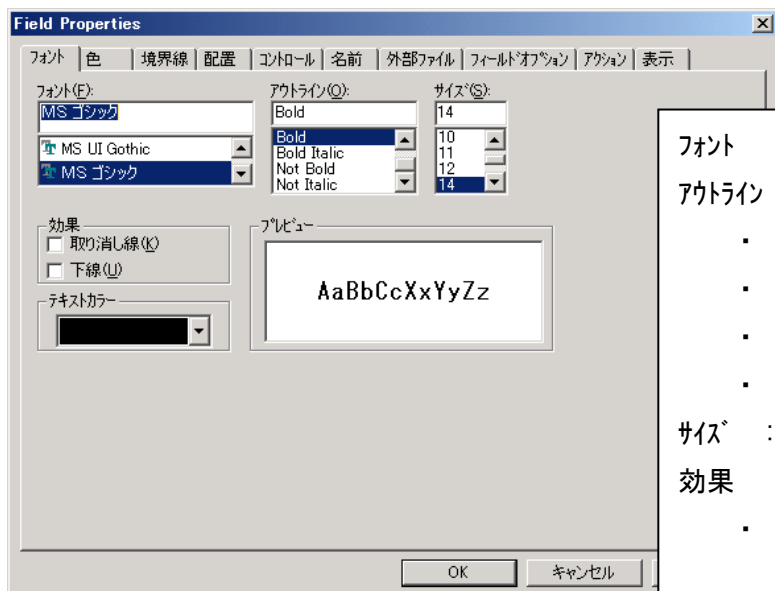


- ① 【編集ツール】ボタンをクリック
- ② 配置する場所でドラッグ

作成したエリアにカーソルを合わせ、右クリックからプロパティを選択します。



単一フィールド変数（スプールデータをセットするフィールド）の文字フォント、サイズ、色などを設定します。



- フォント : 使用するフォントを設定
- アウトライン : 文字の太さを指定
- Normal 通常の太さ
 - Italic 通常の太さで斜め文字
 - Bold 太字
 - Bold Italic 太字で斜め文字
- サイズ : 使用するサイズを設定
- 効果 :
- 取り消し線 固定値に取り消し線が付きます
 - 下線 固定値にアンダーラインが付きます
- テキストカラー : 文字の色を設定

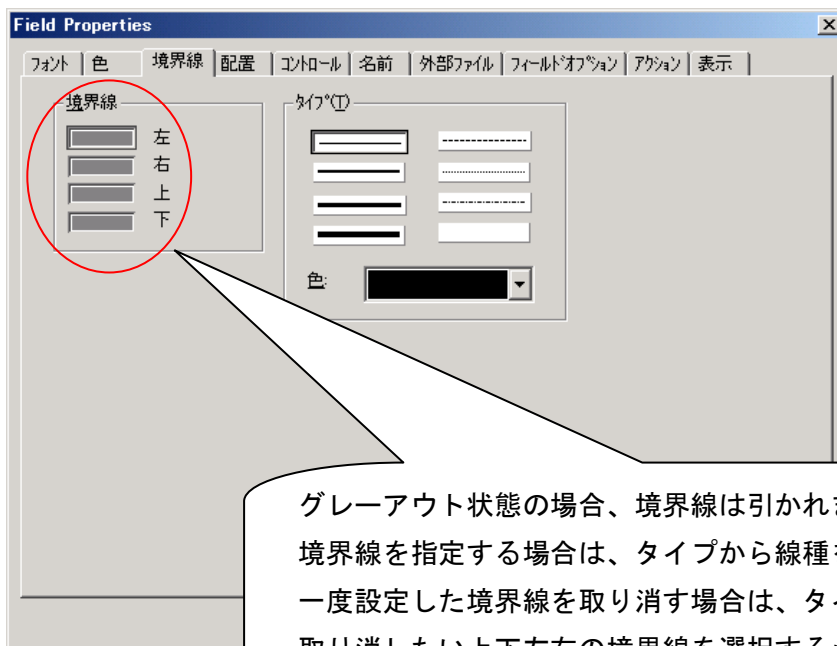
ヒント : 日本語でフォームを作成する場合、フォントには MSP ゴシックや MSP 明朝等のプロポーショナルフォントより、MS ゴシックや MS 明朝等の等幅フォントを使用するほうが見やすいかもしれません。

単一フィールド変数（スプールデータをセットするフィールド）エリアの背景色をつける場合、「色」タブを選択します。



透過のチェックを外すことにより、背景に色を指定することができます。
チェックが付いていると、背景に色を指定しても無視されます。

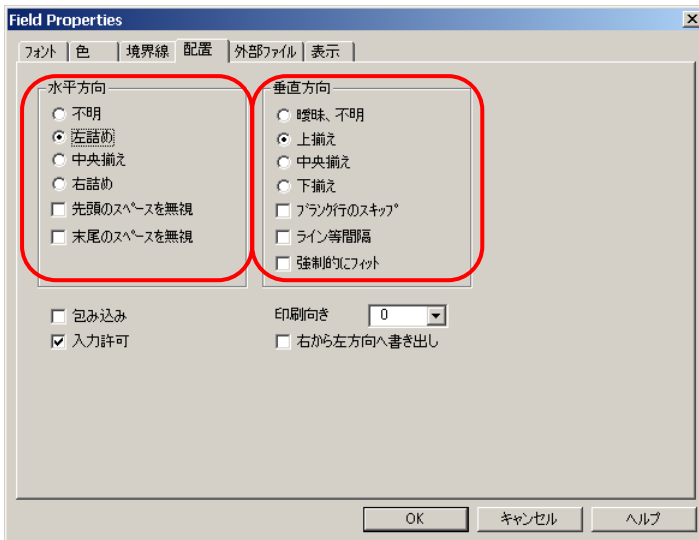
単一フィールド変数（スプールデータをセットするフィールド）エリアの境界線を引く場合、「境界線」タブを選択します。



グレーアウト状態の場合、境界線は引かれません。
境界線を指定する場合は、タイプから線種を選択します。
一度設定した境界線を取り消す場合は、タイプから空白を選択し、
取り消したい上下左右の境界線を選択する必要があります。

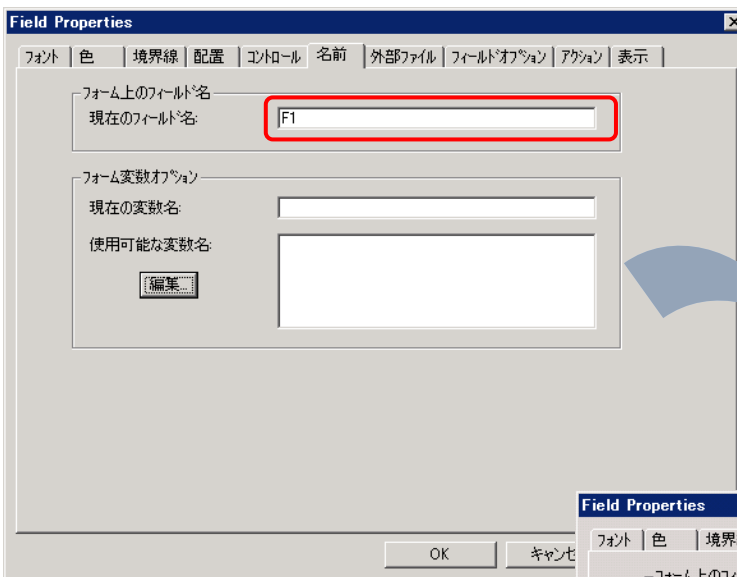
デザインモードで貼り付けたオブジェクトは、上下左右に罫線が引かれているように見えますが、これは設計情報だからです。オブジェクトのサイズを目視できるようにするための罫線です。実際のアウトプット上に罫線を指定したい場合は「境界線」プロパティの設定が必要です。

単一フィールド変数（スプールデータをセットするフィールド）エリアにセットされるスプールデータの配置設定をするには、「配置」タブを選択します。



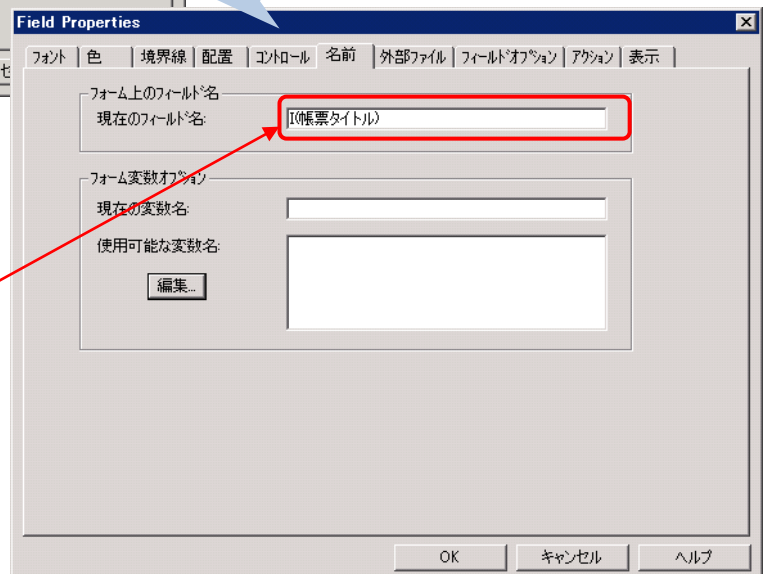
水平方向・垂直方向ともに“中央揃え”を選択します。

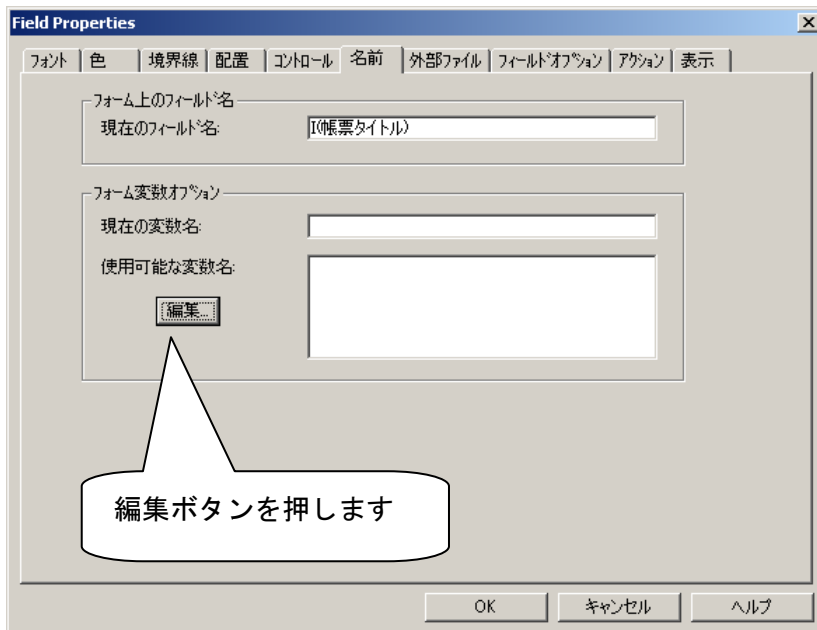
単一フィールド変数にフィールド名を設定するために、「名前」タブを選択します。変数には必ず名前付けをする必要があります。



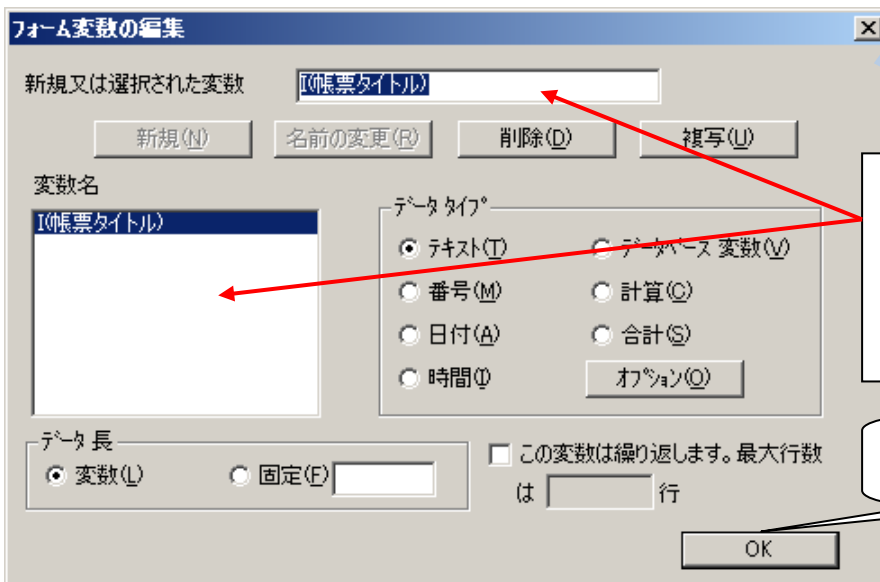
「現在のフィールド名」欄にフォーム上でユニークなフィールド名を入力します。このフィールド名は日本語で命名できます。ただし、**必ず先頭1桁には半角英文字を指定してください。**

I(帳票タイトル) と命名しましょう。ライブラリリストのスプールデータ内に出力されているタイトル部「ライブラリ・リスト」の文字列を受取る予定です。先頭1バイト目はシングルバイトというルールから「I」を指定しました。特別な意味はありませんので自由に設定してください。



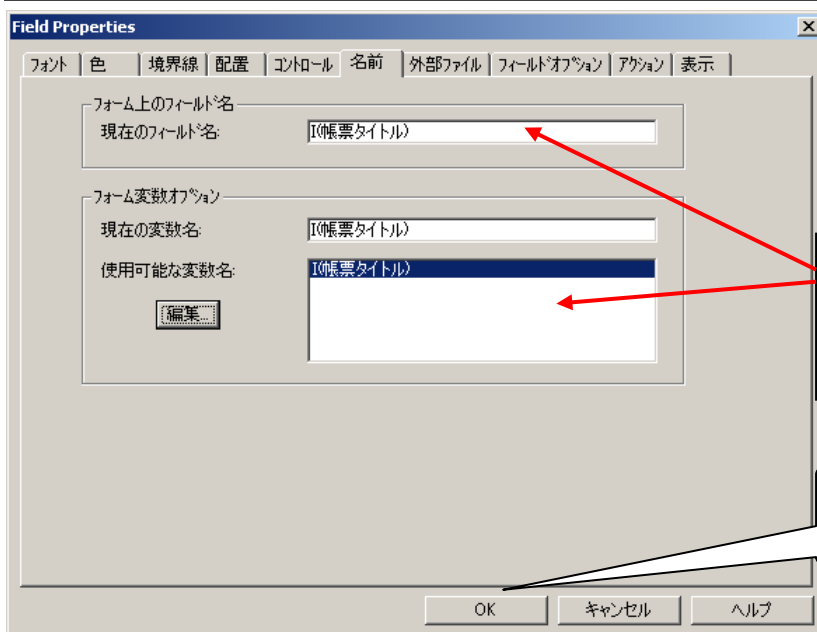


編集ボタンを押します



[新規又は選択された変数]欄と変数名一覧に入力したフィールド名がセットされている事を確認します。

OK ボタンを押します

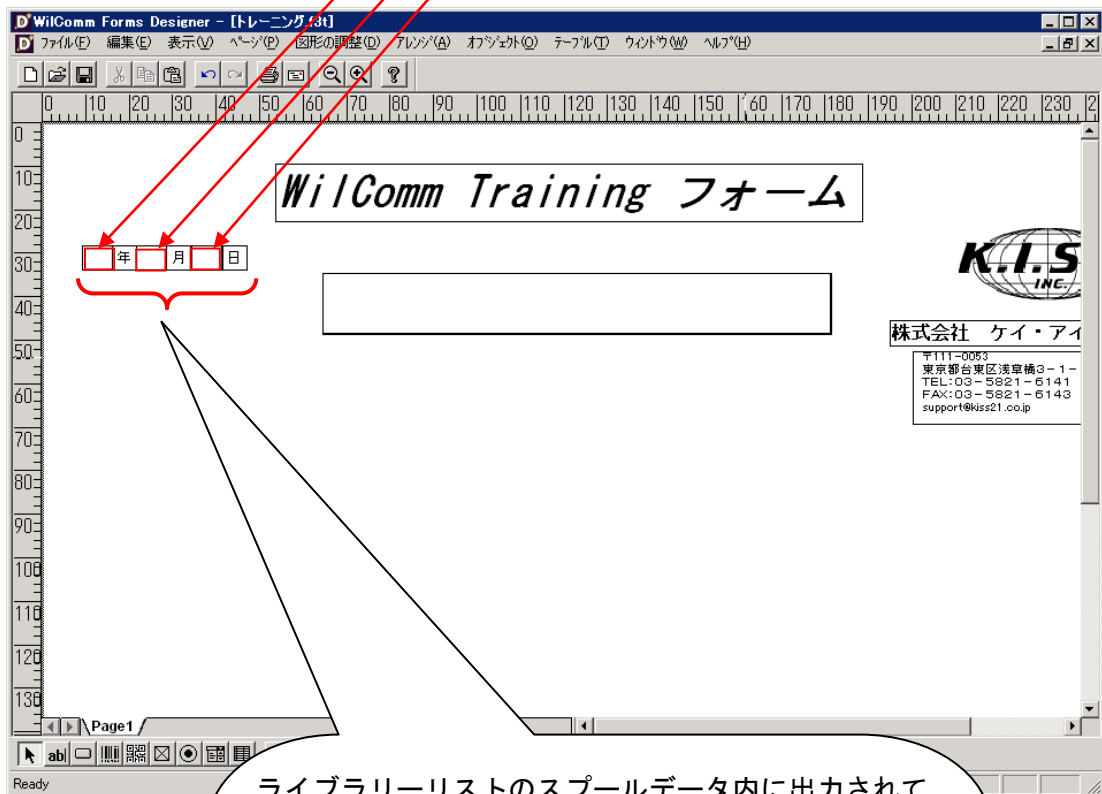


現在の変数名、使用可能な変数名にフィールド名がセットされます。

OK ボタンを押して単一フィールド変数が確定します。

同じ要領で、年・月・日 3つの単一フィールド変数を追加してください。

5722SS1 V5R4M0 060210	ライブラリー・リスト	11/05/17 23:32:35	ページ 1
ライブラリー	タイプ	ASP 装置	テキスト記述
WILQ2962	SYS		WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
QSYS	SYS		システム・ライブラリー
QSYS2	SYS		CPI のシステム・ライブラリー
QHLPYS	SYS		
QUSRSYS	SYS		システム・ライブラリー
WILCOMM	PRD		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	CUR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
OGPL	USR		GENERAL PURPOSE LIBRARY
QTEMP	USR		
***** リストの終わり *****			



ライブラリーリストのプールデータ内に出力されている「99/99/99」の日付部分から、スラッシュを除いた年の2桁、月の2桁、日の2桁を切り出して、それぞれ個別に配置するように、データの受取変数を3つ定義しましょう。

変数名は、左から以下のように命名しましょう。

I(年)

I(月)

I(日)

P21～P25 のステップを繰り返してください。

フォーム変数の編集

新規又は選択された変数

新規(N) 名前の変更(R) 削除(D) 複写(U)

変数名
I(商品名)

データタイプ

テキスト(T) データベース変数(V)
 番号(M) 計算(C)
 日付(A) 合計(S)
 時間(Q) オプション(O)

データ長

変数(L) 固定(F)

この変数は繰り返します。最大行数は 行

OK

初期値では、スプールデータの1行分しかマッピングできません。



フォーム変数の編集

新規又は選択された変数

新規(N) 名前の変更(R) 削除(D) 複写(U)

変数名
I(商品名)

データタイプ

テキスト(T) データベース変数(V)
 番号(M) 計算(C)
 日付(A) 合計(S)
 時間(Q) オプション(O)

データ長

変数(L) 固定(F)

この変数は繰り返します。最大行数は 行

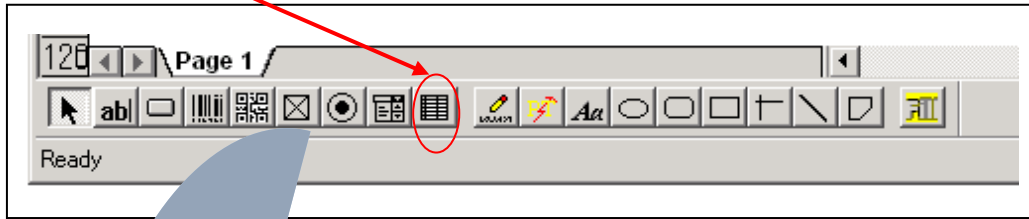
OK

②繰り返しの行数を指定します。スプールデータの最高行数を指定します。

①チェックします

ヒント : この方法では、行間に罫線を引くことができません。行間に罫線を指定したり、行毎に色の指定を変える場合は、次ページの「テーブルフィールド変数 (テーブル・ツール)」を使用します。

画面下の【テーブルツール】ボタンをクリックし、テーブルを配置したい場所でドラッグします。



① テーブルツールボタンをクリック
② 配置する場所でドラッグ

「A」 「B」 「C」 「D」 は、列の見出しです。

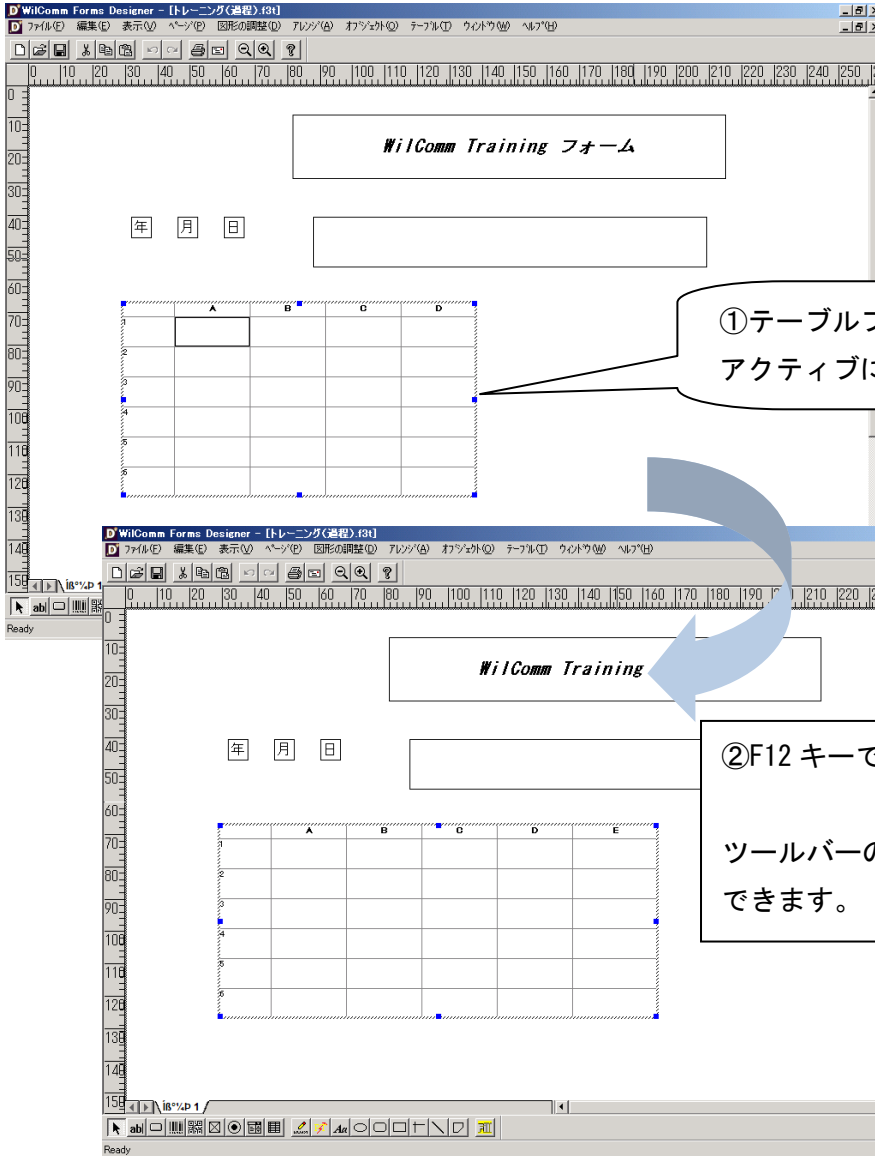
デフォルトで4列6行のテーブル
ができます。

「1」 「2」 「3」 「4」 「5」 「6」 は、行の見出しです。

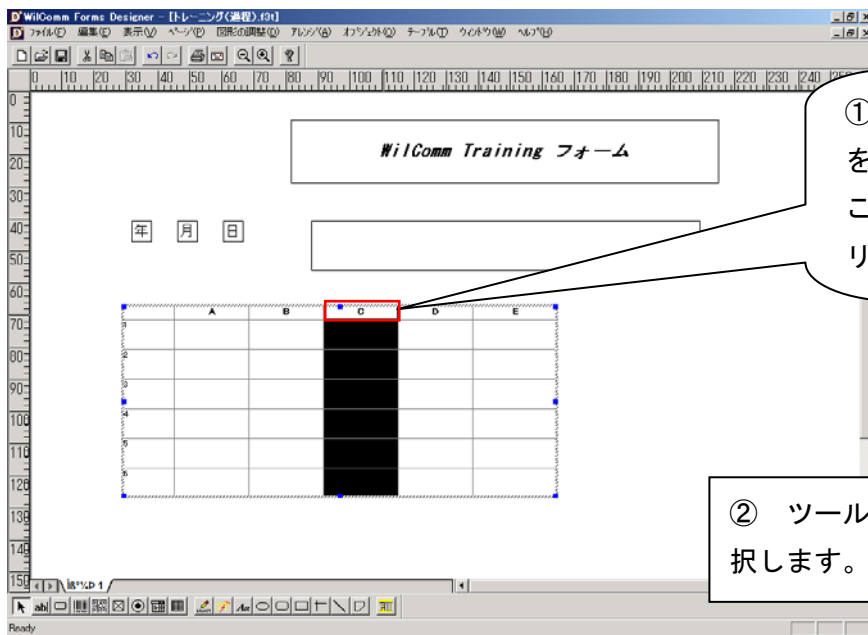
まず、列数と行数を確定する必要があります。

ここでは、4列 21行を予定していますので、列はこのままでよいのですが、1列追加して削除する練習をしてみましょう。

必要な列を追加する

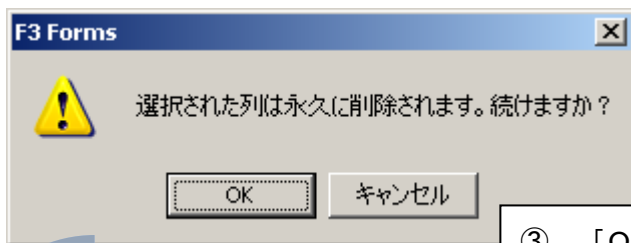


不要な列を削除する

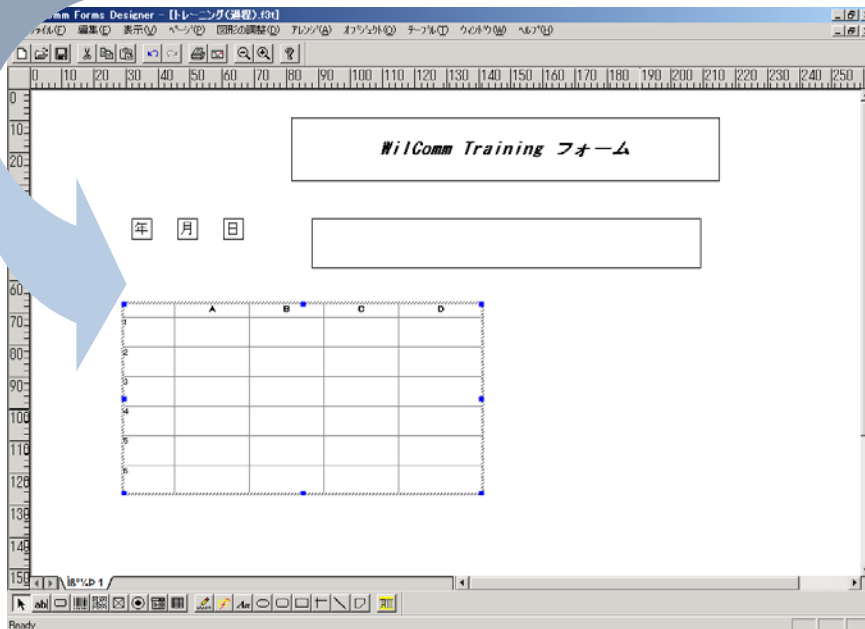


① 列見出しをクリックし、対象の列を黒く反転表示させます。
この例は、列見出しの「C」の部分をクリックします。(C列)

② ツールバーの [テーブル] → [列] → [削除] を選択します。

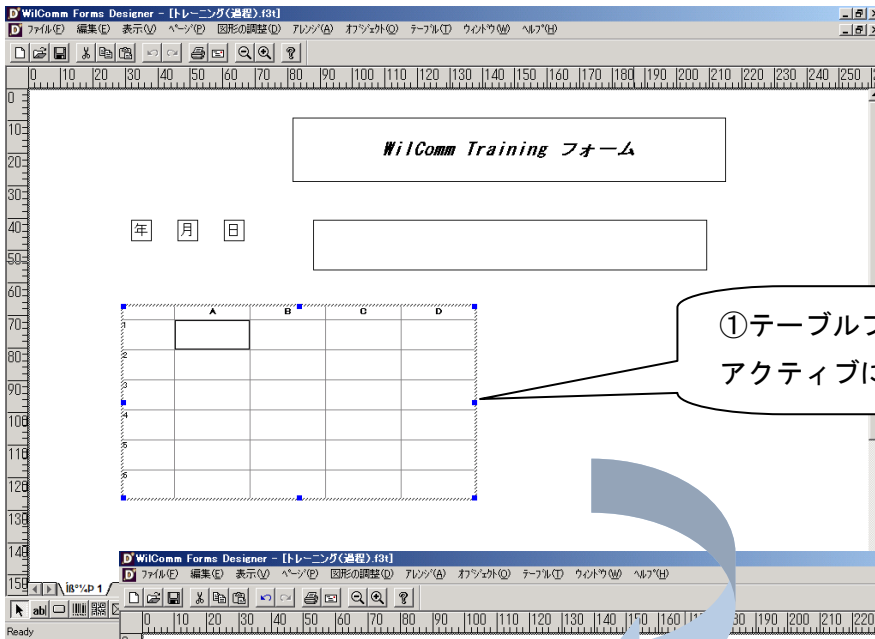


③ [OK] を押します。

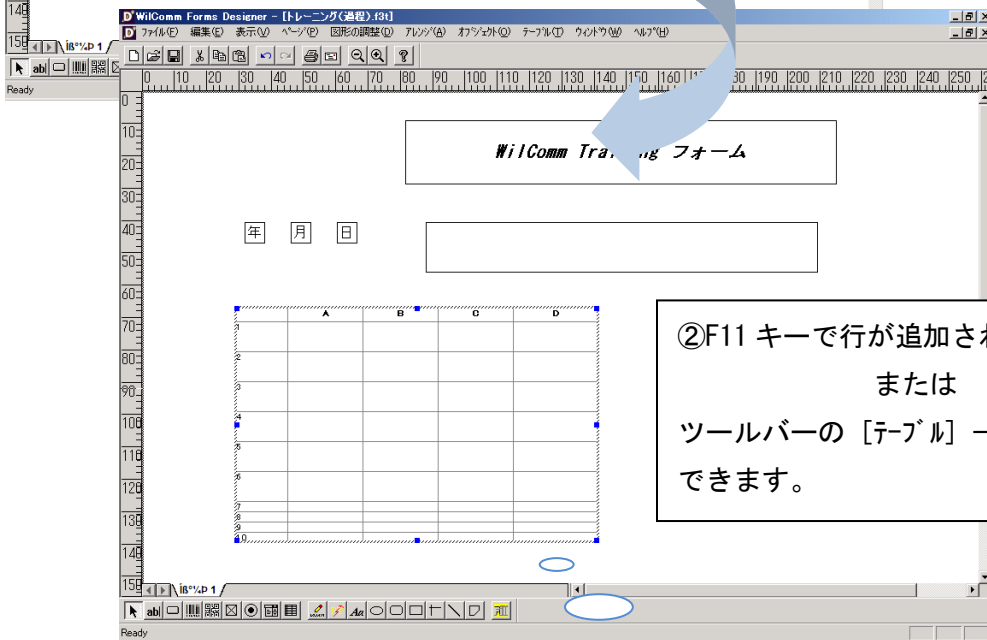


ヒント : Ctrl キーを押しながら列見出しをクリックすることにより、複数列の選択が可能です。

必要な行を追加する



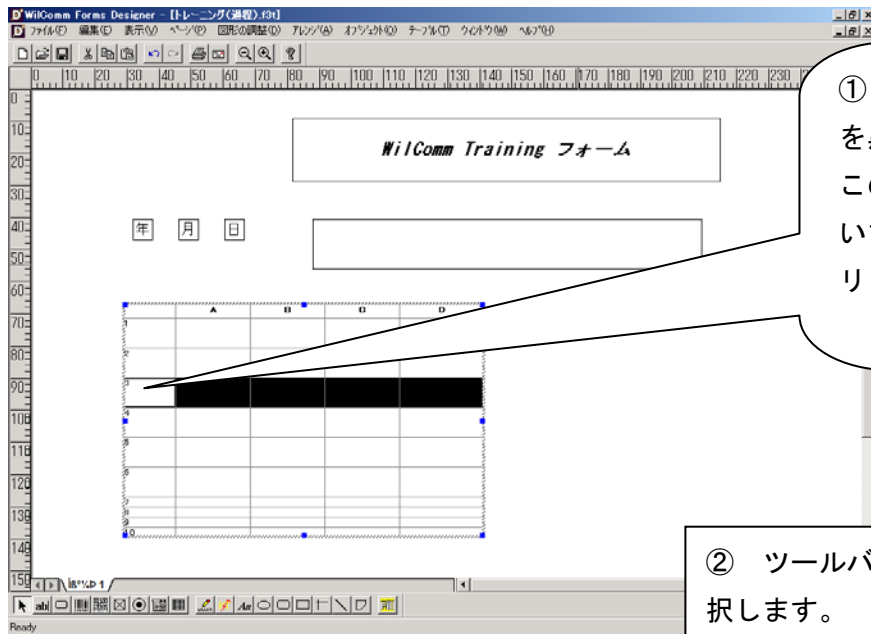
①テーブルフィールド変数をクリックして、アクティブにします。



②F11 キーで行が追加されます。
または
ツールバーの [テーブル] → [行] → [挿入] でも追加
できます。

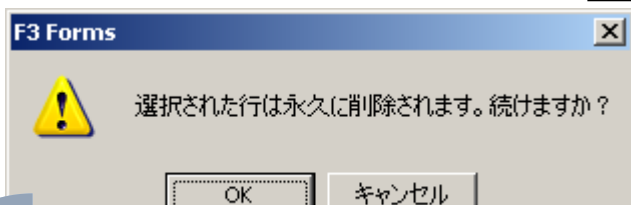
サンプルフォームに必要な
行数は21行です。

不要な行を削除する

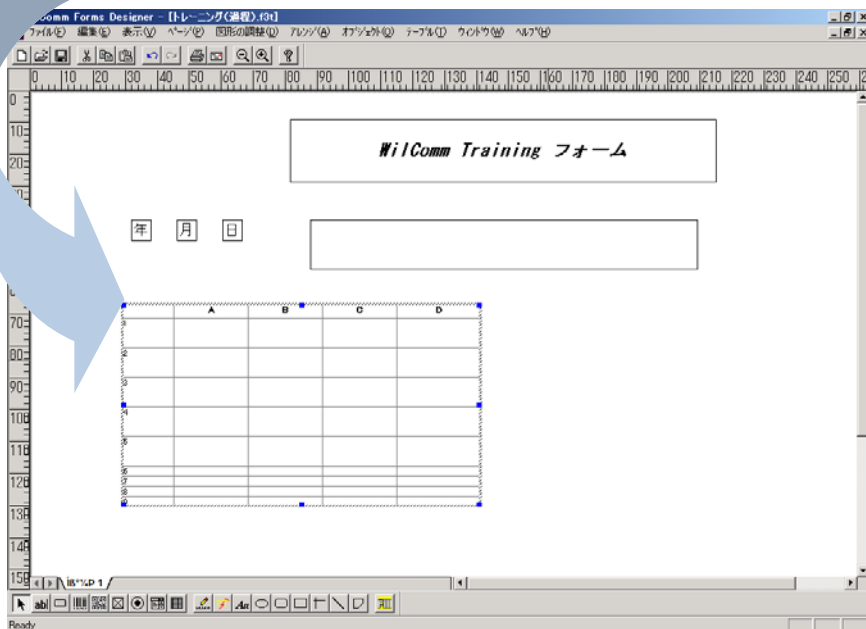


① 行見出しをクリックし、対象の行を黒く反転表示させます。
この例は、3行目を削除しようとしています。行見出しの「3」の部分をクリックします。(3行目)

② ツールバーの [テーブル] → [行] → [削除] を選択します。



③ [OK] を押します。



👉 ヒント : Ctrl キーを押しながら行見出しをクリックすることにより、複数行の選択が可能です。

テーブルフィールド変数のプロパティ

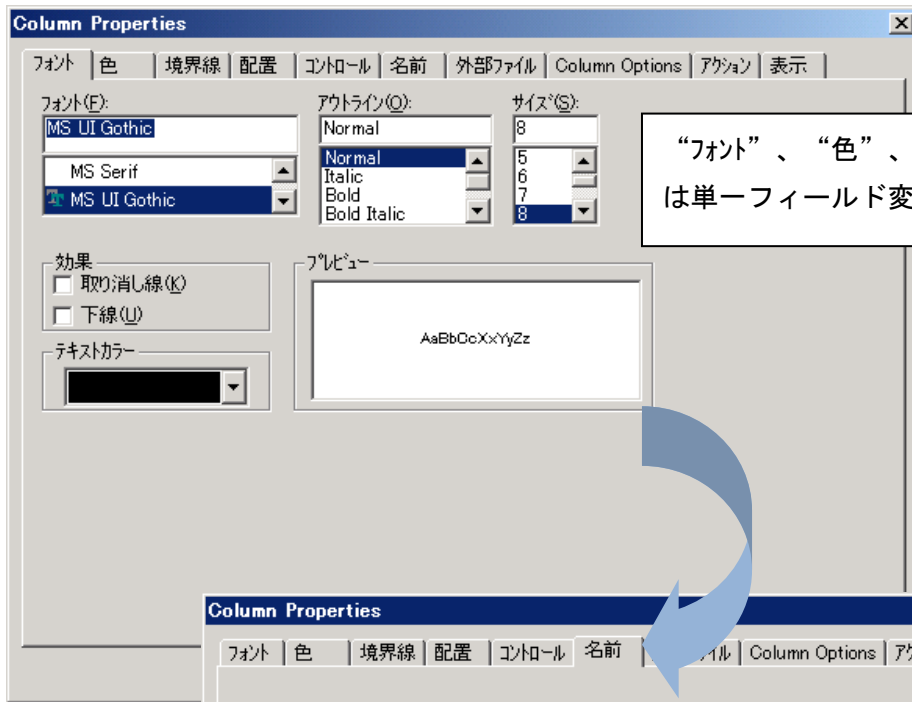
テーブルフィールド変数のプロパティは、**列単位**、**行単位**、**セル単位**に指定することができます。

P29 に示しますように、スプールデータの列とみなされる繰返し行を、まとめてテーブルフィールド変数の列にマッピングする予定です。マッピング(Lesson-7)は、スプールデータにおける行及び、桁位置を指定して、どの変数(変数名)に割り当てるかを指定します。したがって、テーブルフィールド変数のフィールド名は、**列単位**に行うことになります。**行単位**、**セル単位**のプロパティでは、フィールド名を指定することはできません。**行単位**、**セル単位**のプロパティにつきましては、後述いたします。

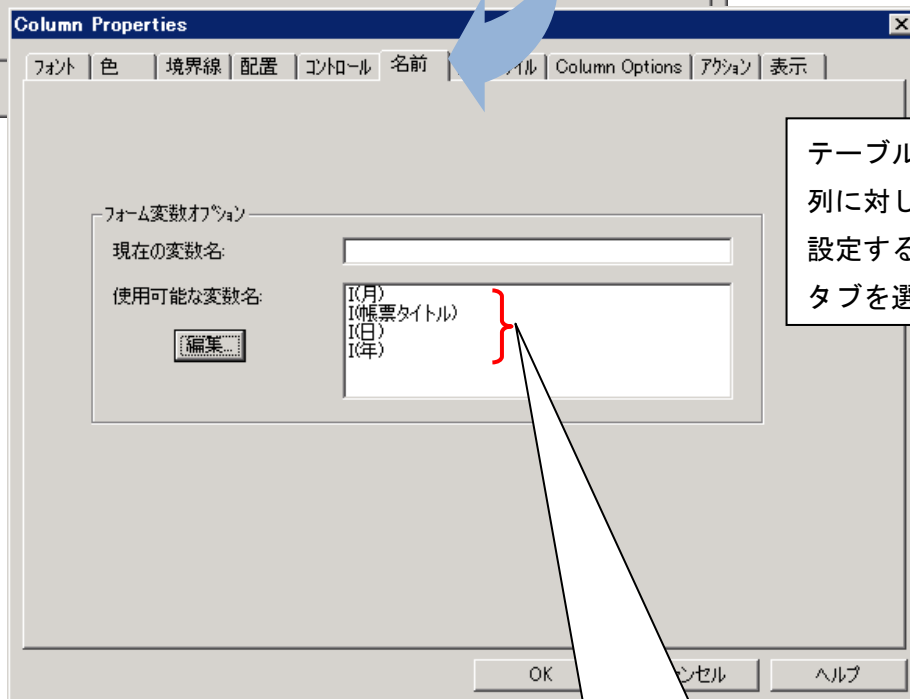
列のプロパティ

① 列見出しをクリックし、対象の列を黒く反転表示させます。
この例は、列見出しの「A」の部分をクリックします。(A列)

② 黒く反転したエリアにカーソルを合わせ、右クリックしてプロパティを選択します。

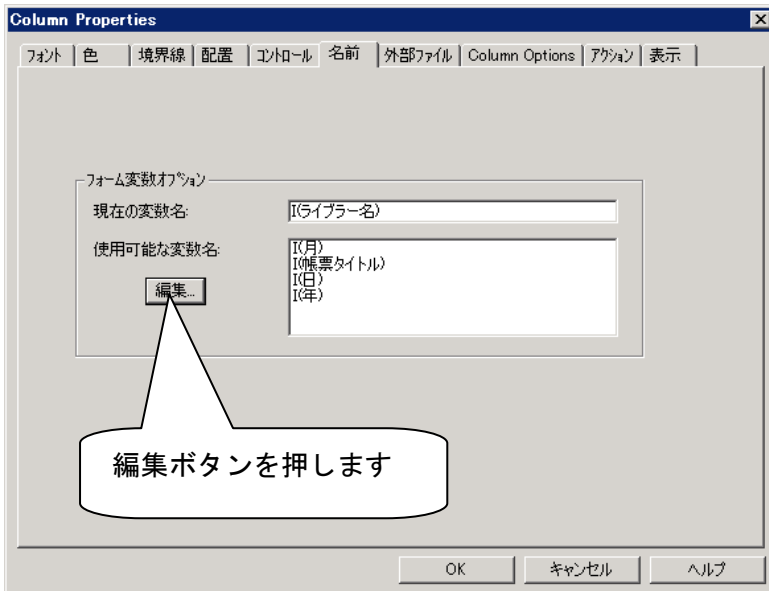


“フォント”、“色”、“境界線”、“配置”
は単一フィールド変数の設定方法と同じです。

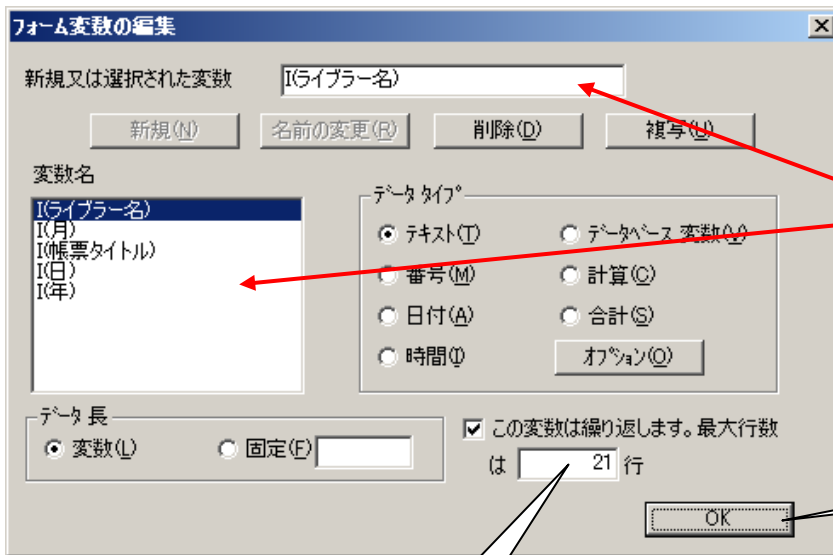


テーブルフィールド変数の
列に対してフィールド名を
設定するために、「名前」
タブを選択します

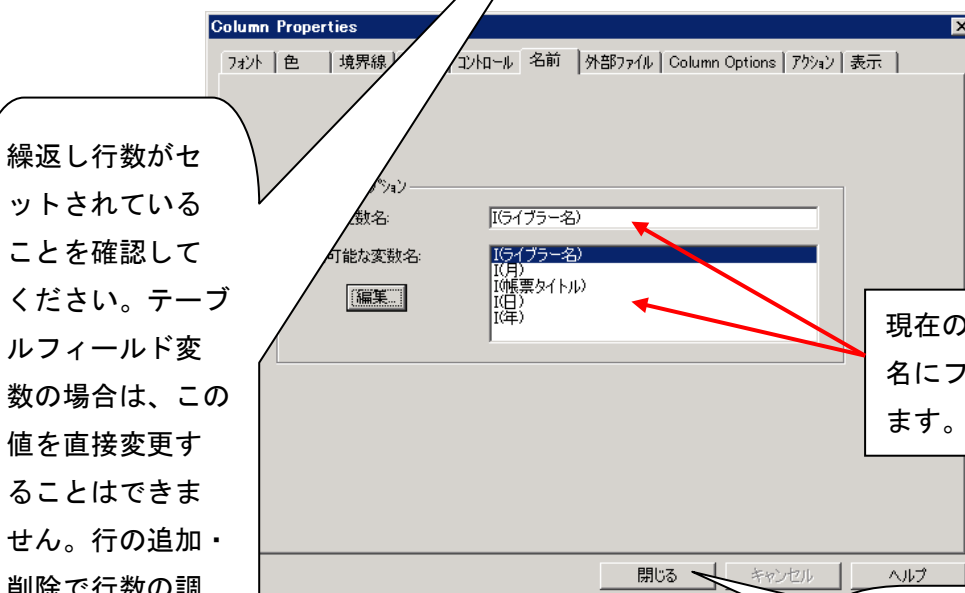
既に、これまでの Lesson で設定
した単一フィールド変数名が一
覧表示されていることを確認し
てください。



(A列)は、スプールデータのライブラリー名エリアをマッピングする予定ですので、I(ライブラリー名)と命名しましょう。命名ルールは、単一フィールド変数の場合と同じです。



[新規又は選択された変数]欄と変数名一覧に入力したフィールド名がセットされている事を確認します。



繰返し行数がセットされていることを確認してください。テーブルフィールド変数の場合は、この値を直接変更することはできません。行の追加・削除で行数の調整を行ってください。

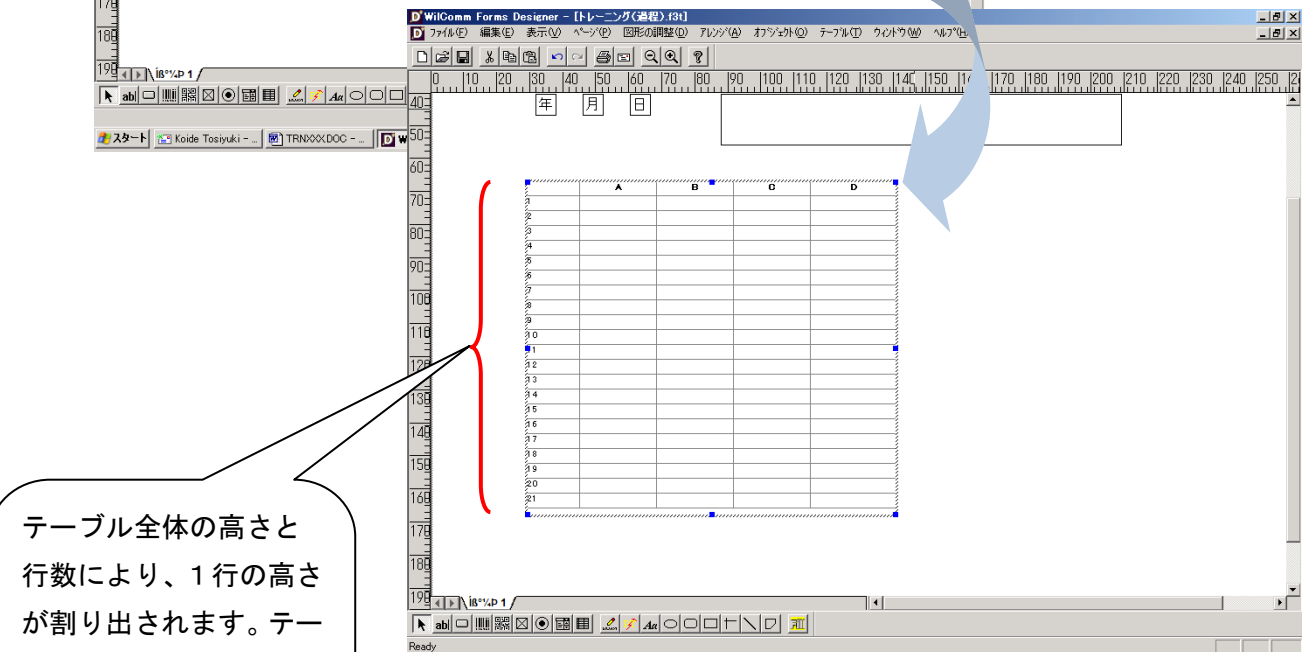
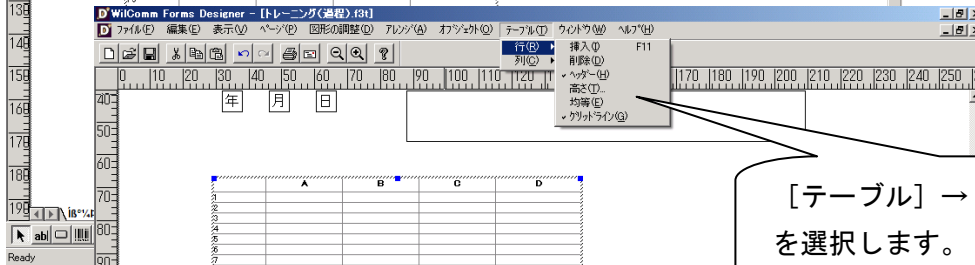
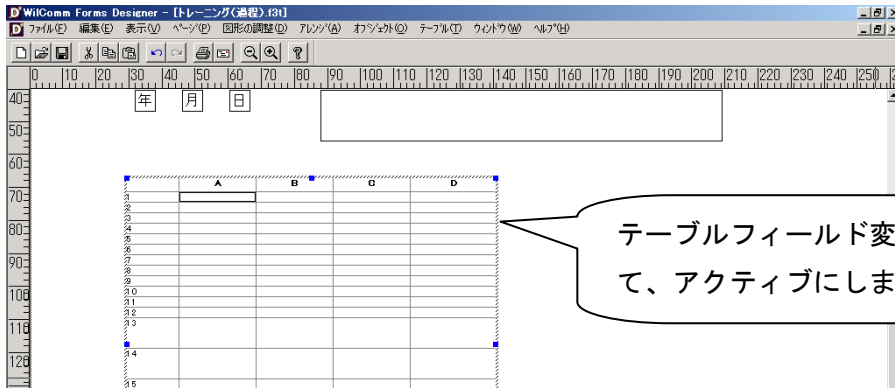
現在の変数名、使用可能な変数名にフィールド名がセットされます。

閉じるボタンを押して、A列が確定します。

テーブルフィールド変数のサイズ調整

行の高さを均等

明細部である繰返し行は、どの行も均等の高さであることが良いでしょう。



行の高さを個別に調整

5722SS1 V5R4M0 060210 ライブラリー・リスト 11/05/17 23:32:35 ページ 1

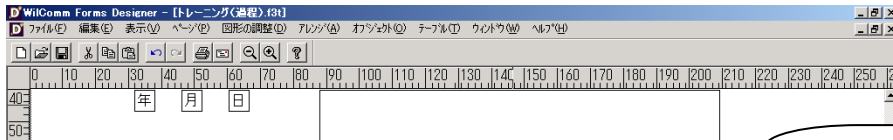
ライブラリー	タイプ	装置	テキスト記述
WILQ2962	SYS		WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
QSYS	SYS		システム・ライブラリー
QSYS2	SYS		CPI のシステム・ライブラリー
QHLP SYS	SYS		
QUSRSYS	SYS		システム・ライブラリー
WILCOMM	PRD		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	CUR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
QGPL	USR		GENERAL PURPOSE LIBRARY
QTEMP	USR		

***** リストの終わり *****

テーブルフィールド変数の1行目は、スーパーデータの明細部における繰返しの先頭行を受取る予定にしています。

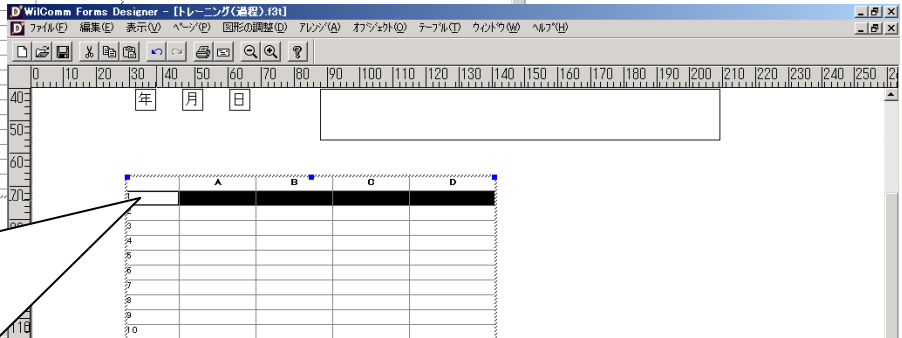
ライブラリー	タイプ	装置	テキスト記述
WILQ2962	SYS		WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
QSYS	SYS		システム・ライブラリー
QSYS2	SYS		CPI のシステム・ライブラリー
QHLP SYS	SYS		
QUSRSYS	SYS		システム・ライブラリー
WILCOMM	PRD		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	CUR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
QGPL	USR		GENERAL PURPOSE LIBRARY
QTEMP	USR		

予定している値は、繰返し行のタイトルです。よって、テーブルフィールド変数の1行目は、他の繰返し行よりも高さを高くして、強調するようにしましょう。

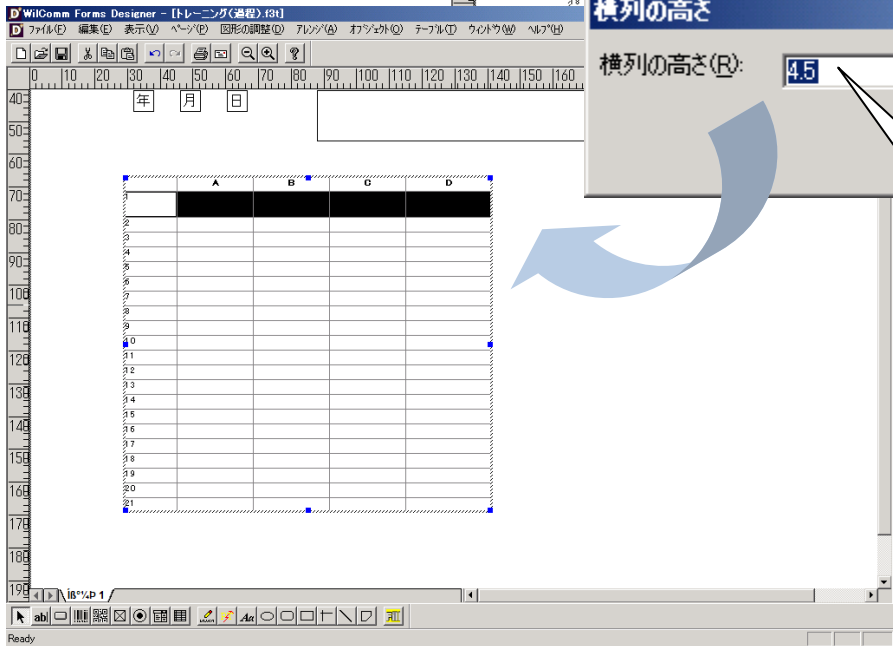
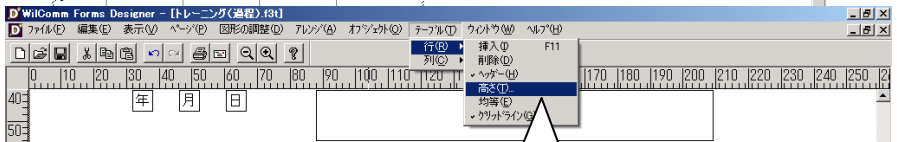


テーブルフィールド変数をクリックして、アクティブにします。

① 行見出しをクリックし、対象の行を黒く反転表示させます。
この例は、1行目の高さを変更しようとしています。行見出しの「1」の部分をクリックします。
(1行目)



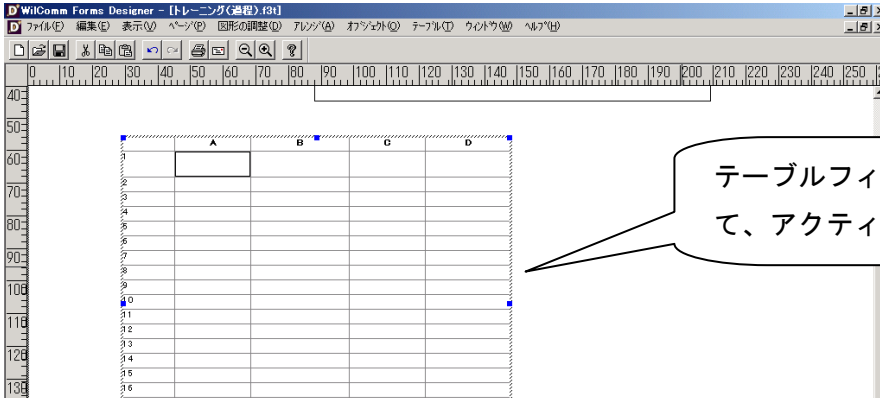
② [テーブル] → [行] → [高さ] を実行します。



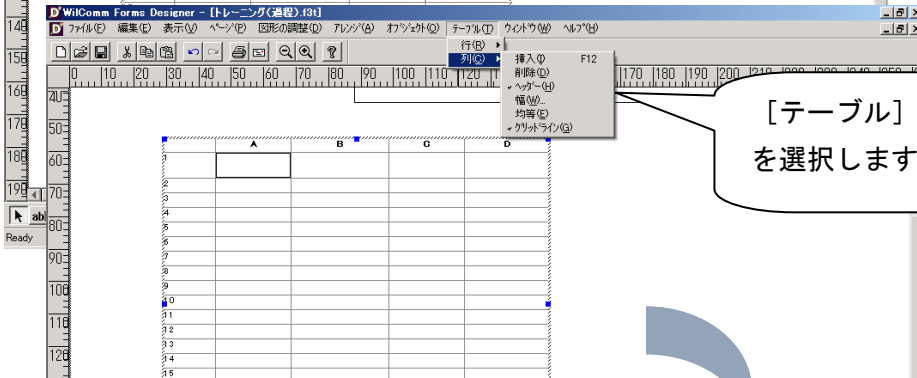
③ 高さ「4.5」を指定し、[OK] を押します。
あまり高さに変化が見られない時は、値を大きくしてください。

ヒント : Ctrlキーを押しながら見出しをクリックし、複数行を同時に設定する事が可能です。

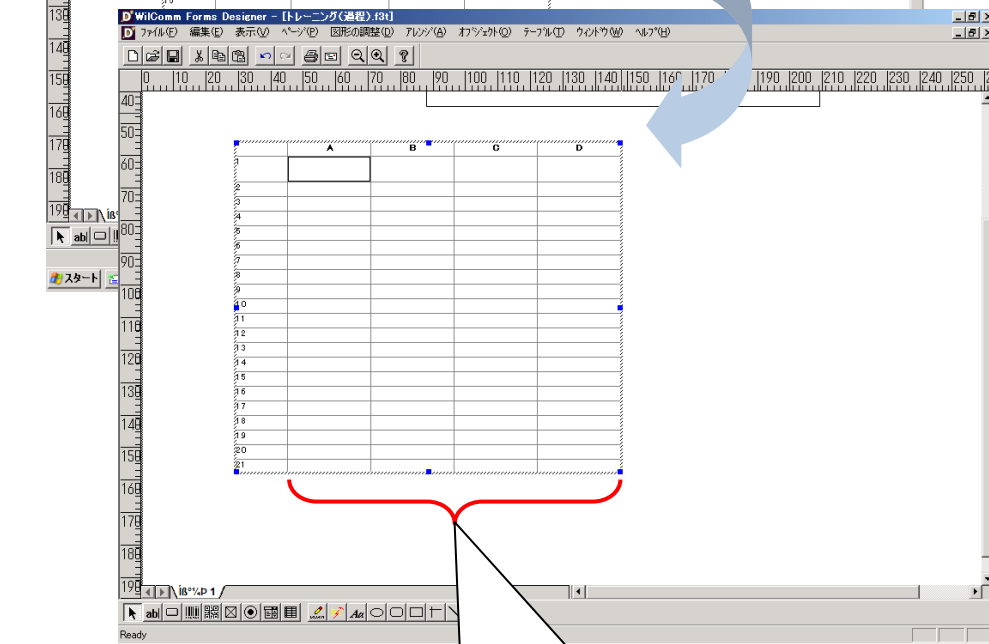
列の幅を均等



テーブルフィールド変数をクリックして、アクティブにします。



[テーブル] → [列] → [均等]
を選択します。



テーブル全体の幅と列数により、1列の幅が割り出されます。テーブル全体の幅を決定してから、均等設定を行ってください。

テーブルフィールド変数をクリックして、アクティブにします。

① 列見出しをクリックし、対象の列を黒く反転表示させます。この例は、A列の幅を変更しようとしています。列見出しの「A」の部分をクリックします。(A列)

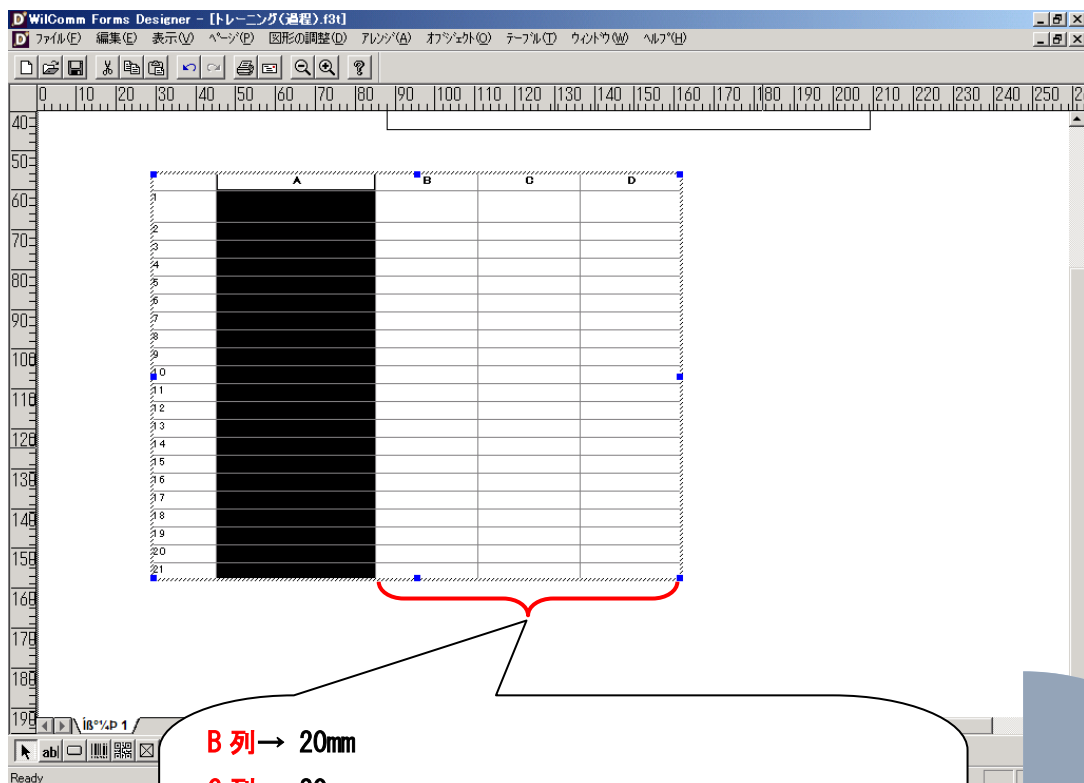
② [テーブル] → [列] → [幅] を実行します。

カラムの幅
カラムの幅(C) 25.7 Millimetres OK キャンセル

③この時点での幅が表示されますので、「30」mmを指定して、[OK]を押します。

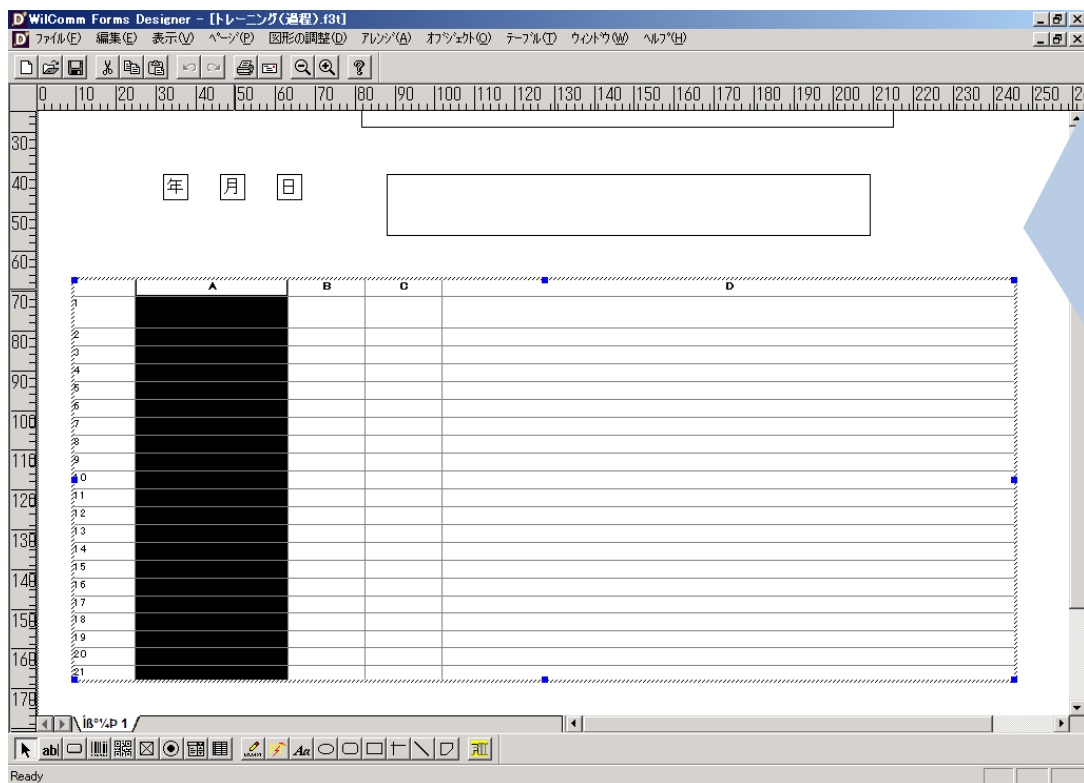
ヒント : Ctrlキーを押しながら見出しをクリックし、複数列を同時に設定する事が可能です。

同じ要領で、B列・C列・D列の3つの列幅を確定してください。



B列 → 20mm
C列 → 20mm
D列 → 150mm

P44 のステップを繰り返してください。
上記の値は、あくまで目安です。全体のバランスを考慮して、最適な値を指定してください。

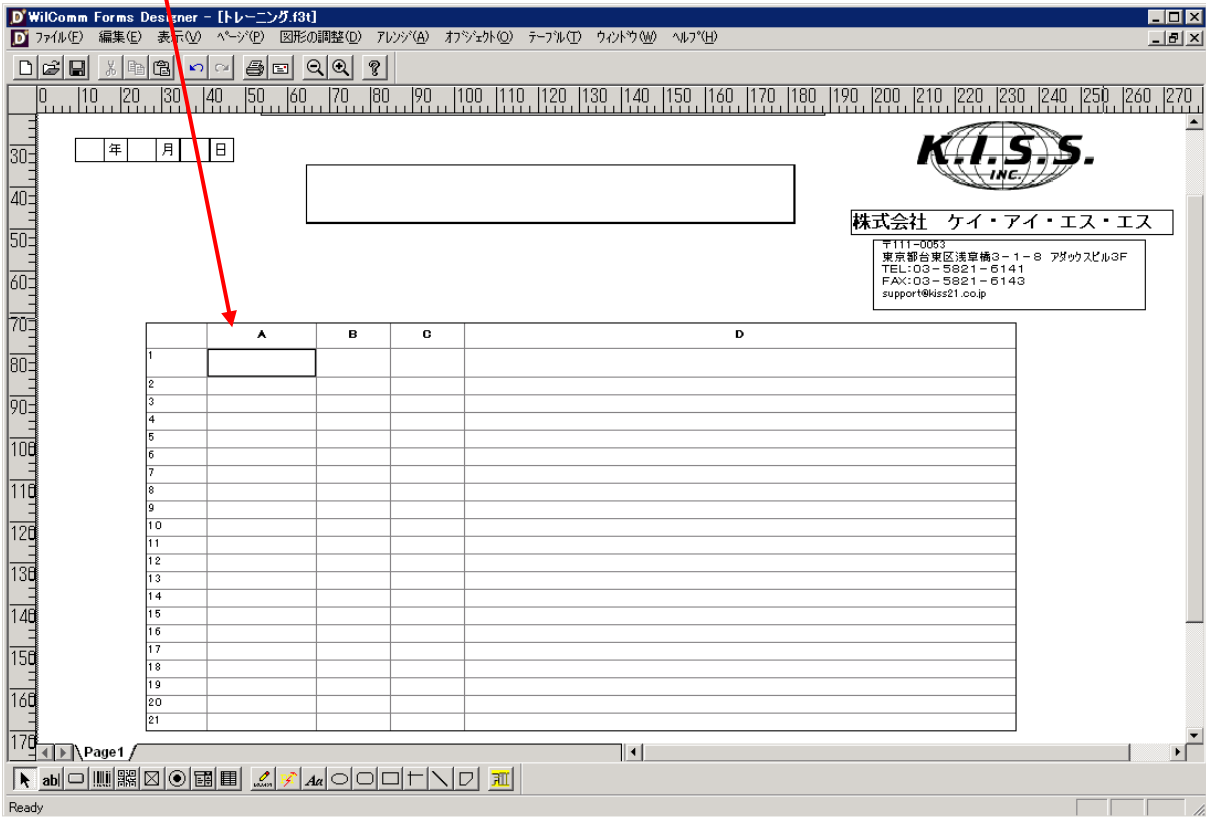


グリッドライン

デザイナーの画面を見ている限り、罫線が引かれているように見えます。

これは、**グリッドライン**と言われるものです。このラインをそのまま使用することも可能ですが、実際のアウトプット上には、少しぼやけた、やや太めのラインとして出力されます。

グリッドラインは、設計をする上で、テーブルフィールド変数の位置を確認するための目安線として考えたほうが良いでしょう。



実際のアウトプット上に、シャープな罫線や破線を引くためには、列及び、行のプロパティで境界線の設定をしてください。

境界線を設定した後に、グリッドラインは非表示にします。

グリッドラインを非表示にする手順を、あらかじめ確認しておきましょう。

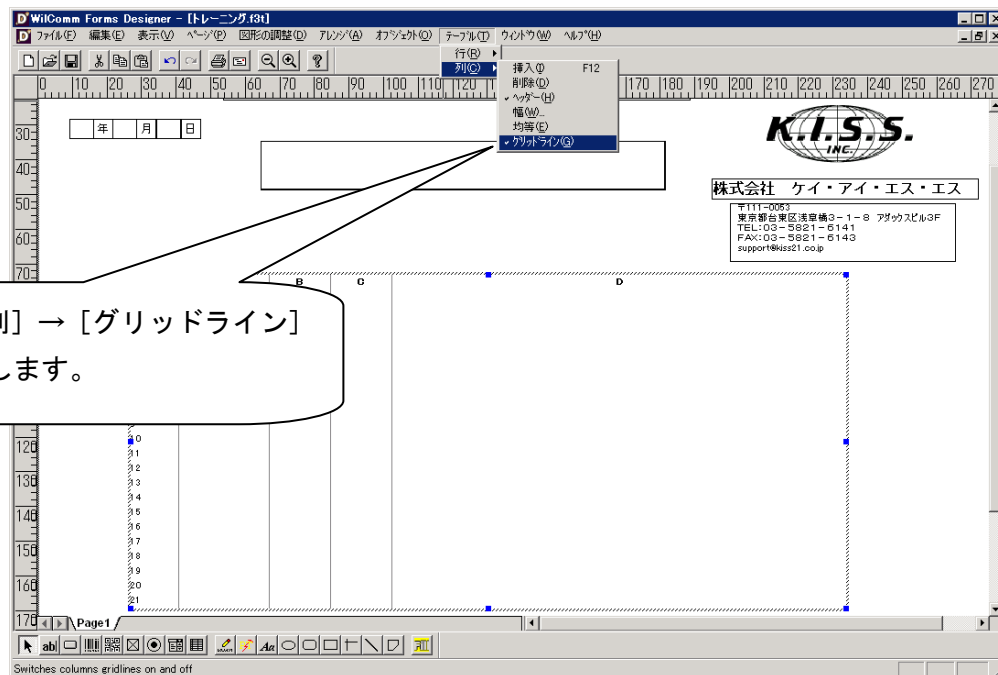
The image consists of three sequential screenshots of the WilComm Forms Designer software interface, illustrating the process of hiding grid lines in a table field. Each screenshot shows a form design area with a table and a callout box providing instructions.

Top Screenshot: The interface shows a form with a date field and a table. A callout box points to the table field with the text: "テーブルフィールド変数をクリックして、アクティブにします。" (Click the table field variable to activate it).

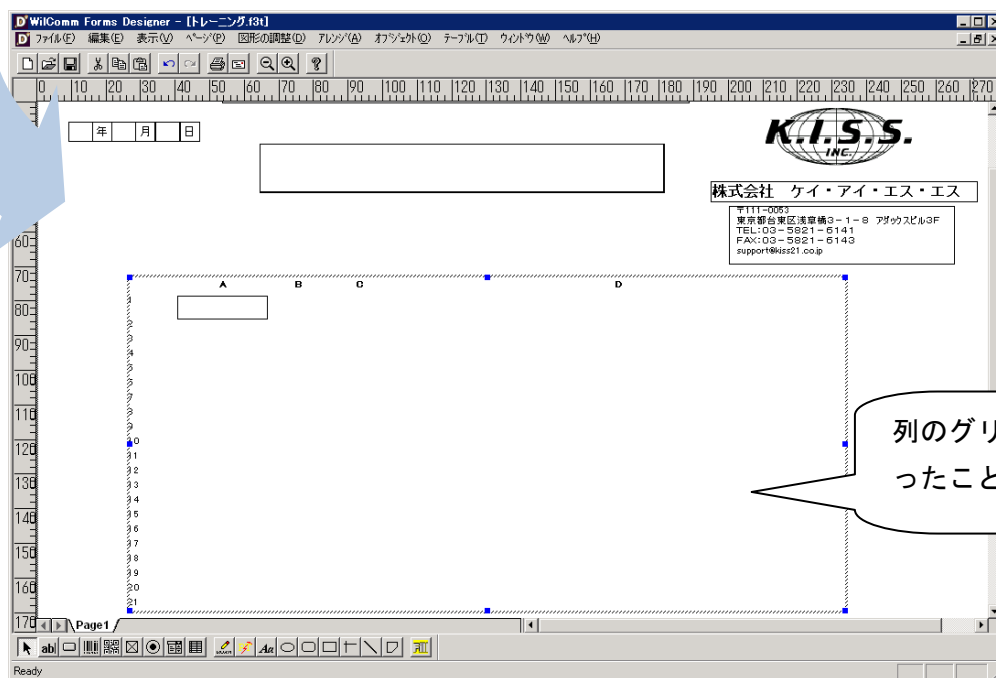
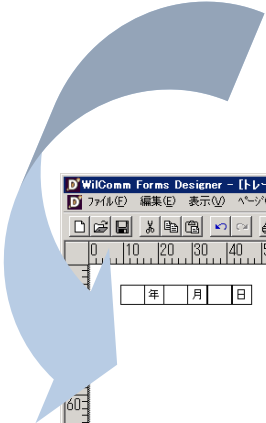
Middle Screenshot: The software's menu is open, showing the path: [テーブル] → [行] → [グリッドライン]. A callout box states: "[テーブル] → [行] → [グリッドライン] のチェックをはずします。" (Uncheck [Table] → [Row] → [Grid Lines]).

Bottom Screenshot: The grid lines in the table are now hidden. A callout box says: "行のグリッドラインが非表示になったことを確認してください。" (Please confirm that the row grid lines are hidden).

更に、列に引かれている縦のグリッドラインを非表示にしてみましょう。



[テーブル] → [列] → [グリッドライン]
のチェックをはずします。

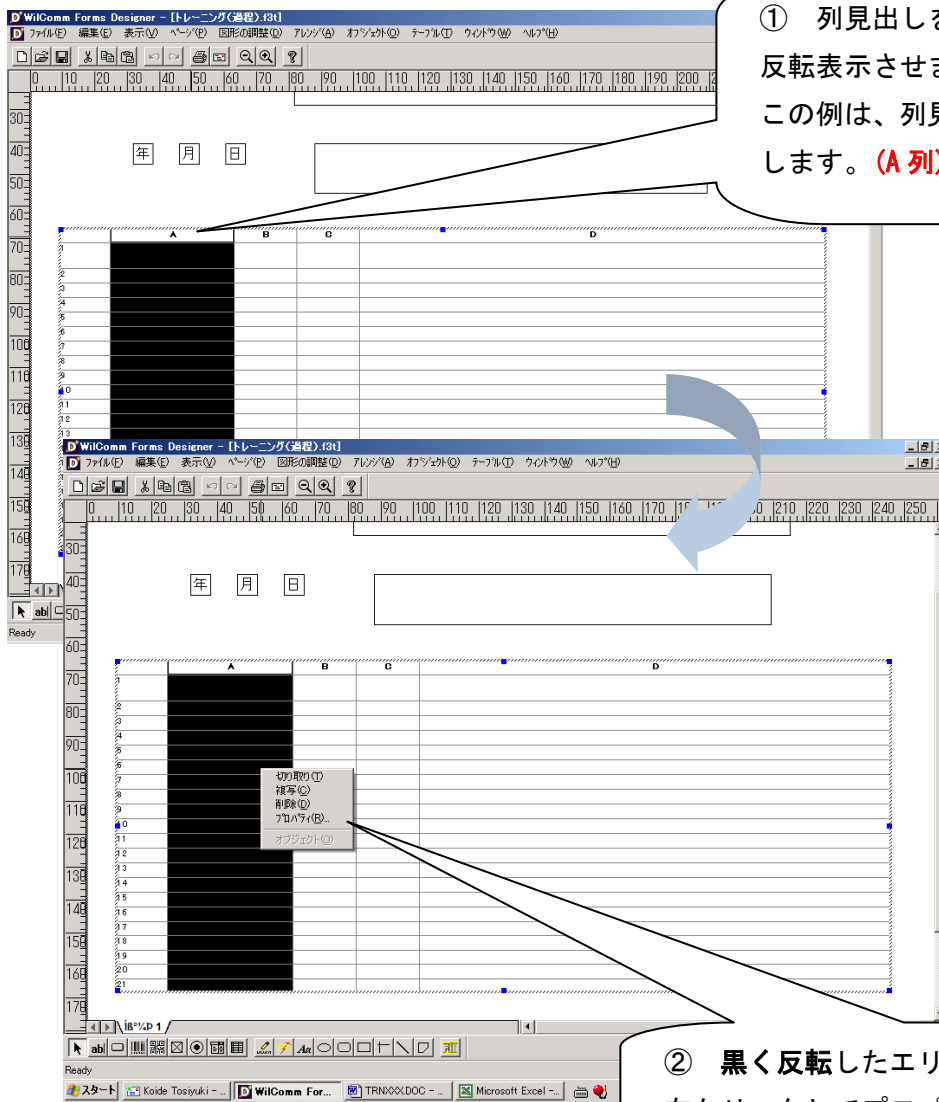


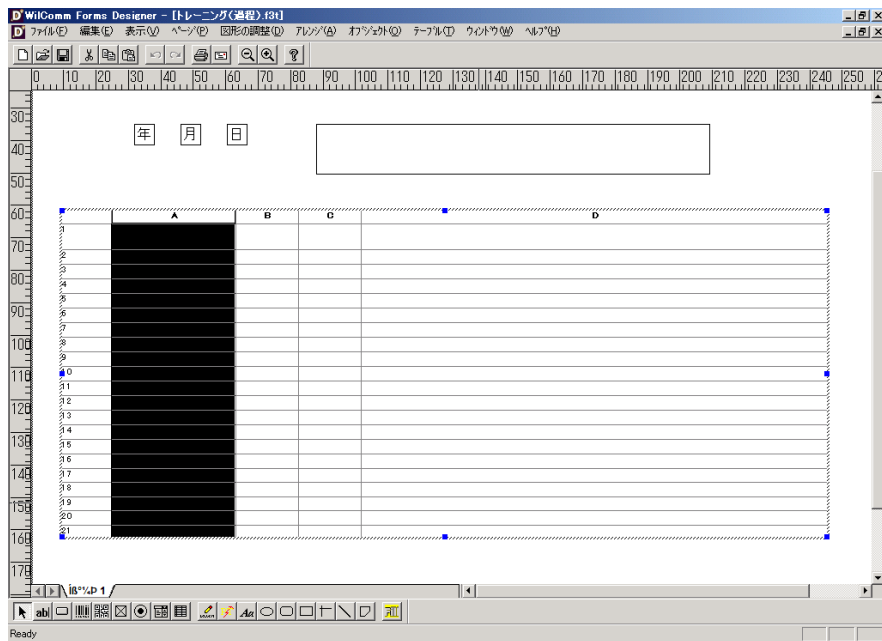
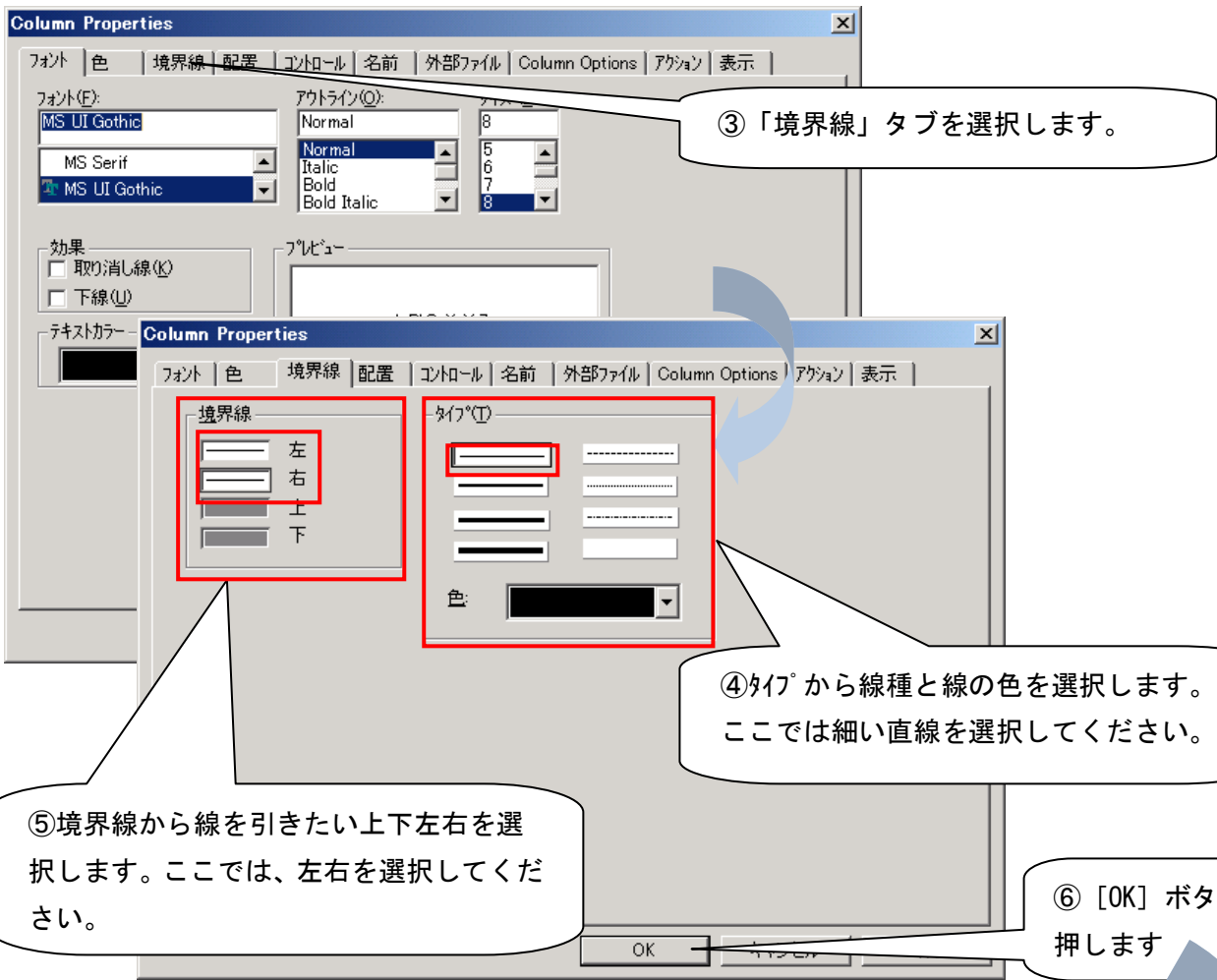
列のグリッドラインが非表示にな
ったことを確認してください。

グリッドラインの非表示方法が確認できましたら、再度グリッドライン表示に戻してください。手順は非表示にした要領と同じです。グリッドライン再選択しますと表示されます。

列及び、行の境界線設定が完了した時点で、グリッドラインを非表示にすることを覚えておいてください。

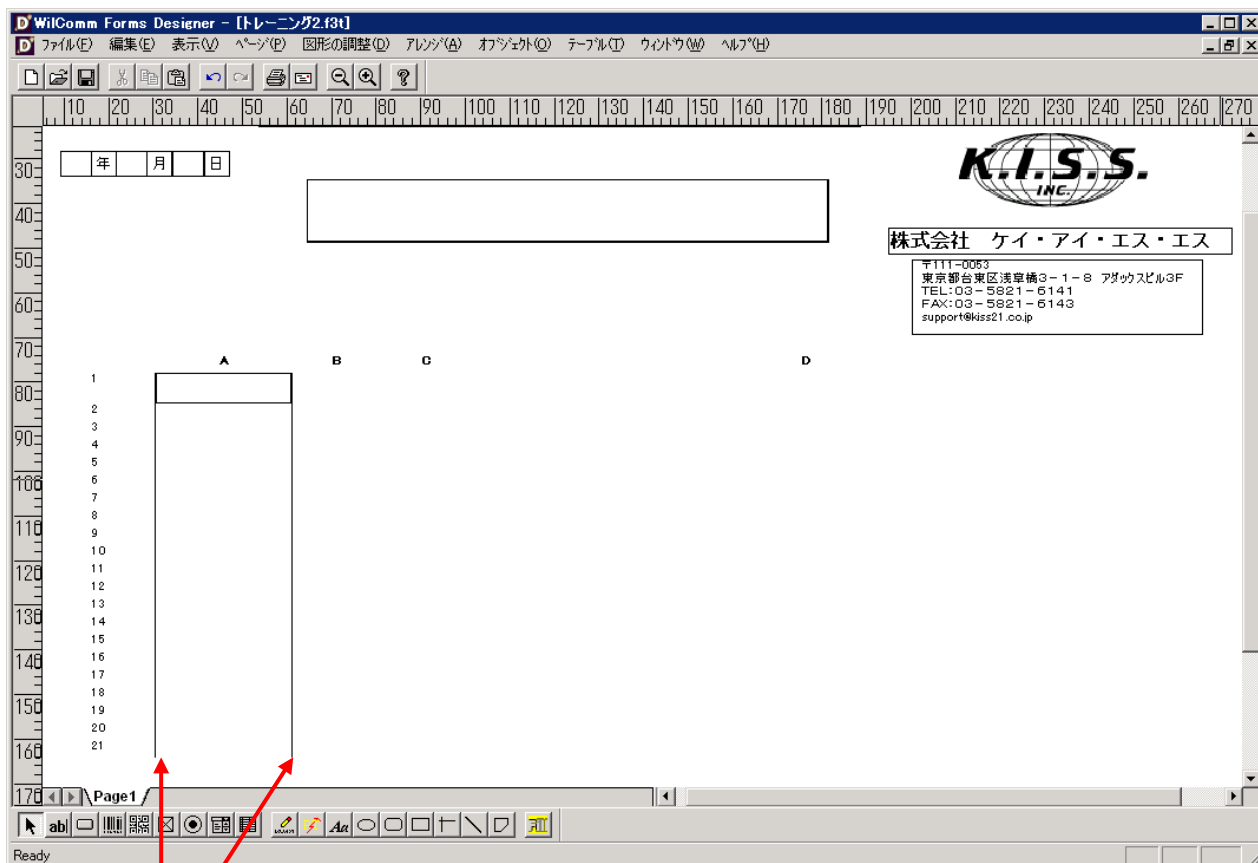
列の境界線





(A 列)の左右に直線が引かれました。

列と行のグリッドラインを非表示にして、境界線が正しく設定されているか確認してみましょう。



(A 列)の左右に境界線が確認できましたら、再度グリッドライン表示に戻してください。

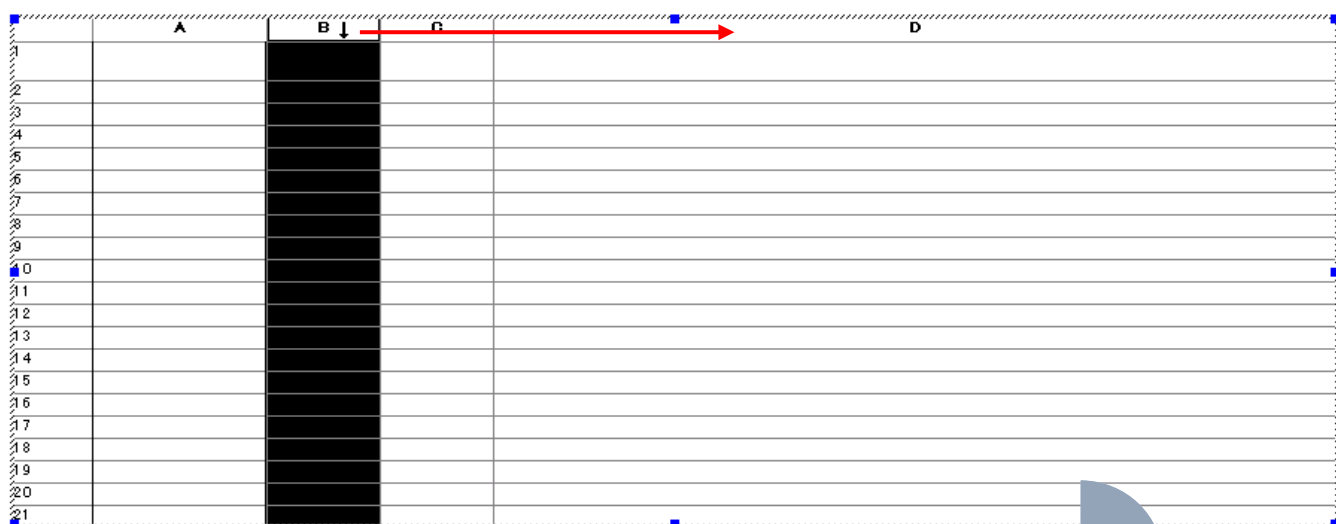
(A 列)と同じ要領で (B 列)にも左右の境界線を指定すると、(A 列)の右側境界線と(B 列)の左側境界線が重なり合い、(A 列)の左側境界線より太く見えてしまいます。



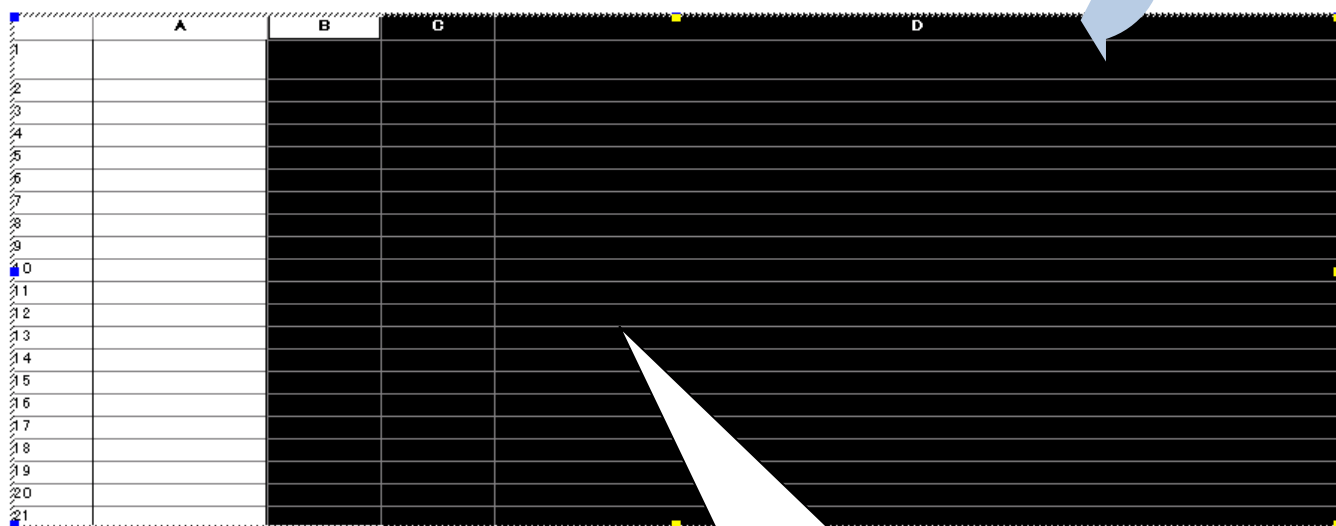
以上のことから、(B列)、(C列)、(D列)には右境界線のみを指定すれば、境界線は重なり合うことがなくなります。

では、(B列)、(C列)、(D列)の境界線設定を以下の要領で行ってください。1列毎に設定するのではなく、複数列をまとめて設定する方法で行います。

列見出し(B)をクリックして、(B列)を選択します。その際に、マウスは列見出し(B)をクリックしたまま、右側の(D列)方向にスライドするようにドラッグしてください。



(B列)(C列)(D列)すべてが選択された状態にしてください。



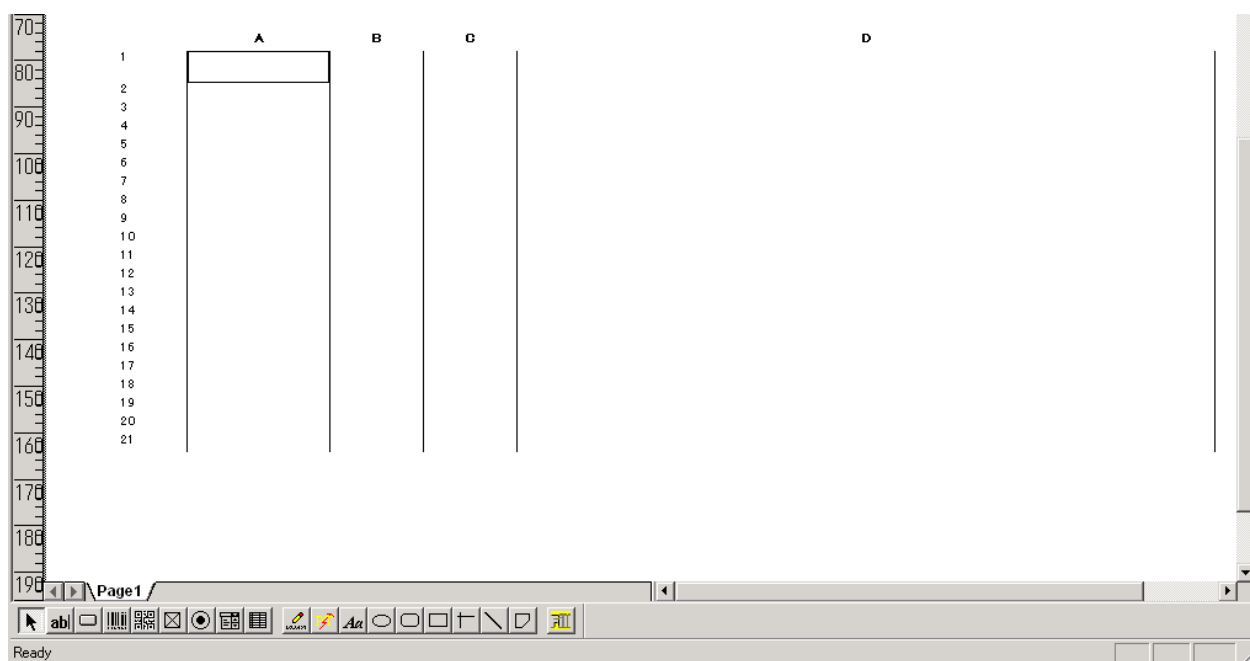
黒く反転したエリアにカーソルを合わせ、
右クリックしてプロパティを選択します。

👉 ヒント : Ctrlキーを押しながら見出しをクリックし、複数列を選択する事も可能です。

以下のように、境界線タブで右境界線の設定だけを行います。



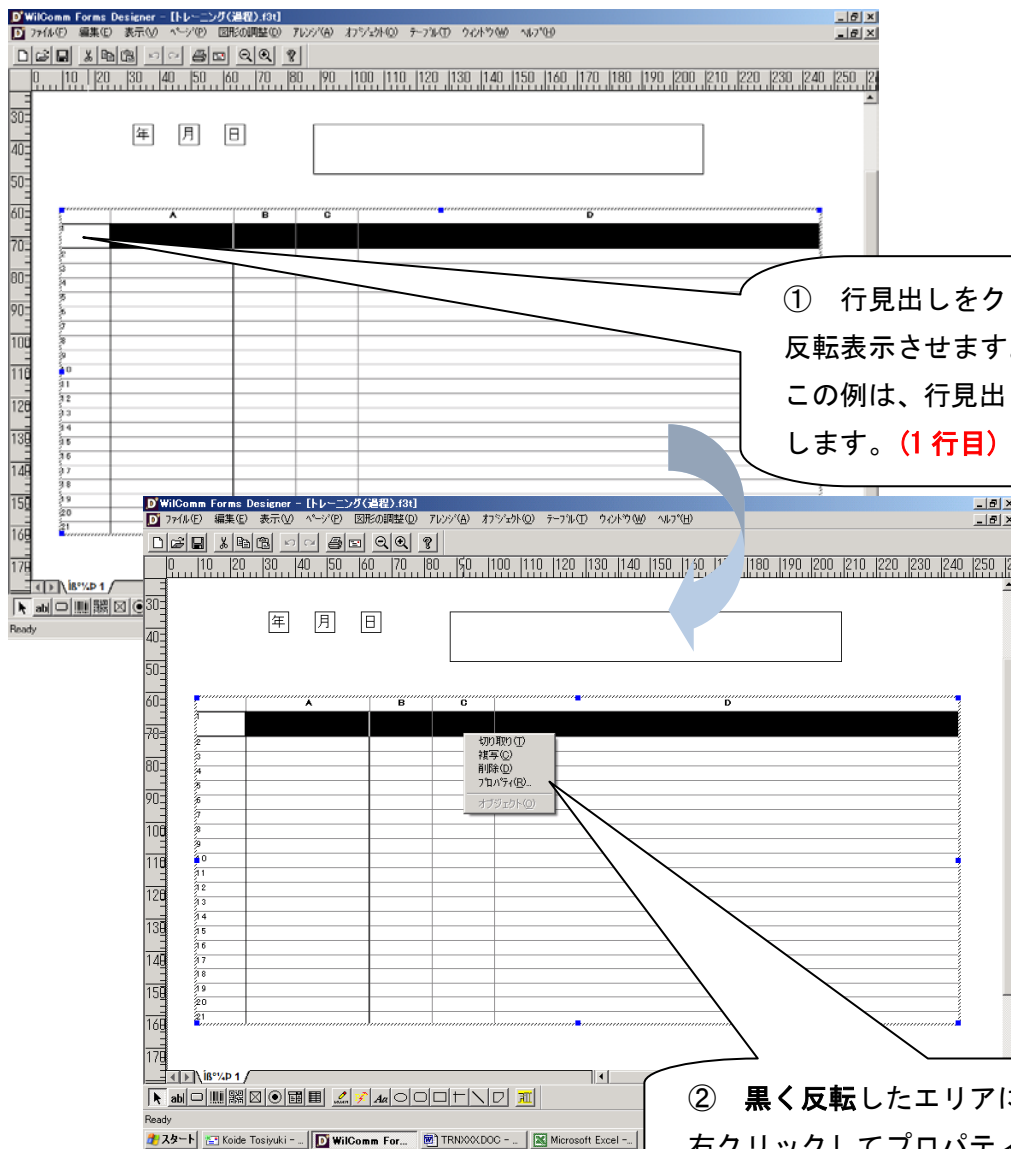
「OK」ボタンで確定し、再度テーブルフィールド変数のグリッドラインを非表示にして、境界線が正しく設定されているか、確認してください。

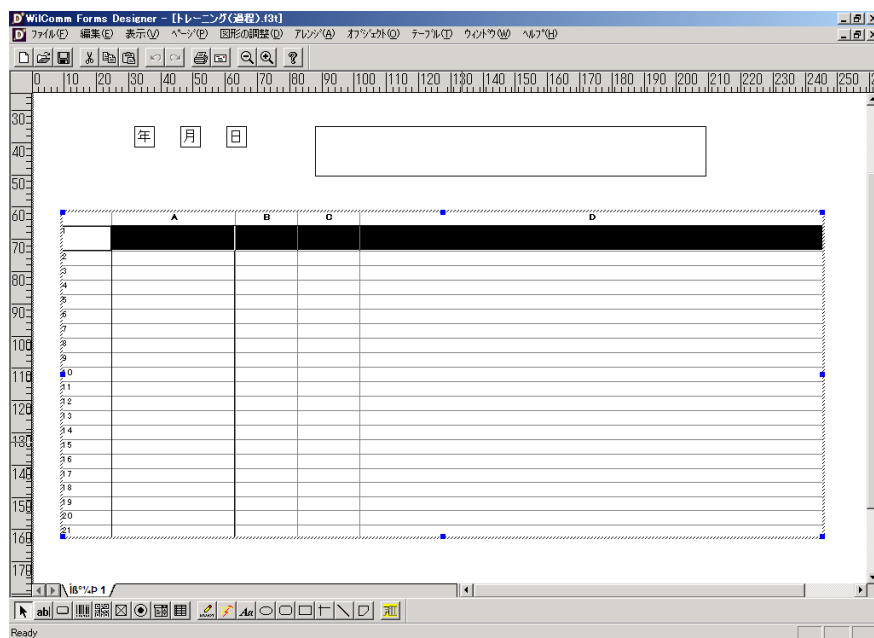
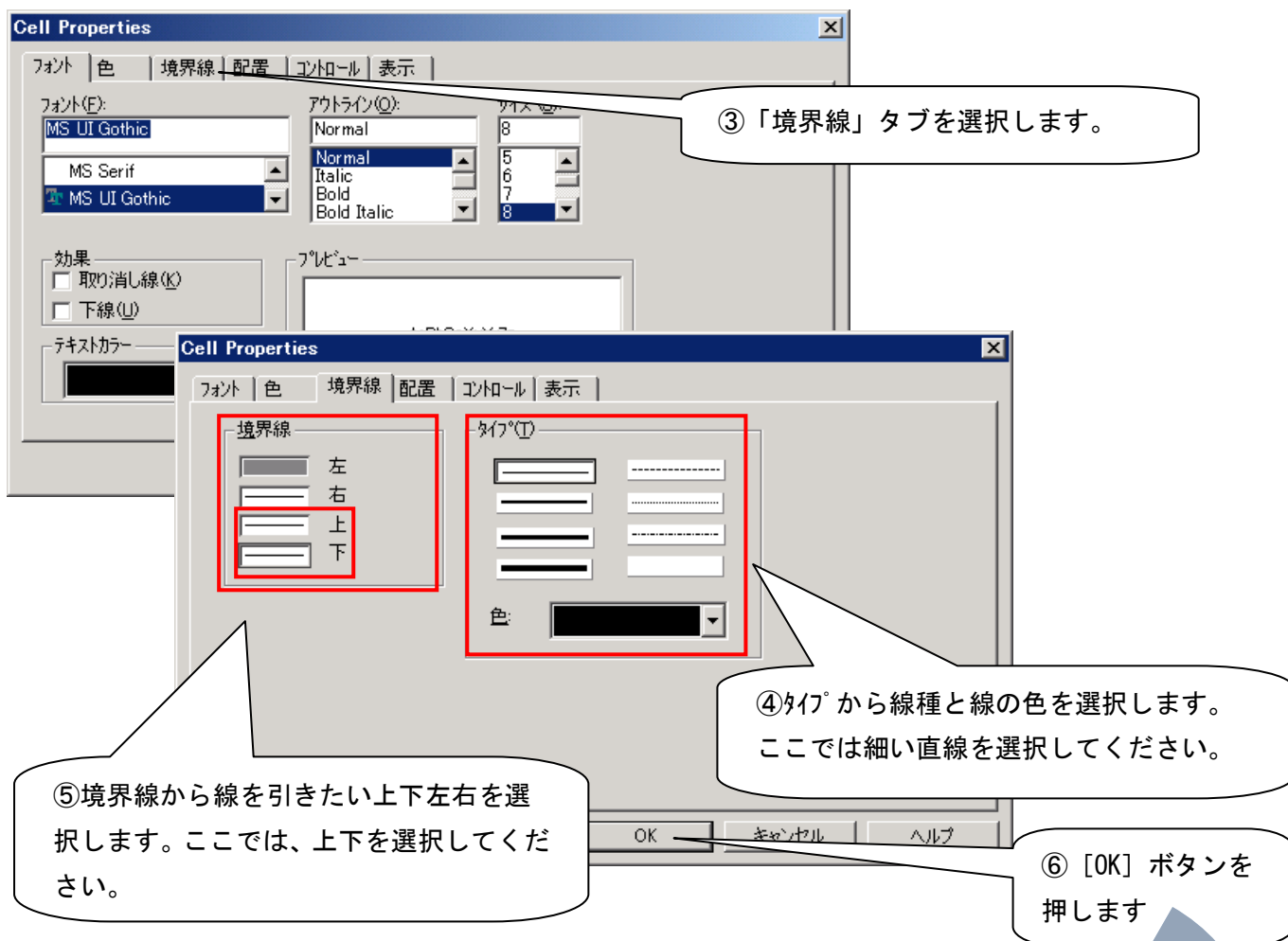


列の垂直境界線を設定するコツは、最左の(A列)のみ、左右境界線を指定し、それ以外の列は、右境界線のみを指定することです。

確認できましたら、再度グリッドライン表示に戻してください。

行の境界線

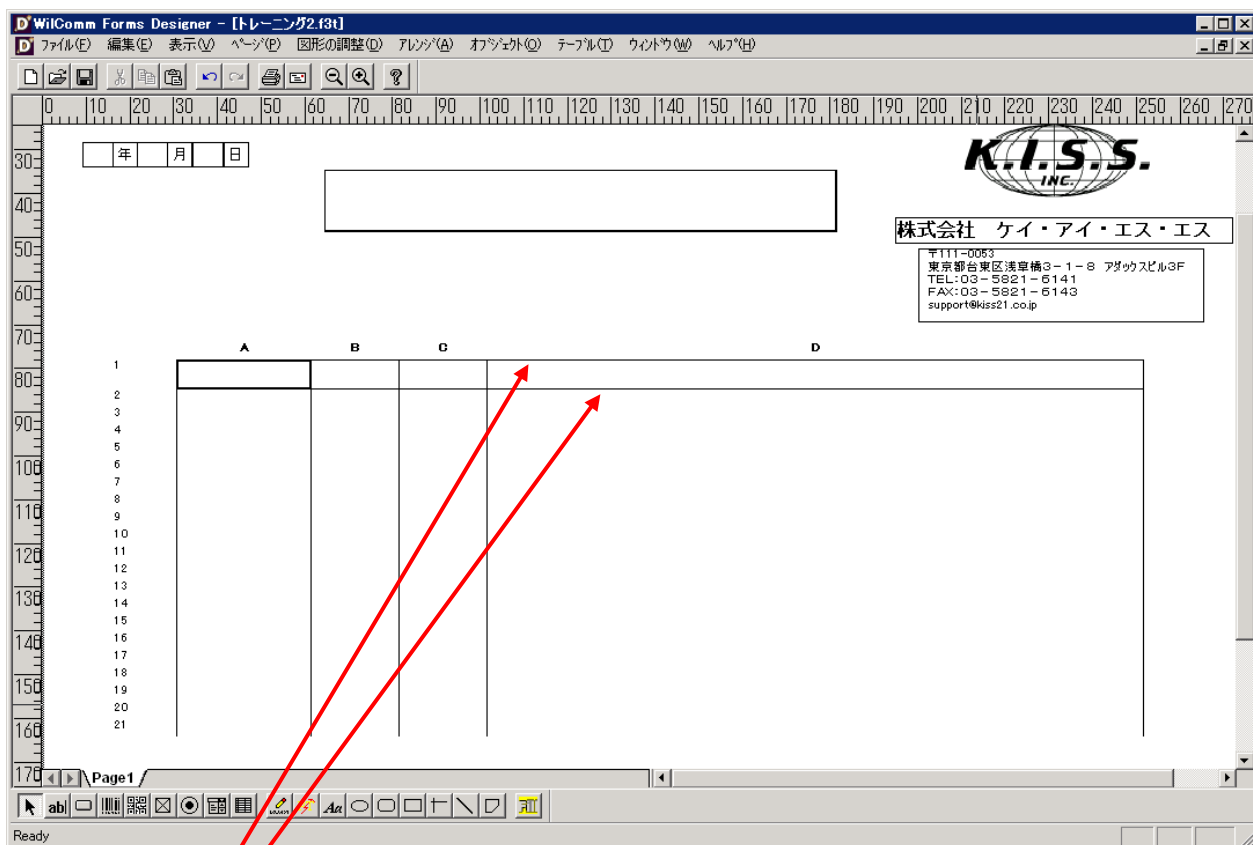




(1 行目)の上下に直線が引かれました。

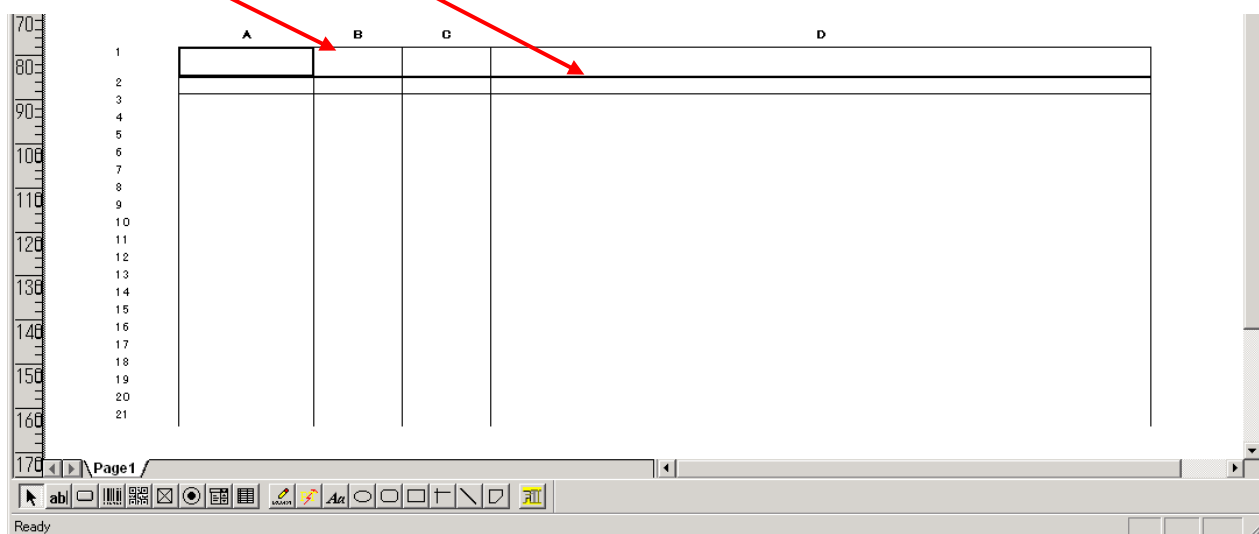
右境界線が、既に指定されていることにお気づきでしょう。列の境界線設定が既に済んでいるためです。選択した行は(A列)から(D列)までを含んでいます。列の境界線設定で共通しているのは、右境界線であることを思い出してください。(A列)では左境界線も設定されていますが、他の列とは共通ではありませんので右境界線のみが確認できます。

列と行のグリッドラインを非表示にして、境界線が正しく設定されているか確認してみましょう。



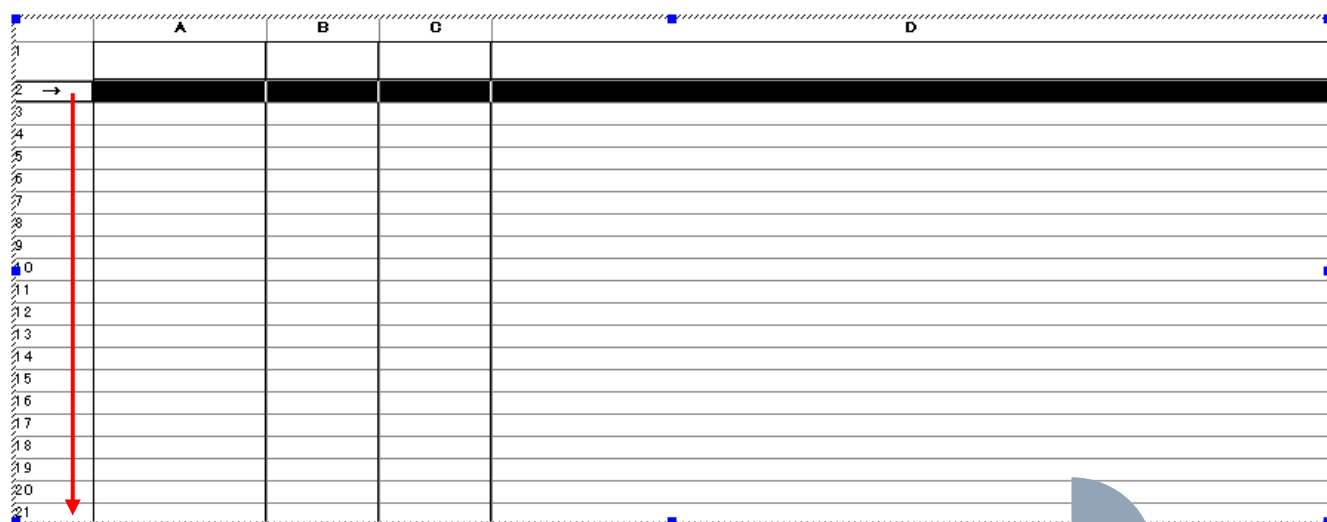
(1行目)の上下に境界線が確認できましたら、再度グリッドライン表示に戻してください。

(1行目)と同じ要領で(2行目)にも上下の境界線を指定すると、(1行目)の下境界線と(2行目)の上境界線が重なり合い、(1行目)の上境界線より太く見えてしまいます。これは、列の境界線と同じです。

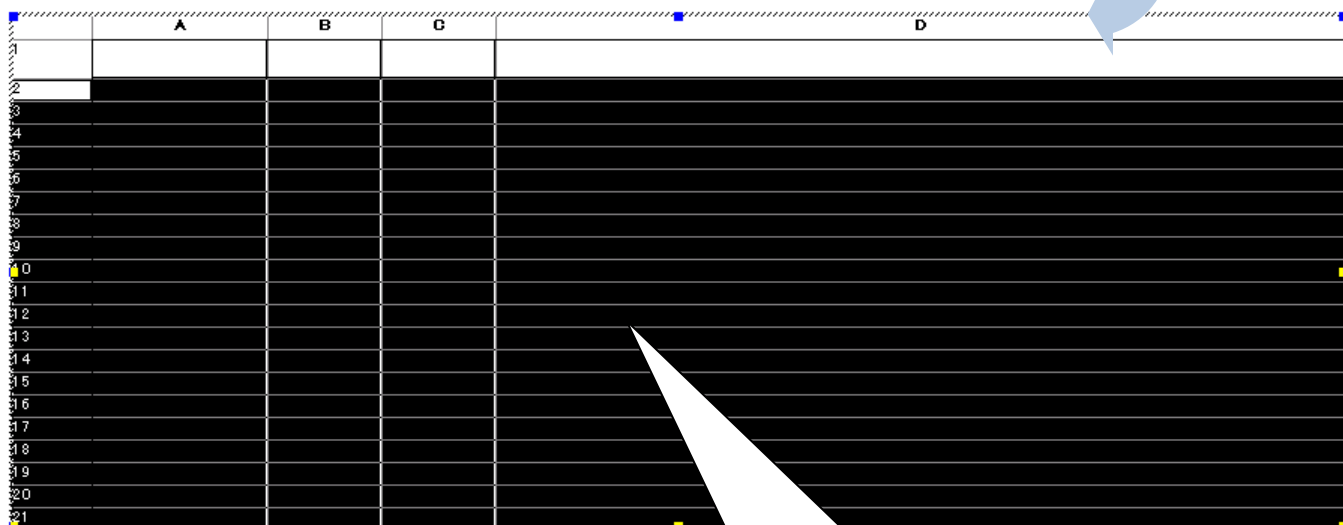


以上のことから、(2行目)～(21行目)には下境界線のみを指定すれば、境界線は重なり合うことがなくなります。では、(2行目)～(21行目)の境界線設定を以下の要領で行ってください。1行毎に設定するのではなく、複数行をまとめて設定する方法で行います。

行見出し(2)をクリックして、(2行目)を選択します。その際に、マウスは行見出し(2)をクリックしたまま下側の(21行目)方向にスライドするようにドラッグしてください。



(2行目)～(21行目)すべてが選択された状態にしてください。



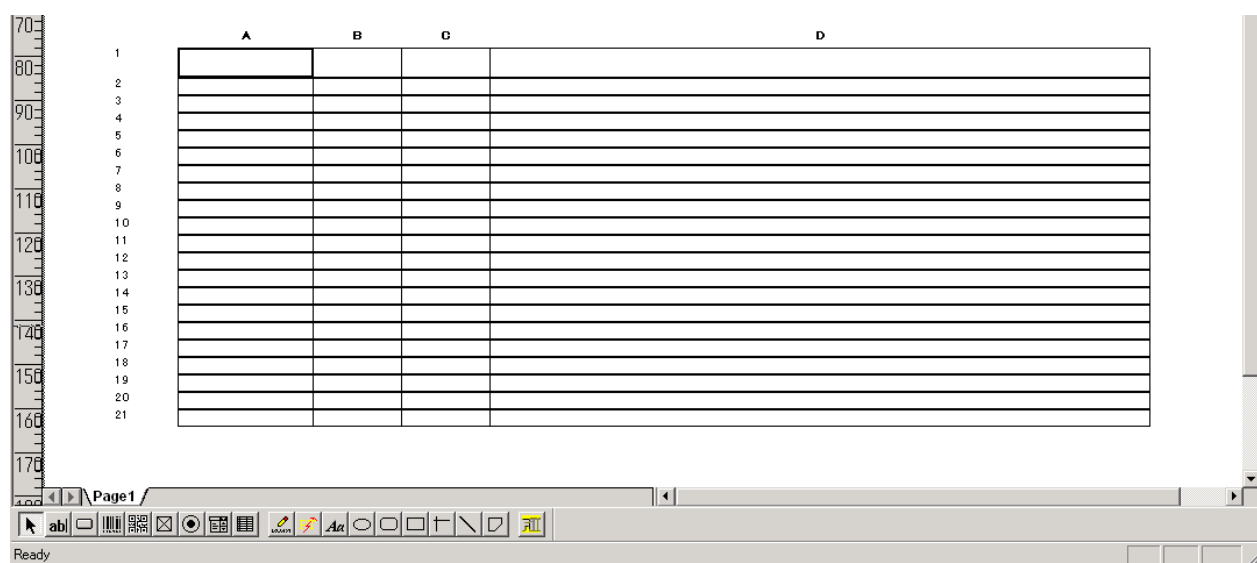
黒く反転したエリアにカーソルを合わせ、
右クリックしてプロパティを選択します。

👉 ヒント : C t r lキーを押しながら見出しをクリックし、複数行を選択する事も可能です。

以下のように、境界線タブで下境界線の設定だけを行います。



「OK」ボタンで確定し、再度テーブルフィールド変数のグリッドラインを非表示にして、境界線が正しく設定されているか、確認してください。



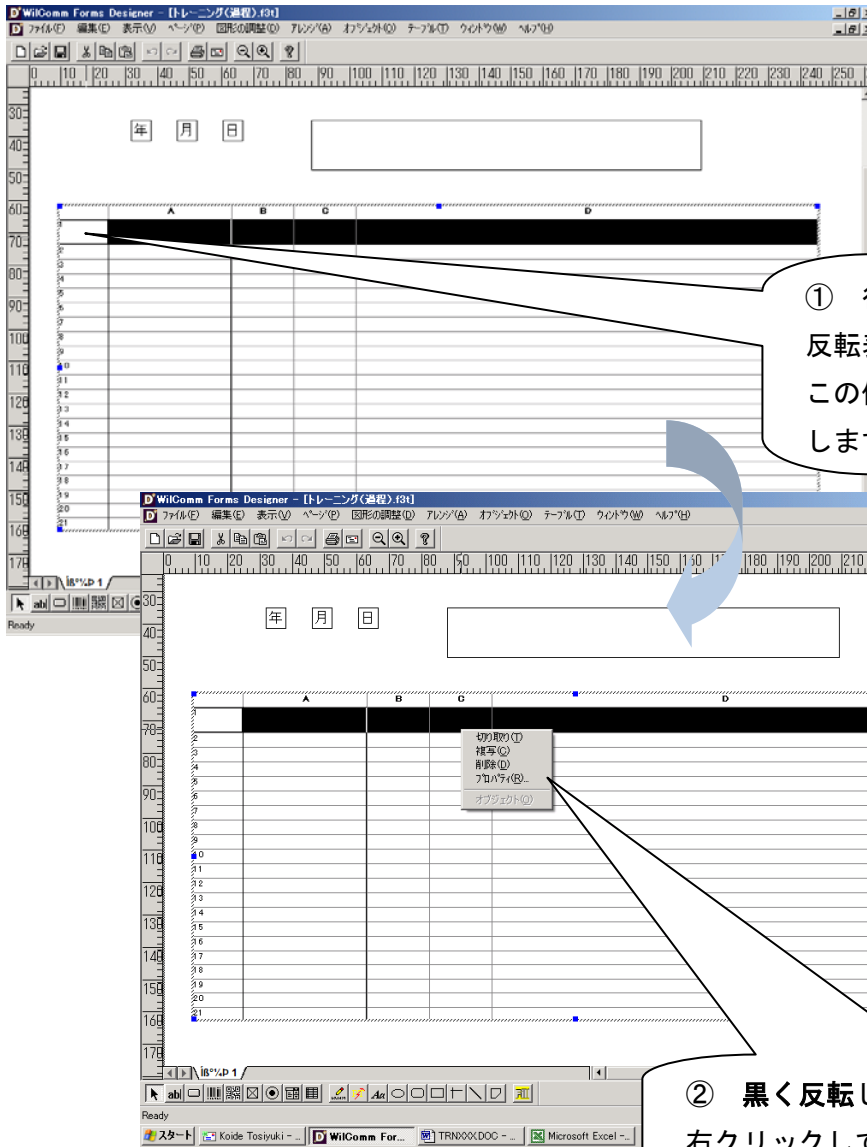
行の水平境界線を設定するコツは、最上の(1行目)のみ、上下境界線を指定し、それ以外の行は、下境界線のみを指定することです。

確認できましたら、再度グリッドライン表示に戻してください。

行のプロパティ

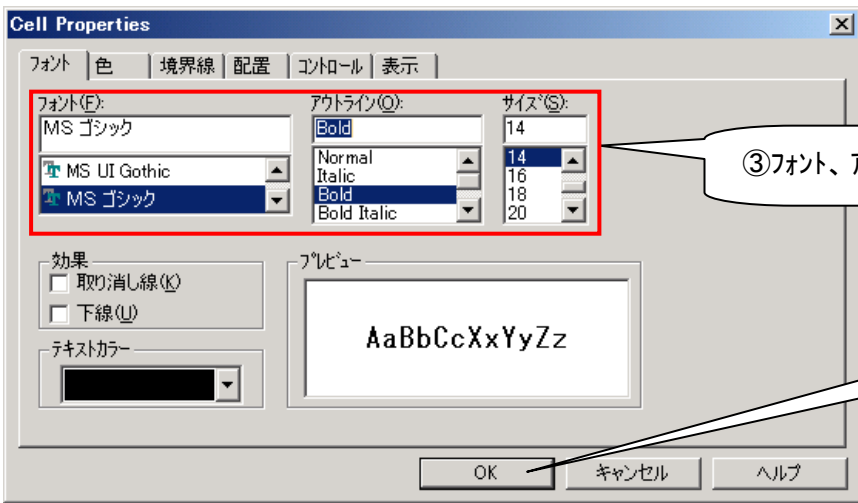
行単位で境界線以外のプロパティを設定してみましょう。

テーブルフィールド変数の1行目には、スプールデータの明細部におけるタイトル名をマッピングする予定なので、タイトルであることを少し強調してみましょう。2行目以降よりもフォント・サイズを大きくします。



① 行見出しをクリックし、対象の行を黒く反転表示させます。
この例は、行見出しの「1」の部分をクリックします。(1行目)

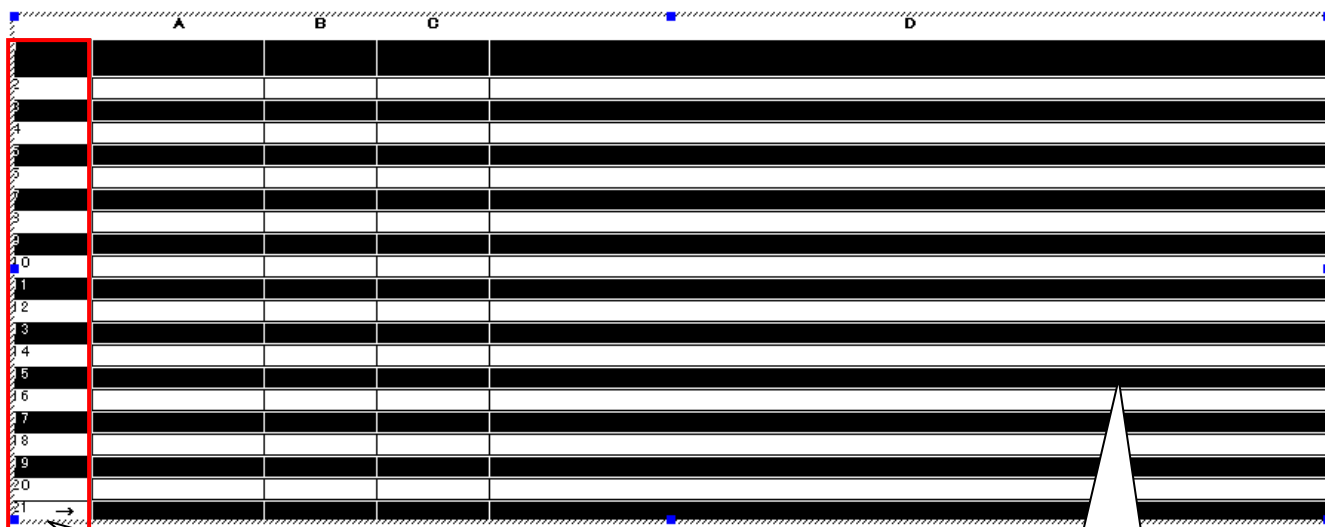
② 黒く反転したエリアにカーソルを合わせ、右クリックしてプロパティを選択します。



③ フォント、アウトライン、サイズを指定します。

④ [OK] を押します。

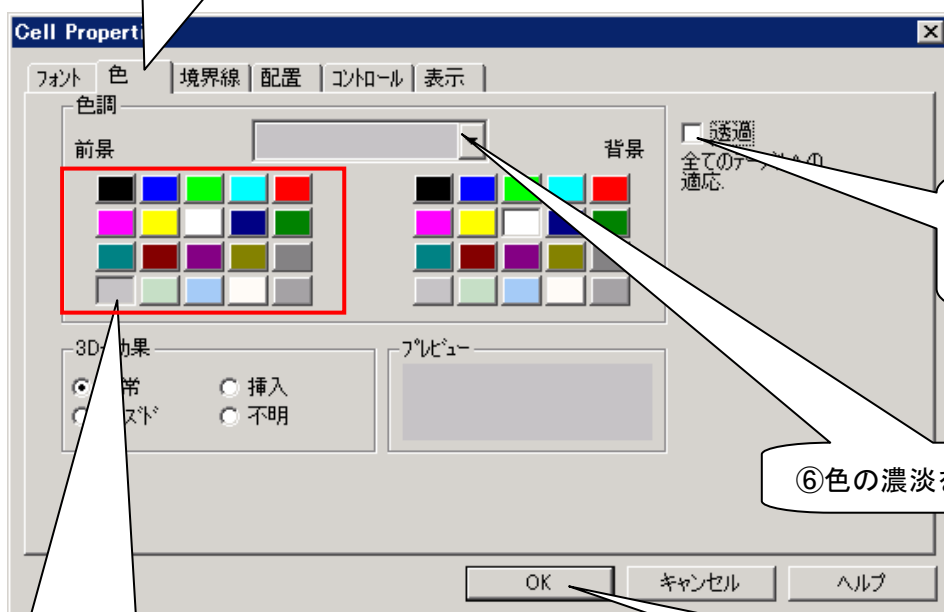
更に、奇数行に背景色を指定して、網掛け効果を与えてみましょう。



① Ctrl キーを押しながら、奇数の行見出しをクリックし、対象の行を黒く反転表示させます。
1行おきに行を黒く反転表示させてください。

② 黒く反転したエリアにカーソルを合わせ、右クリックしてプロパティを選択します。

③ 「色」タブを選択します。

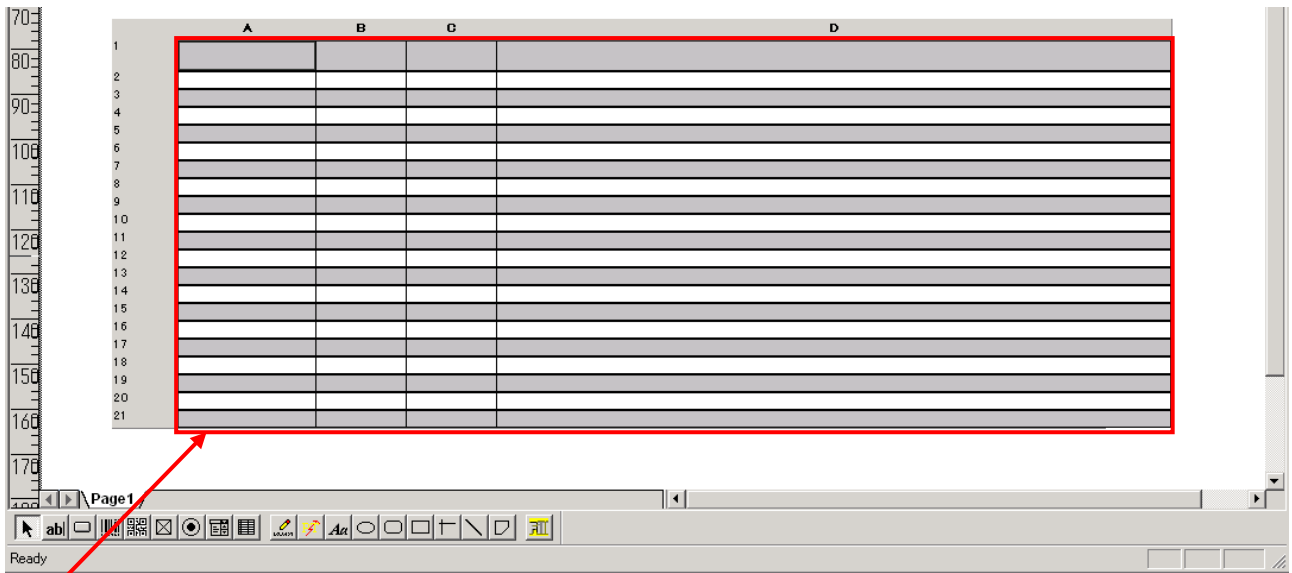


④ 透過のチェックを外します。

⑥ 色の濃淡を選択します。

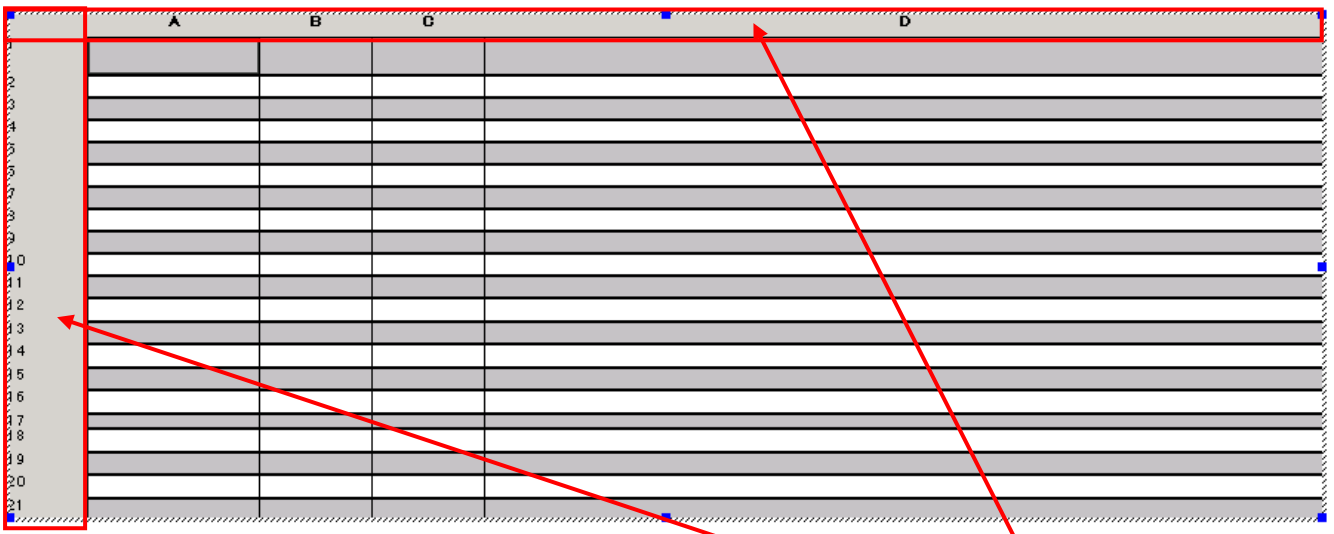
⑤ 前景から色を選択します。

⑦ [OK] を押します。

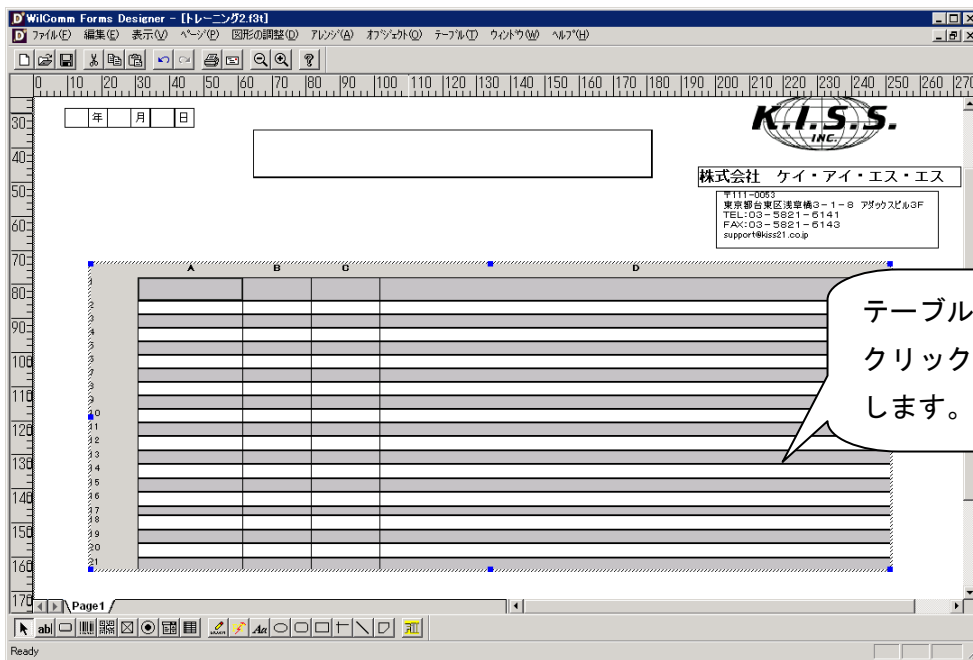


網掛け効果を確認してください。

テーブルフィールド変数の仕上げ

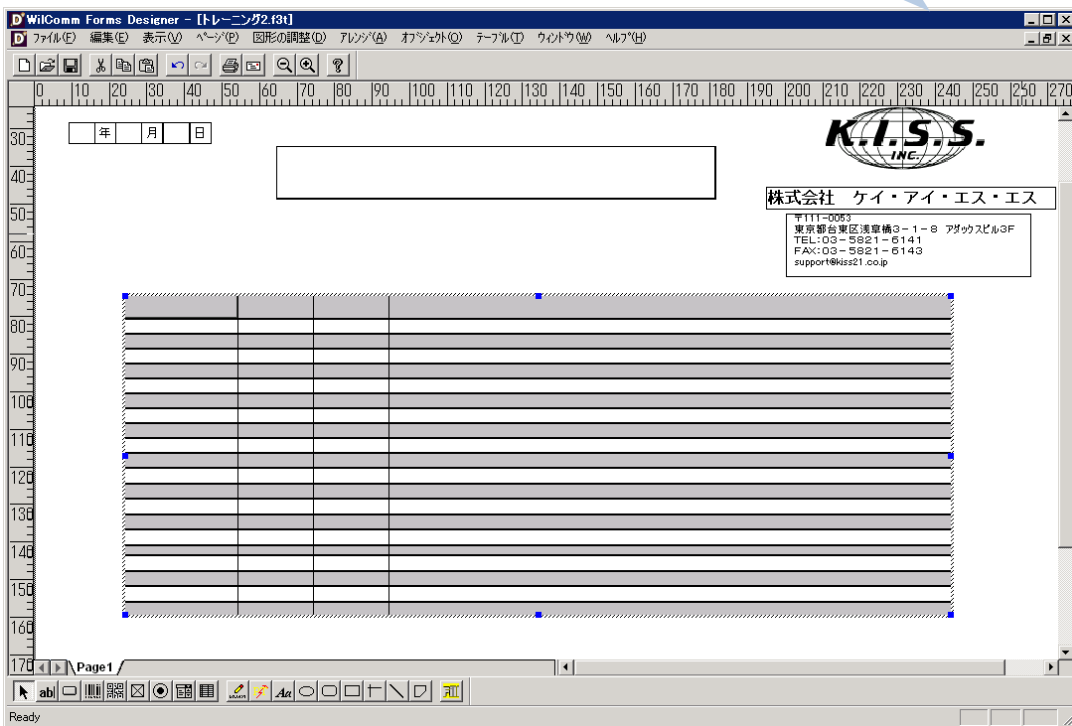


列単位、行単位、セル単位にプロパティを確定しましたら、最後に**行見出し**、**列見出し**を非表示にします。





[テーブル] → [列] → [ヘッダー]
のチェックをはずします。

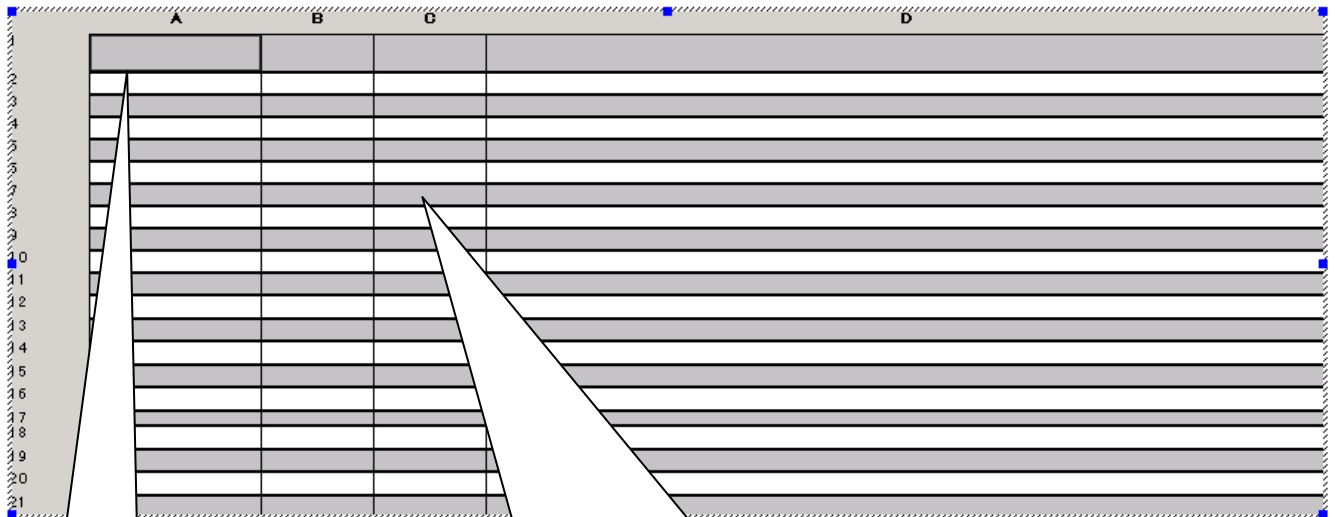


テーブルフィールド変数の完成です。

<<補足>> セル単位のプロパティ

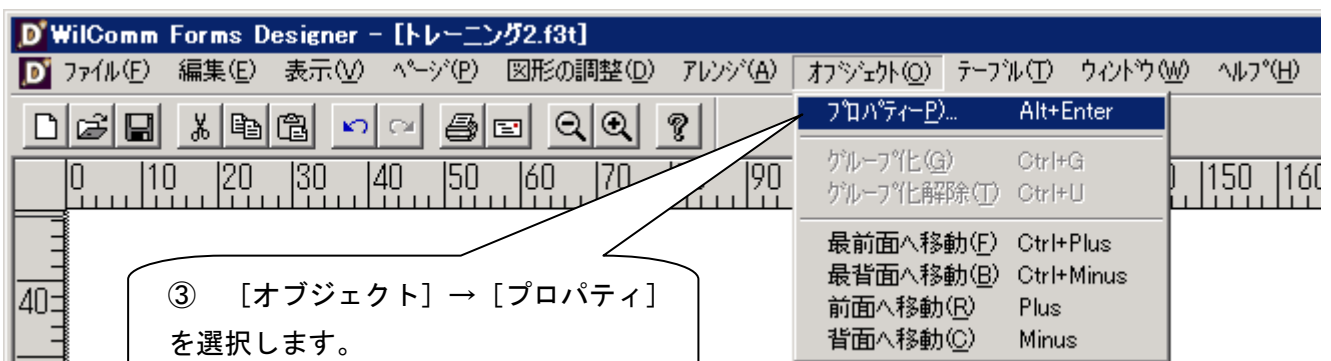
セル単位にプロパティを設定する事も可能です。

ある特定のセルにマッピングされる値だけ、フォント・フォントサイズ・色などを強調したい場合があるかも知れません。その場合は、対象のセルだけのプロパティを設定することができます。



① 最初、セル「A1」にセルがフォーカスされています。

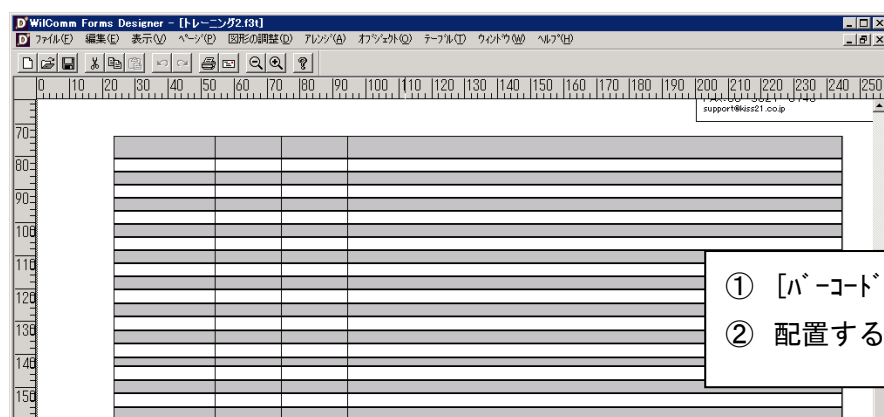
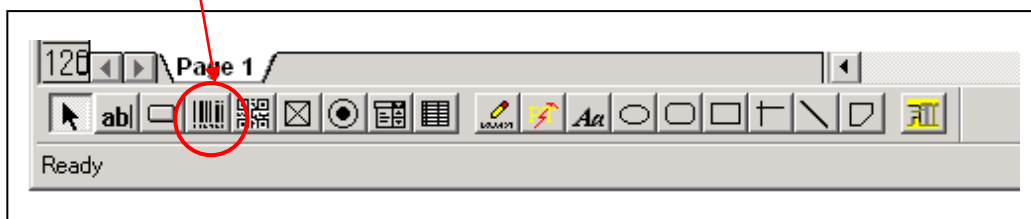
① 対象のセルをクリックして選択します。
或いは←↑→↓キーを使って、セルのフォーカスを移動させて、目的のセルに移動します。
セル「C7」のプロパティを設定したい場合は、ココにフォーカスを移動してください。



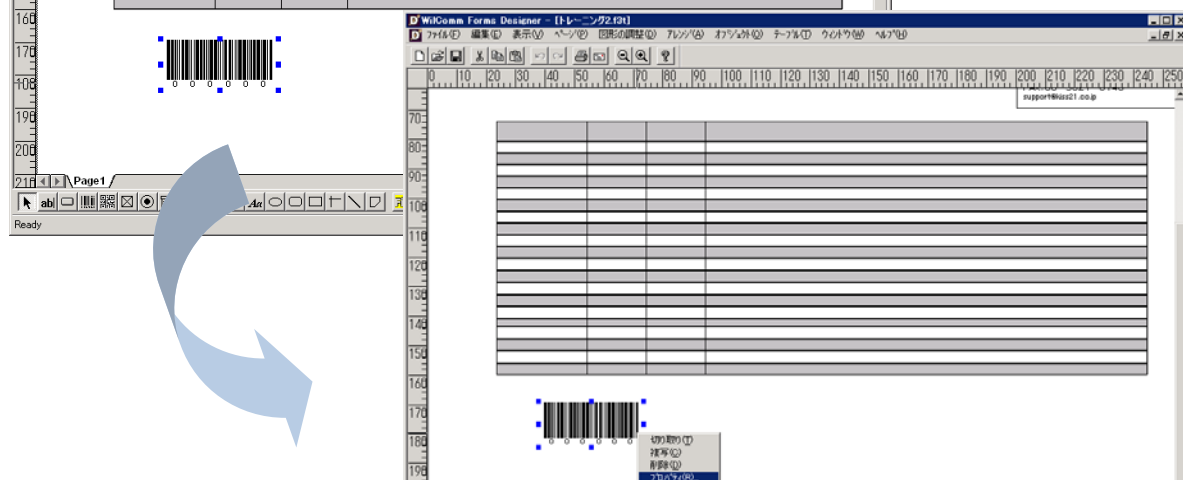
③ [オブジェクト] → [プロパティ] を選択します。

セルのプロパティの設定要領は、行のプロパティと同様です。

画面下の [バーコード・ツール] ボタンをクリックし、バーコードを配置したい場所でドラッグします。

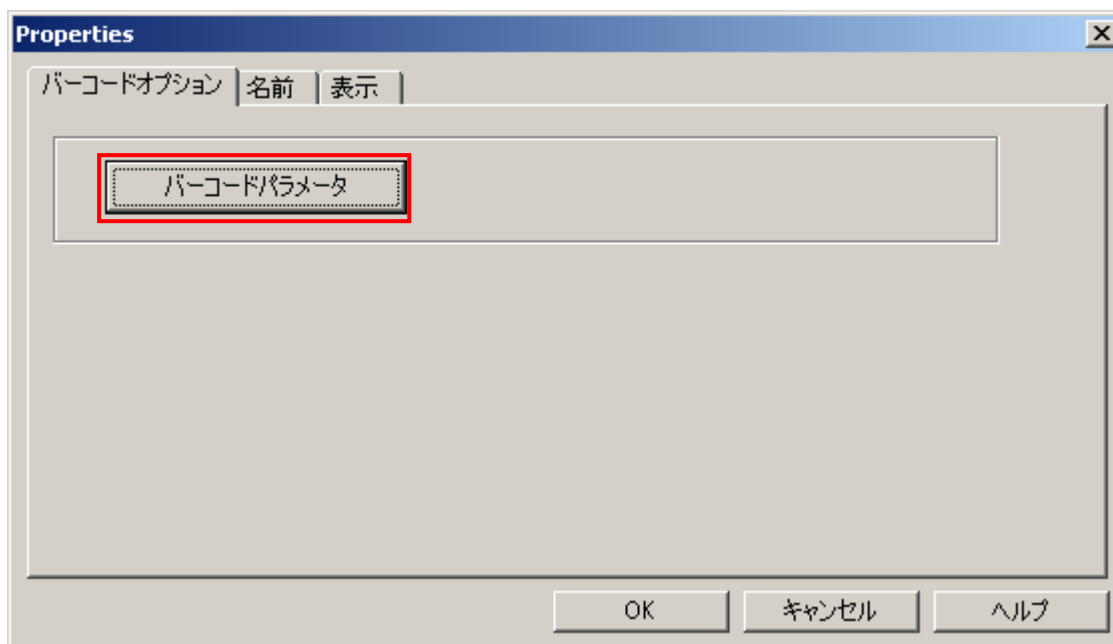


- ① [バーコード・ツール] ボタンをクリック
- ② 配置する場所にドラッグ

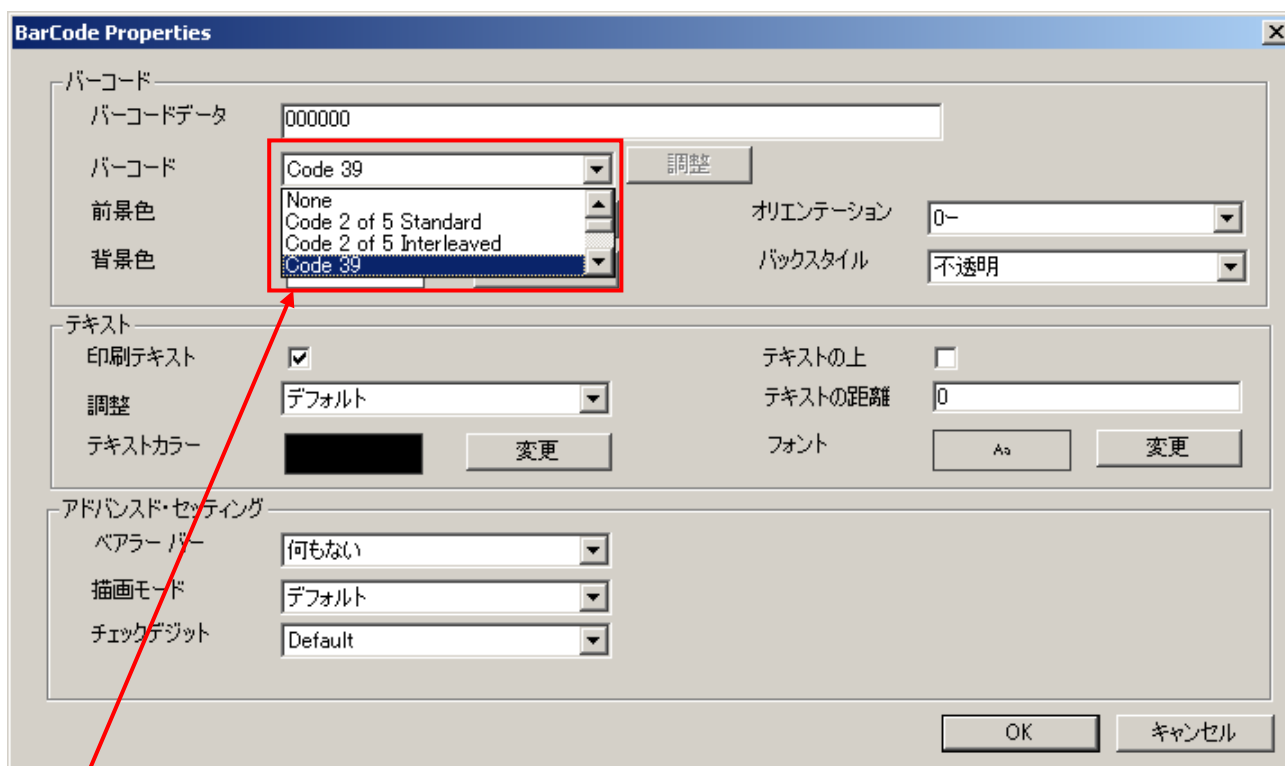


- ③ 作成したエリアにカーソルを合わせ、右クリックからプロパティを選択します。

バーコードのプロパティ



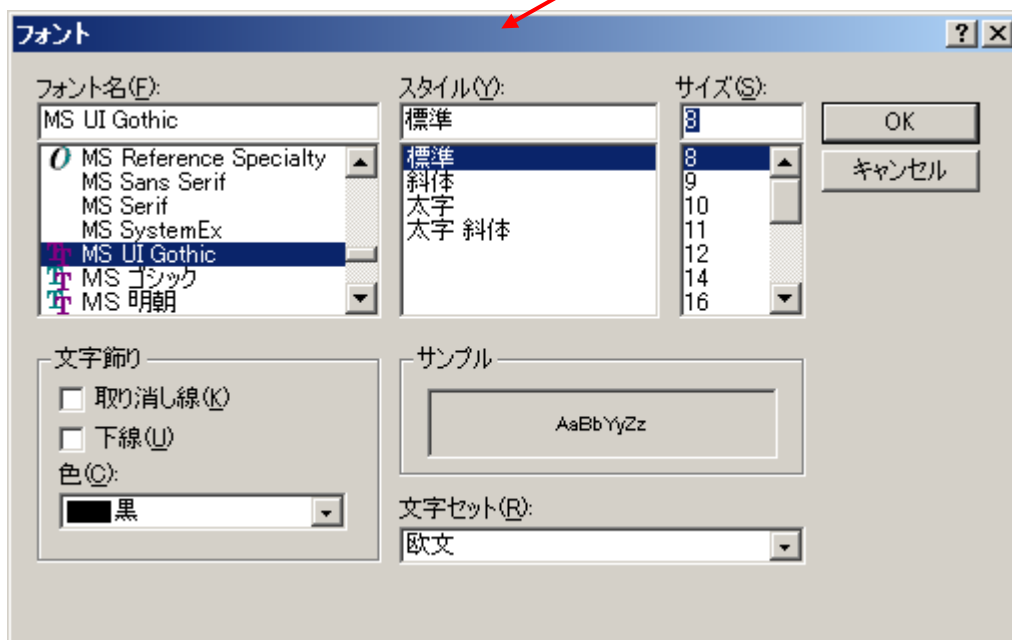
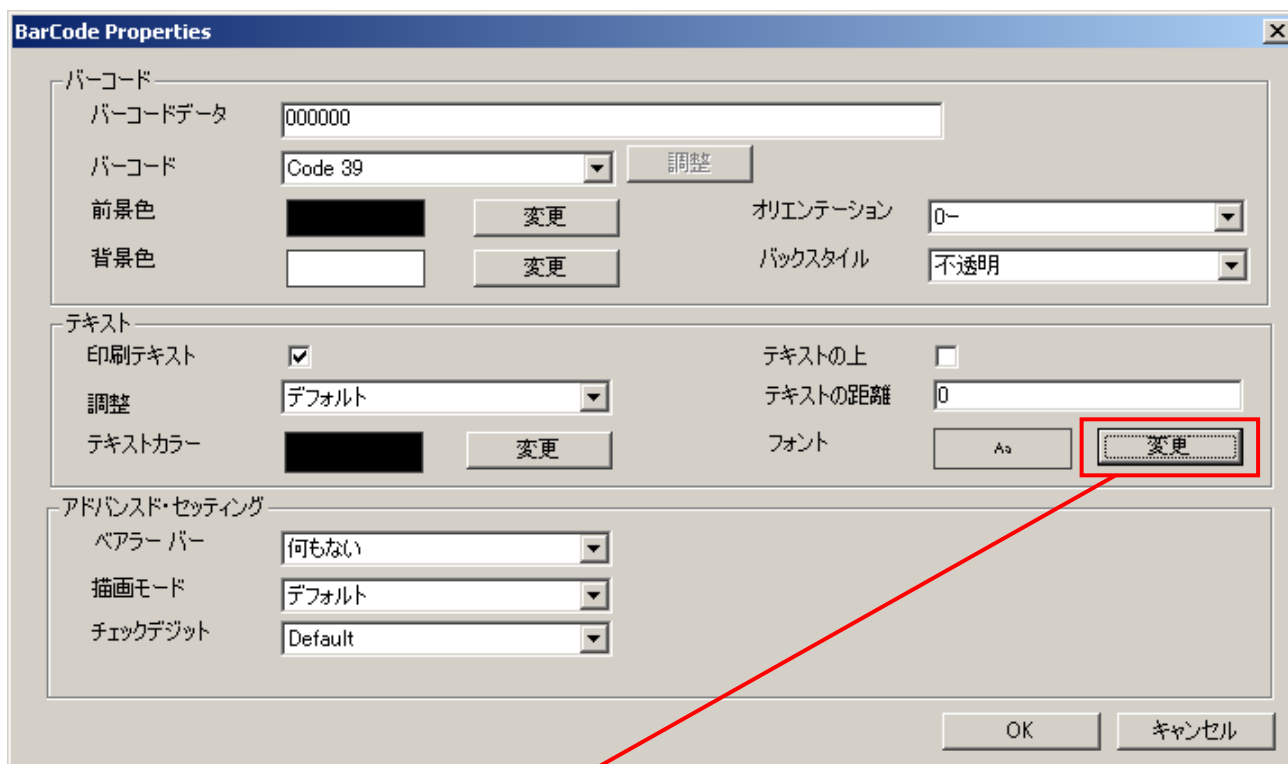
バーコードの外観を設定するために、バーコードパラメータボタンをクリックします。



バーコードの種類を、[バーコード]のドロップダウン・リストから選択してください。
ここでは、一般的な「Code 39」を選択しましょう。



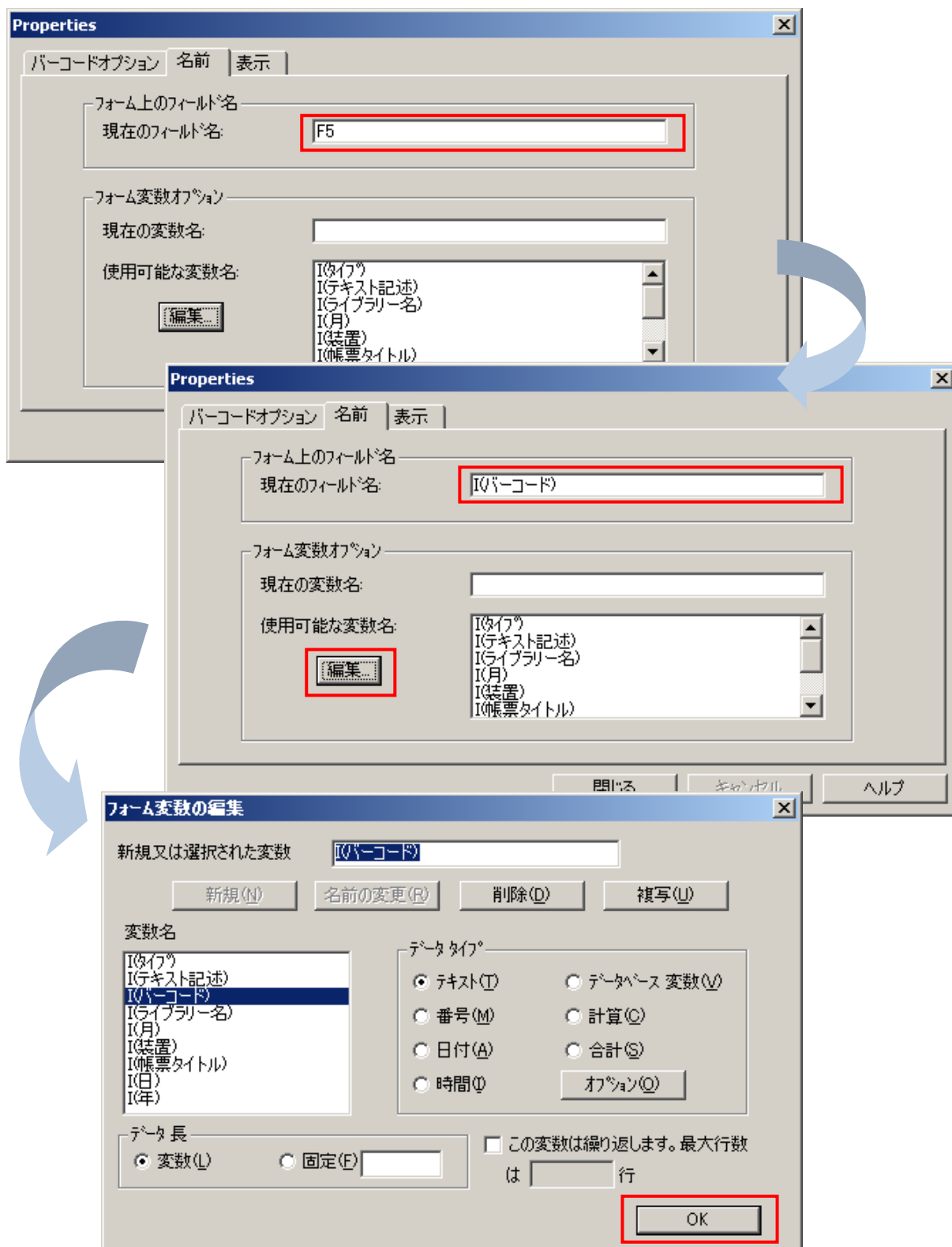
バーコード下に表示されるバーコードが示す値のフォント設定は、[フォント]の変更ボタンをクリックして表示される、フォント選択ダイアログ画面で行います。



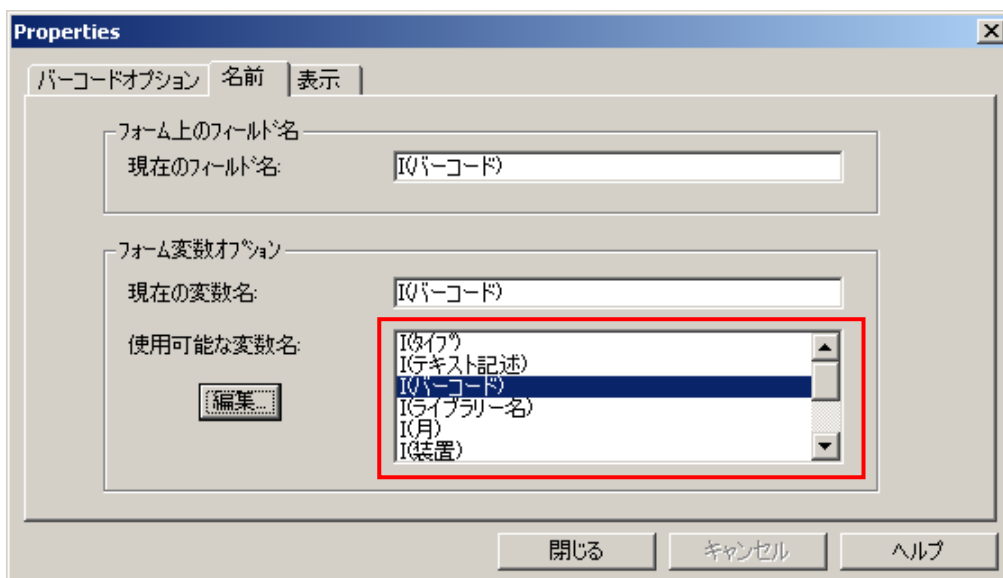
バーコード変数にもフィールド名の設定を行います。

単一フィールド変数と同様の手順で、バーコード変数を命名してください。

I(バーコード) と命名しましょう。



バーコード変数名が、使用可能な変数名一覧に追加されたことを確認してください。



バーコードの設定は以上です。

2-7 作成したフォームの保管

フォーム作成は、ウィルコム・サーバーで行っていますか？
それとも、クライアント PC で行っていますか？

クライアント PC の場合、作成したフォームの保管先フォルダーの指定はありませんので、自由に保管先を決めてください。

ウィルコム・サーバーの場合は、必ず以下のフォルダーに保管してください。（ドライブ名は、環境によって読み替えてください）

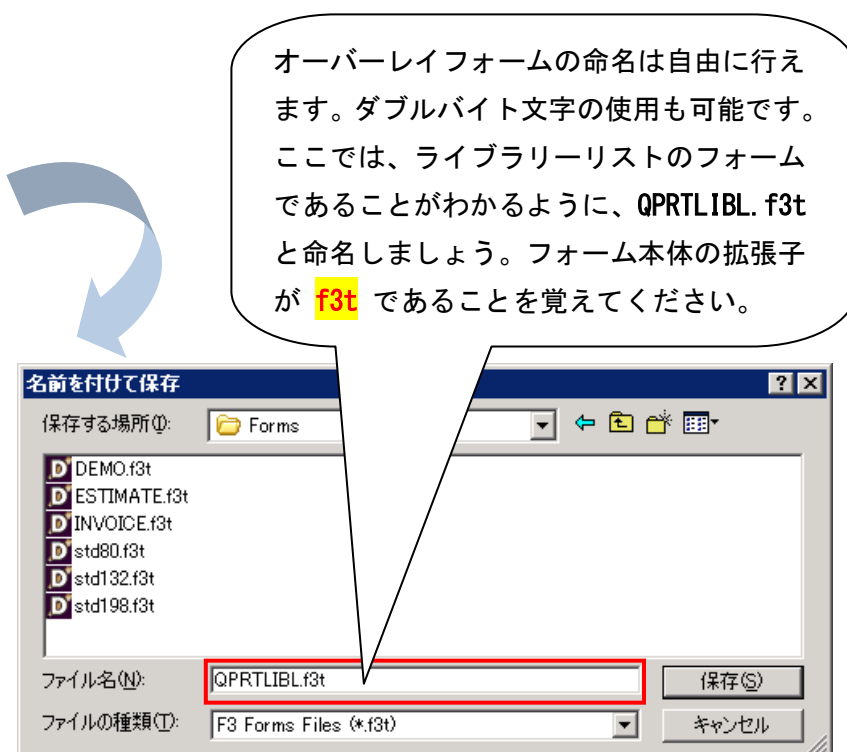
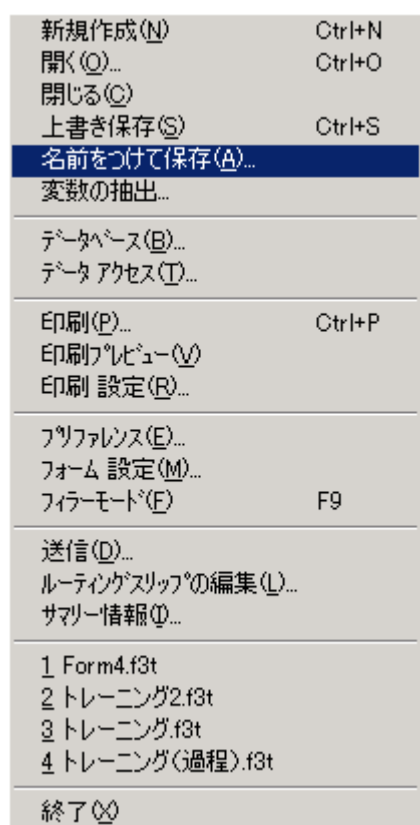
[32bit 版 Windows]

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Forms

[64bit 版 Windows]

C:\Program Files (x86)\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Forms

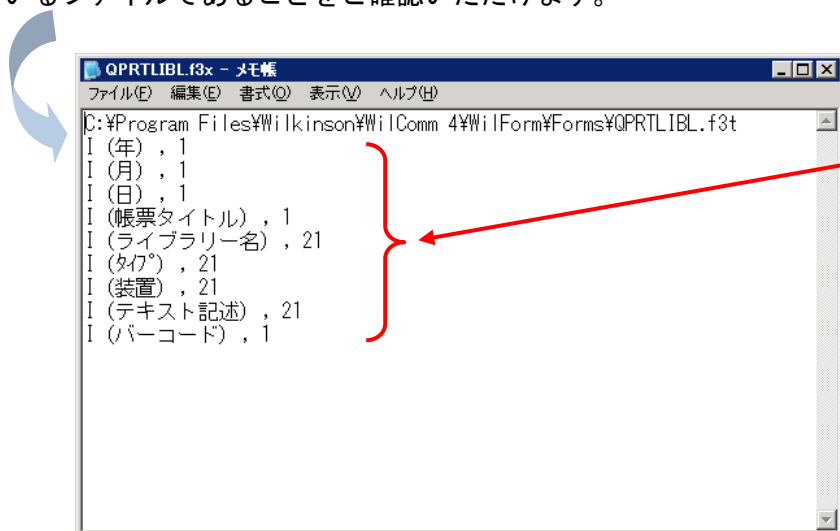
ツールバー「ファイル」→「名前をつけて保管」を選択します。



オーバーレイフォームが拡張子「f3t」と、変数ファイルが拡張子「f3x」が保管されました。

拡張子「f3t」と「f3x」は、常にセットで管理されます。

拡張子「f3x」は、メモ帳などのテキストエディタで開くことができます。フォーム上に定義した変数名を管理しているファイルであることをご確認いただけます。



このレッスンで作成した単一フィールド変数、テーブルフィールド変数、バーコード変数に命名した変数名が拡張子「f3x」の変数ファイルに格納されています。

この変数ファイルは、次のレッスン (Lesson-7) で使用されます。

オーバーレイフォームの保管は、常にこの2つのファイル保管操作が必要であることを忘れないでください。

上記の他に、拡張子「f3y」と「f3z」のファイルが作成されますが、これらのファイルは、今後の拡張機能向けのファイルですので、現在は使用いたしません

オーバーレイフォームの命名に関しては、ある程度の標準化を考慮してください。このフォームは何のフォームなのかが、目視で確認できることが望ましいでしょう。

ホストでスプールデータを生成するプログラム ID と同じ名前とするのは、1つの命名規則です。

次のレッスン(Lesson-7)では、このレッスンで作成したオーバーレイフォームに、スプールデータをどのようにマッピングするかを解説しています。その際にも、マッピング定義が、1つのファイルとして保管されます。

フォーム A のマッピング定義は、フォーム A という同じ名前でも管理したほうが、わかりやすいでしょう。

したがって、関連するファイルはすべて同じ名称で保管し、セットとして管理するのが良いでしょう。

関連するファイルは、それぞれ拡張子が異なります。

オーバーレイフォーム = **f3t**

変数ファイル = **f3x**

マッピング定義ファイル = **fmp**

サンプルスプールファイル = **map** (Lesson-4 で作成済みです)

2-8 作成したフォームのレイアウトの確認（フィルターモードの表示）

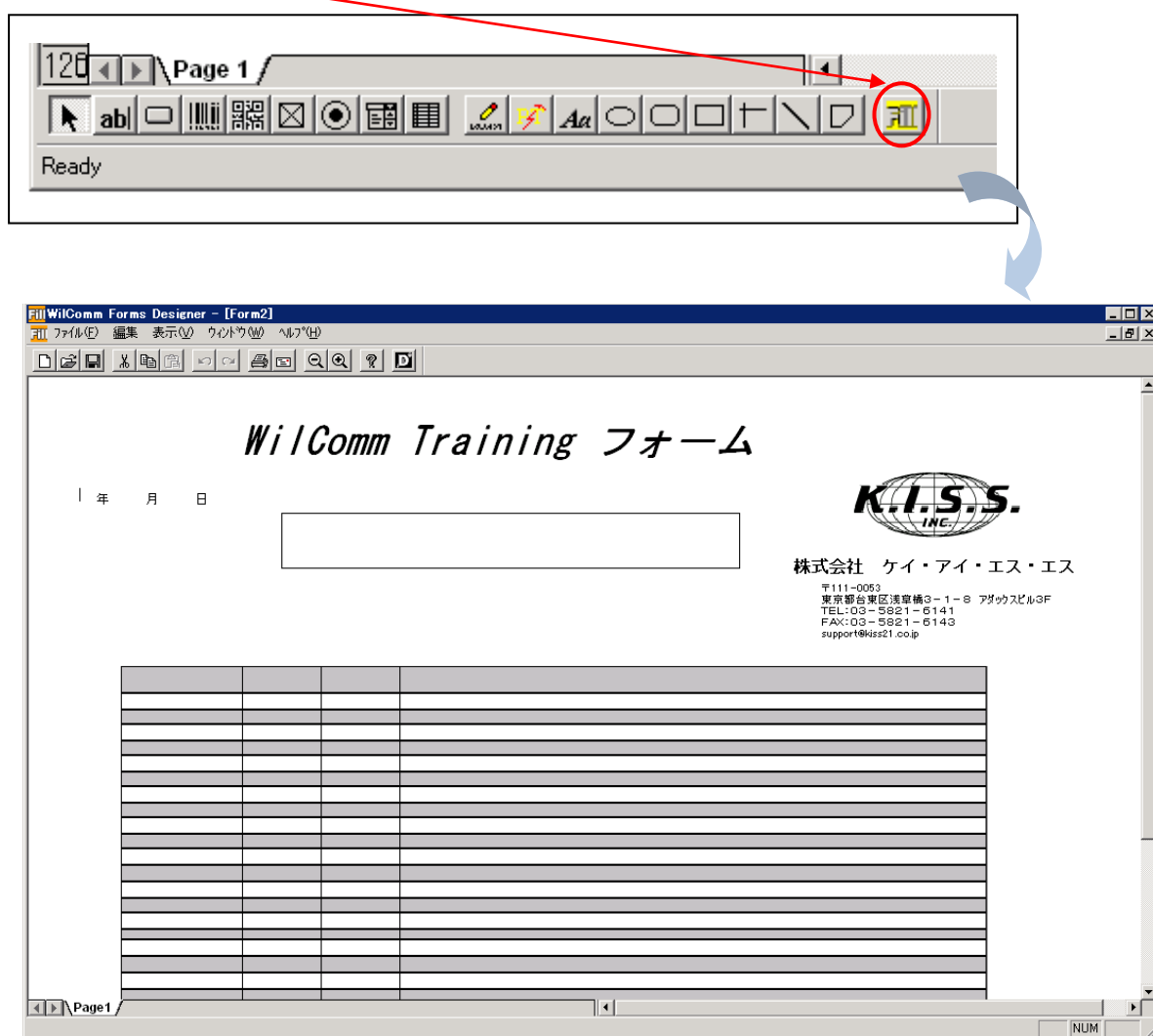
ライブラリーリストを出力するためのオーバーレイフォームは、ほぼ完成しました。

ここまで作成してきたフォームに、実際にスプールデータがマッピングされた際のイメージを確認して、微調整をしたいかもしれません。フォーム上に設定した**単一フィールド変数**、**テーブルフィールド変数**、**バーコード変数**に仮の文字列を入力することで、実際の出カイメージを確認することができます。

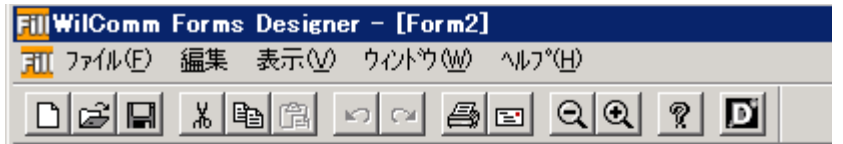
これまでの開発環境は、フォームデザイナ－の**デザインモード**と呼ばれますが、出カイメージを確認するモードは、**フィルターモード**と呼ばれます。

では、フィルターモードにしてみましょう。

画面下の**「フィルターモード」**アイコンをクリックし、レイアウトのプレビュー画面を表示します。



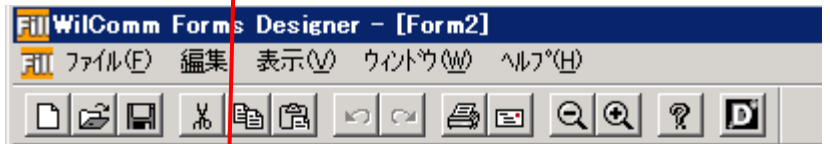
フィルターモードでは定義したフィールド変数に文字を入力する事ができます。
設定された文字フォント・サイズ、配置などを確認します。



WilComm Tr

| 年 月 日

カーソル位置で、直接値を入力します。
Tab キーで次の変数に移動できます。



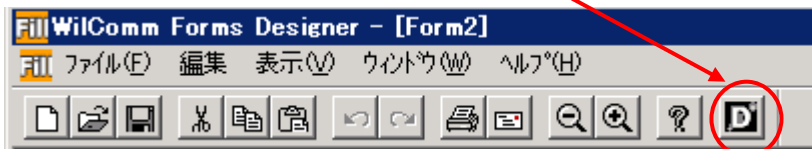
WilComm Tr

77 年 88 月 99 日

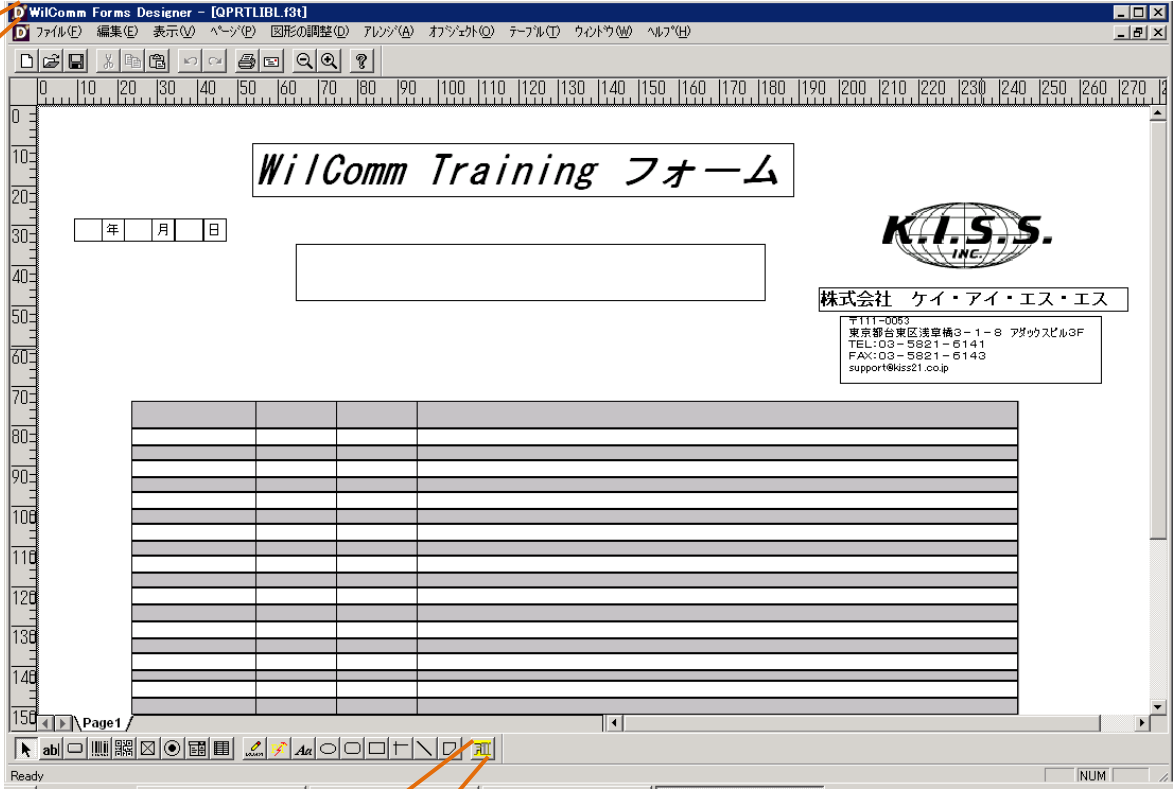
変数のプロパティに指定したフォント・サイズ・色などが確認できます。

他の単一フィールド変数、テーブルフィールド変数についても、確認してください。

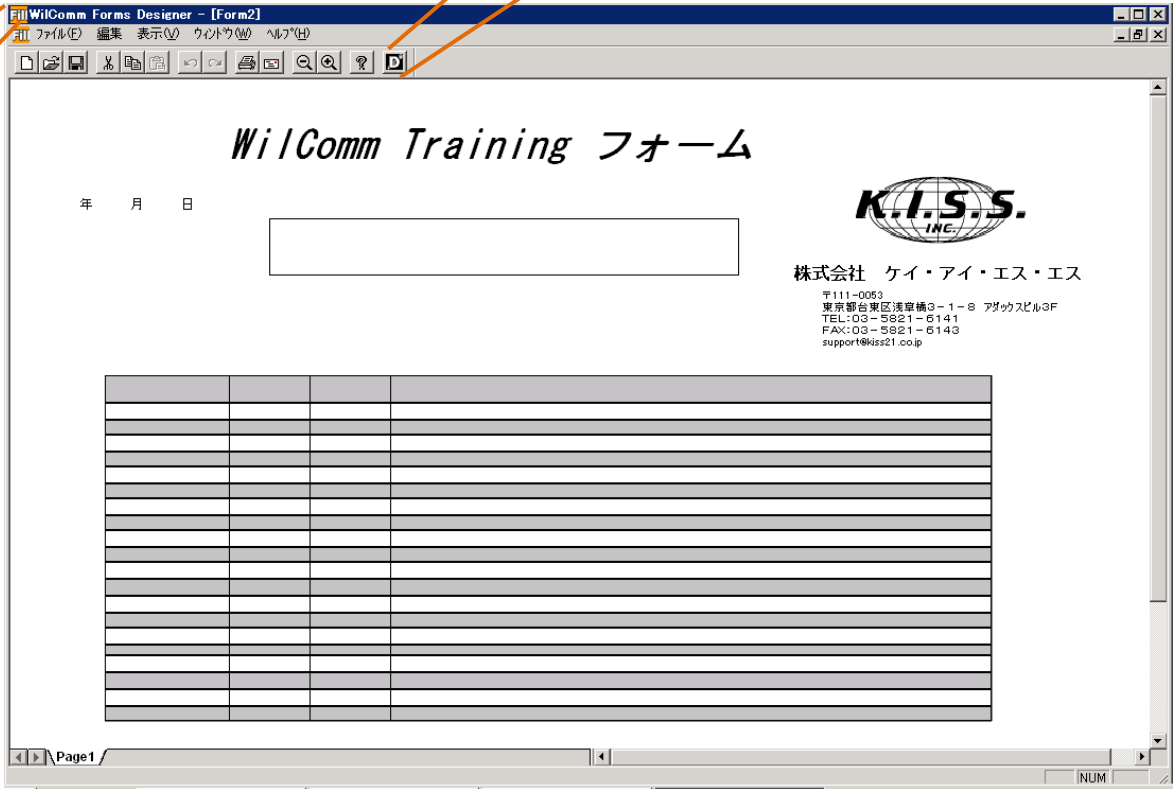
確認が終了しましたら、**フィルターモードからデザインモード**に戻ってください。



デザインモード



フィルターモード



モード切り替え

(注意)

フォームデザイナーを終了する時、フォームを保存する時は、必ず**デザインモード**で行ってください。

オーバーレイフォームは完成しました。お疲れ様でした。